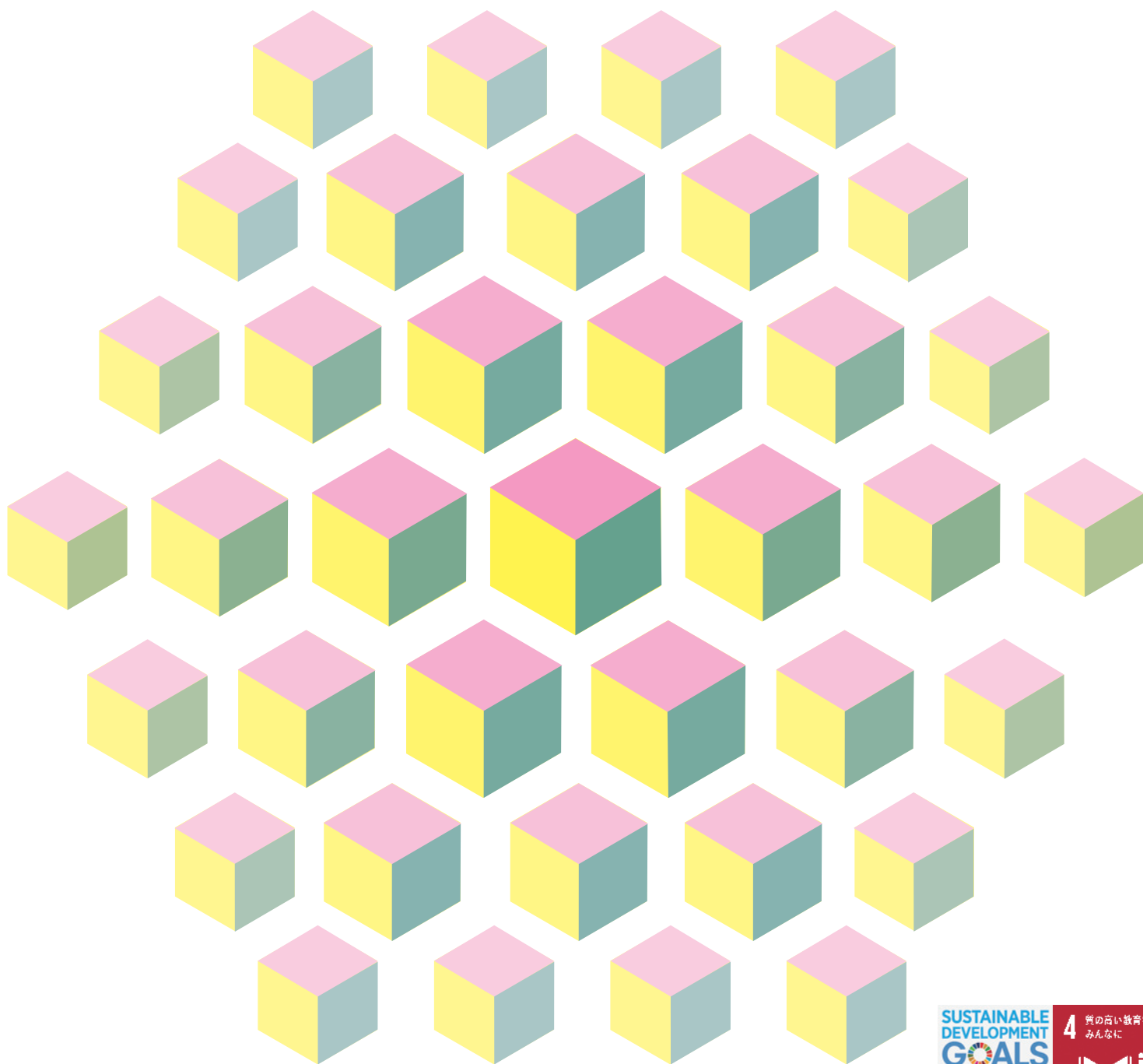


商工会議所 キャリア教育活動白書 Vol.4

～若者の地元定着とプログラミング教育の拡大を～



日本商工会議所

The Japan Chamber of Commerce and Industry

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

8 働きがいも
経済成長も



4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



商工会議所キャリア教育活動白書 Vol.4

～若者の地元定着とプログラミング教育の拡大を～

目次

はじめに	2
1. 商工会議所とキャリア教育活動	3
(1) 政府におけるキャリア教育推進の経緯	3
(2) 商工会議所におけるキャリア教育活動推進の経緯	3
(3) 商工会議所におけるキャリア教育活動の現状・課題	4
2. 商工会議所におけるキャリア教育活動の好事例	10
① 産学連携による「十勝学講座」で産業人材を育成 【帯広商工会議所（北海道）】	10
② 「ロボット・ワークショップ」によるプログラミング能力の育成 【弘前商工会議所（青森県）】	11
③ 「いわきアカデミア」事業による若者の地元定着の促進 【いわき商工会議所（福島県）】	12
④ 先端技術に触れる「ものづくりフェア」を通じたイノベーション人材の育成 【松本商工会議所（長野県）】	13
⑤ 地（知）の拠点校との連携協定に基づく人材育成事業 【前橋商工会議所（群馬県）】	14
⑥ インターンシップ・採用情報の発信等を通じた企業と若者のマッチング 【東京商工会議所（東京都）】	15
⑦ 熊野の林業を学ぶ「体験遠足」と魅力を再発見する「熊野サミット」 【熊野商工会議所（三重県）】	16
⑧ 自動車教習合宿の県外大学生に着目した地域魅力発見バスツアー 【小浜商工会議所（福井県）】	17
⑨ 会社経営を体験し、働くことの楽しさを知る「キッズカンパニー」 【鯖江商工会議所（福井県）】	18
⑩ リカレントキャリア教育で“しごと”と“ひと”を呼び込む「移住創業」 【佐世保商工会議所（長崎県）】	19
⑪ 働く意義や延岡市の魅力を伝える「よのなか教室」 【延岡商工会議所（宮崎県）】	20
⑫ 「企業ガイドブック」で地域の魅力を発信し地元就職を促進 【気仙沼商工会議所（宮城県）／いわき商工会議所（福島県）／静岡商工会議所（静岡県）／ 徳山商工会議所（山口県）／伊万里商工会議所（佐賀県）／日向商工会議所（宮崎県）】	21
3. 「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」集計結果	22
(1) 調査概要	22
(2) 集計結果の概要	23
(3) キャリア教育活動実施商工会議所数等の推移	24
(4) キャリア教育活動の実施目的	24
(5) 地区内人口別キャリア教育活動の実施率等	25
(6) ブロック別キャリア教育活動の実施率等	26
(7) 実施内容別の活動数と特徴	26
(8) インターンシップの推進と課題	27
(9) 助成金の有無	31
(10) キャリア教育活動に対する評価	32
(11) 商工会議所が取り組むキャリア教育活動に関する主な意見	32
(12) キャリア教育活動実施商工会議所一覧	33
4. キャリア教育活動推進のための参考資料	50

はじめに

わが国経済は、個人消費が依然力強さを欠き、米中貿易摩擦などの海外リスク要因も不透明感を増す中で、総じて穏やかな回復基調を維持しており、もはやデフレではない状況に達したと言えます。しかしながら、わが国は、「人口減少」と「地方の疲弊」という構造的な問題を抱えており、とりわけ地方においては、労働力人口の減少が深刻化しています。わが国の持続的な成長を実現するためには、地方の魅力向上と若者の地元定着が喫緊の課題となっています。

こうした状況の中、現在わが国においては、IoT、AI、ロボット、ビッグデータなど先駆的な技術を用いた“第4次産業革命”による超スマート社会（Society 5.0）づくりが急速に進展しつつあります。社会構造の革新的変化が見込まれる中で、日本の未来を担う若者には、広い視野を持って社会を展望し、地域の中核人材や起業家として活躍していくことが求められており、職業観を醸成し、社会を生き抜くためのより実践的な社会人基礎力やリーダーシップを育む「キャリア教育」の重要性がますます高まっております。

日本商工会議所では従前より、「教育は学校現場だけでなく、社会総がかりで行うもの」との理念のもと、全国各地の商工会議所における教育支援・協力活動の普及・推進に努めており、地域におけるキャリア教育活動の取り組みは着実に増え続けております。また、第4次産業革命を牽引する人材の育成に向け、国に先駆けてプログラミング教育を実施する先進的な商工会議所や、地方への若者の定着を促進するため「地方創生インターンシップ」に力を入れる商工会議所が増加するなど、活動の内容が拡充・進化してきています。こうした活動は社会から高く評価されており、経済産業省・文部科学省が主催する「キャリア教育アワード」や「キャリア教育推進連携表彰」において、これまで数多くの商工会議所が顕彰されています。

日本商工会議所教育委員会では、こうした各地商工会議所が取り組むキャリア教育活動の見える化と、好事例の全国への横展開を目的に、このたび第4刊目となる「キャリア教育活動白書」を取りまとめました。商工会議所における活動の現状を整理し、12の好事例を紹介するとともに、重要となるポイントや特徴を分析しております。各地におけるキャリア教育支援の具体的な取り組みを推進していただく一助として、本書をご活用いただければ幸いです。

末筆ながら、本書の作成にあたり、アンケート調査および事例の掲載にご協力賜りました各地商工会議所の皆様に心より御礼申し上げます。

2019年2月

日本商工会議所
教育委員会

委員長 岩田 圭剛



商工会議所とキャリア教育活動

(1) 政府におけるキャリア教育推進の経緯

わが国におけるキャリア教育は、1999年12月に中央教育審議会が取りまとめた「初等中等教育と高等教育の接続の改善について（接続答申）」において、「キャリア教育」という言葉が公的に初めて用いられたことに始まる。答申では、新規学卒者のフリーター志向の広がりや、就職後3年以内の離職率の高さから、学校教育と職業生活との接続に課題があることが指摘され、学校と社会および学校間の円滑な接続を図るためのキャリア教育を小学校段階から発達段階に応じて実施することが必要であるとされた。

続いて、2011年1月には、中央教育審議会が「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方」を答申。キャリア教育の定義を「社会的・職業的自立に向け、必要な知識・技能・態度を育む教育」とし、「学校と産業界をはじめとする地域の連携」によって推進されるべきであると提言した。

また、「第2期教育振興基本計画」（2013年6月閣議決定）では、幼児期の教育から高等教育まで各学校教育段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育の充実が必要との認識のもと、「職場体験・インターンシップ」等の体験型活動や、教育現場への社会人講師の派遣など、地域・社会と産業界との連携・協働による教育活動の重要性が示された。

さらに、「第3期教育振興基本計画」（2018年6月閣議決定）においても、今後5年間の教育政策の目標の1つとして「社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成」が掲げられ、その達成に向け、各学校段階において産業界と連携し、インターンシップ等のキャリア教育・職業教育を推進することが改めて明示された。

加えて、第4次産業革命を牽引する、高度な実践力とイノベーションを生み出す力を兼ね備えた人材を育成するため、2019年4月から新たな高等教育機関として、専門職大学・専門職短期大学が設置される。同大学では、卒業単位に占める企業現場での実習の割合が3分の1以上、専任教員に占める実務家教員の割合が4割以上とされ、社会人をブラッシュアップするリカレント教育も積極的に受け入れることになる。また、2020年からは、小学校においてプログラミング教育が必修化される。

このほか、このたび公表された中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（2018年11月）において、高等教育機関が人材育成のみならず、リカレント教育、共同研究の在り方、まちづくりなどについて、地域のニーズを踏まえて幅広く議論するための組織として「地域連携プラットフォーム（仮称）」を設置することが新たに提案され、商工会議所などの産業界や地方自治体等の積極的な協力への期待が表明されている。

以上のような経緯の下に、商工会議所をはじめとした産業界、関係省庁、地方自治体、地域社会が連携を強化しながら、キャリア教育の普及・促進に向けた様々な施策や取り組みが展開され、今日に至っている。

(2) 商工会議所におけるキャリア教育活動推進の経緯

第一次安倍政権は、わが国の最重要課題として「教育再生」を掲げ、2006年12月に60年ぶりに教育基本法の抜本改正を行った。

日本商工会議所は、この機会を捉え、2007年4月に「教育再生に関する意見」を取りまとめて政府に提出。本意見書において、教育再生は、学校現場のみならず、市民、企業、NPO法人、各種団体等による「社会総がかり」で取り組む必要があるとし、商工会議所がその中核的な役割をより一層担っていくことを呼びかけた。

この呼びかけを実践するため、日本商工会議所では、2008年度より各地商



政府の教育再生実行会議
(出典：首相官邸ホームページ)



受賞後のシンポジウムで
事例発表する日向商工会議所

工会議所におけるキャリア教育活動の取り組みの実態を調査し、新たなキャリア教育活動の企画や改善に向けた資料として公表してきている。特に、2012年度からは、調査結果とともに各地商工会議所の好事例等を「商工会議所キャリア教育活動白書」（隔年発行）として取りまとめ、好事例の見える化とともに、ノウハウの横展開とキャリア教育活動のさらなる拡充・進化に取り組んでいる。

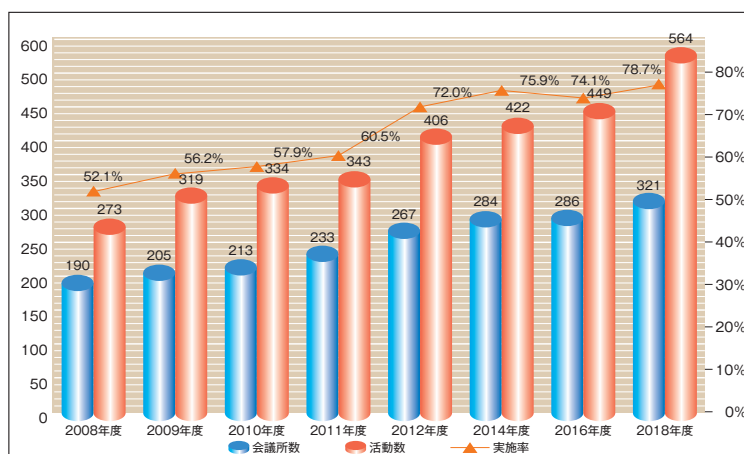
これら各地商工会議所の取り組みは社会から高く評価されており、「キャリア教育アワード」（主催：経済産業省）、「キャリア教育推進連携表彰」（主催：経済産業省、文部科学省）において、これまでに数多くの商工会議所や関係する商店街が顕彰されている。

(3) 商工会議所におけるキャリア教育活動の現状・課題

① キャリア教育活動の実施状況

2018年度に日本商工会議所が全国の515商工会議所に対して行った「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」では、回答があった408商工会議所のうち321商工会議所がキャリア教育活動を実施しており、実施率は約8割（78.7%）に達している。商工会議所が中心となった社会総がかりでの活動が全国各地に普及してきたことにより、実施している活動数は、調査を開始した2008年度から10年間で倍増（273件→564件）している（図1）。

【図1】 キャリア教育活動を実施している商工会議所数等の推移



地区内人口別の実施率等（図2）を見ると、地区内人口の多い商工会議所の実施率が高い傾向は2012年度調査から変わらないが、「20万人以上（90.9%）」、「10万人以上20万人未満（90.1%）」の商工会議所において、はじめて90%を超えた。特に地区内人口が「10万人以上20万人未満」の商工会議所における伸びが大きい（2016年度：56ヶ所→73ヶ所）。

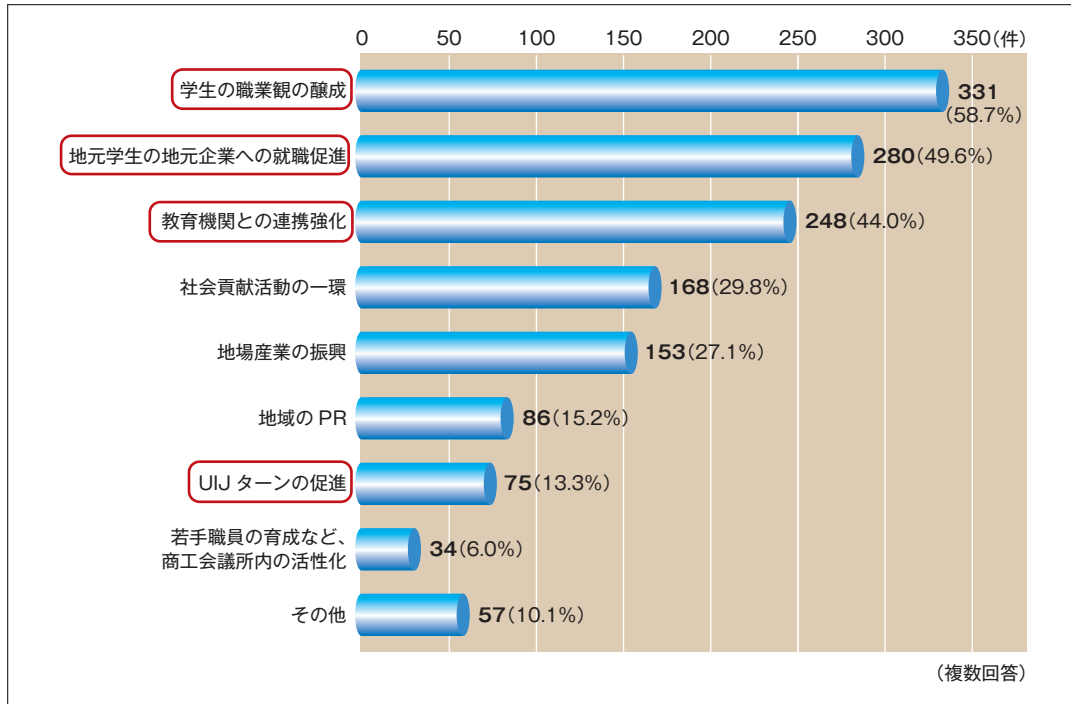
「5万人以上10万人未満」、「5万人未満」の小都市商工会議所において、調査を行うたびに実施商工会議所数が増加しており、地元の人材を定着させるための地方創生活動の一環として、商工会議所によるキャリア教育活動の輪が全国的に広がっている。

【図2】 地区内人口別キャリア教育活動の実施率等

	実施商工会議所数				実施率 (実施商工会議所数/回答数)				1商工会議所あたりの活動数			
	2012年度	2014年度	2016年度	2018年度	2012年度	2014年度	2016年度	2018年度	2012年度	2014年度	2016年度	2018年度
全体	267	284	286	321	72.0%	75.9%	74.1%	78.7%	1.5	1.5	1.6	1.8
20万人以上	61	72	67	70	84.7%	88.9%	85.9%	90.9%	1.9	1.7	2.0	1.9
10万人以上20万人未満	65	54	56	73	85.5%	74.0%	76.7%	90.1%	1.5	1.6	1.6	1.8
5万人以上10万人未満	69	71	72	85	74.2%	77.2%	80.0%	79.4%	1.4	1.4	1.5	1.8
5万人未満	72	87	91	93	55.4%	68.0%	62.8%	65.0%	1.4	1.3	1.2	1.6

実施目的（図3）を見ると、「学生の職業観の醸成」が331件（58.7%）で最も多く、次いで「地元学生の地元企業への就職促進」（280件、49.6%）、「教育機関との連携強化」（248件、44.0%）の順となっている。「UIJターンの促進」も75件（13.3%）ある。

【図3】 キャリア教育活動の実施目的



②実施内容別の活動数と特徴

商工会議所が行うキャリア教育活動の実施内容別の活動数（図4）を見ると、これまでと同様、「インターンシップ・職場体験」が最多（229件）で、全体の40.6%を占める。

2016年度と比較すると、「地元大学との連携(人材育成等)」(10.7%→12.1%)や「各種講座・授業の開催」(8.9%→10.8%)、「商い体験」(5.6%→8.5%)、「行政等の教育に関する委員会等に委員を派遣」(5.8%→6.6%)などの割合が増加している。特に、職業観を醸成する商い体験が高い伸びを示し、人気となっている。

〈特徴〉

とりわけ、特徴的な活動として、第4次産業革命を牽引する人材を育成するため、政府の動きに先駆けた「プログラミング教育」の実施や、「ドローンの出前授業」、「ロボットコンテスト」など、デジタル社会に対応した活動が広がり始めている。

また、観光をしながら地域の魅力や地元企業を知ってもらう「キャリア教育観光」といった商工会議所ならではの新しいジャンルの活動がスタートしている。

さらには、若者の地元定着やUIJターンの促進を目的に、地元企業の情報や地方で暮らす魅力などを見える化した「企業ガイドブック」の発行や、地元大学の学食に企業の人事担当者が出向き、学生とランチをとりながら交流する「モグジョブ」などのユニークな取り組みもある。

このほか、宮崎県内では、日向商工会議所が始めたキャリア教育支援センターにおける「よのなか教室（社会人講師（よのなか先生）が働くことの意義や地域の魅力を伝える）」事業が好評で、県内の商工会議所に順次横展開されている。

【図4】 実施内容別の活動数等

	2012年度		2014年度		2016年度		2018年度	
	活動数	構成比	活動数	構成比	活動数	構成比	活動数	構成比
インターンシップ・職場体験	225	55.4%	205	48.6%	200	44.5%	229	40.6%
地元大学との連携（人材育成等）	31	7.6%	21	5.0%	48	10.7%	68	12.1%
各種講座・授業の開催	20	4.9%	31	7.3%	40	8.9%	61	10.8%
教育機関への社会人講師の派遣	36	8.9%	48	11.4%	47	10.5%	53	9.4%
商い体験	24	5.9%	24	5.7%	25	5.6%	48	8.5%
行政等の教育に関する委員会等に委員を派遣			29	6.9%	26	5.8%	37	6.6%
教育機関（教育委員会等）への参画	13	3.2%	14	3.3%	17	3.8%	15	2.7%
民間企業等への教員の受け入れ	4	1.0%						
民間人校長の推薦	0	0.0%						
その他	53	13.1%	50	11.8%	46	10.2%	53	9.3%
合計	406	100.0%	422	100.0%	449	100.0%	564	100.0%

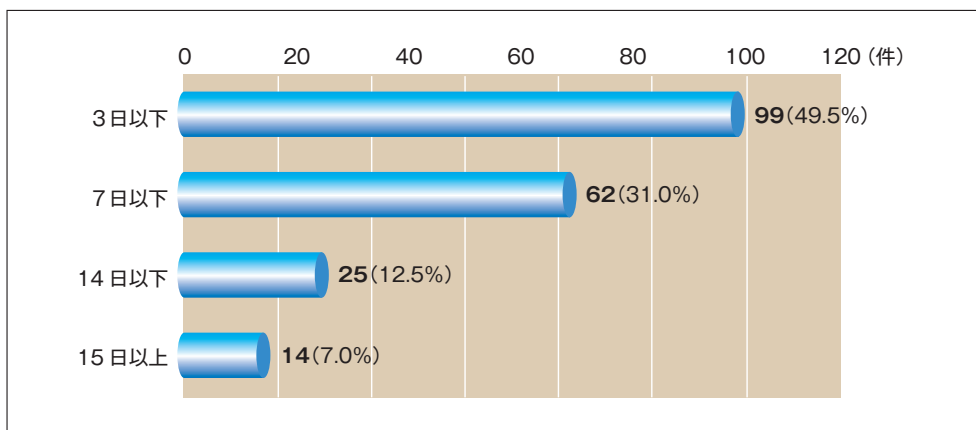
※ は、2012年度と2014年度・2016年度・2018年度で質問の項目が異なるため、比較できない。

③ インターンシップの推進と課題

商工会議所が実施するキャリア教育活動の約4割（229件）をインターンシップが占め、最多である。

実施期間（図5）について見ると、3日以下が99件（49.5%）で最も多く、次いで7日以下が62件（31.0%）、14日以下が25件（12.5%）、15日以上が14件（7.0%）であり、約8割が1週間以内となっている。数は少ないものの、数か月に及ぶものや、実働時間に応じて報酬を支払うものが11件ある。

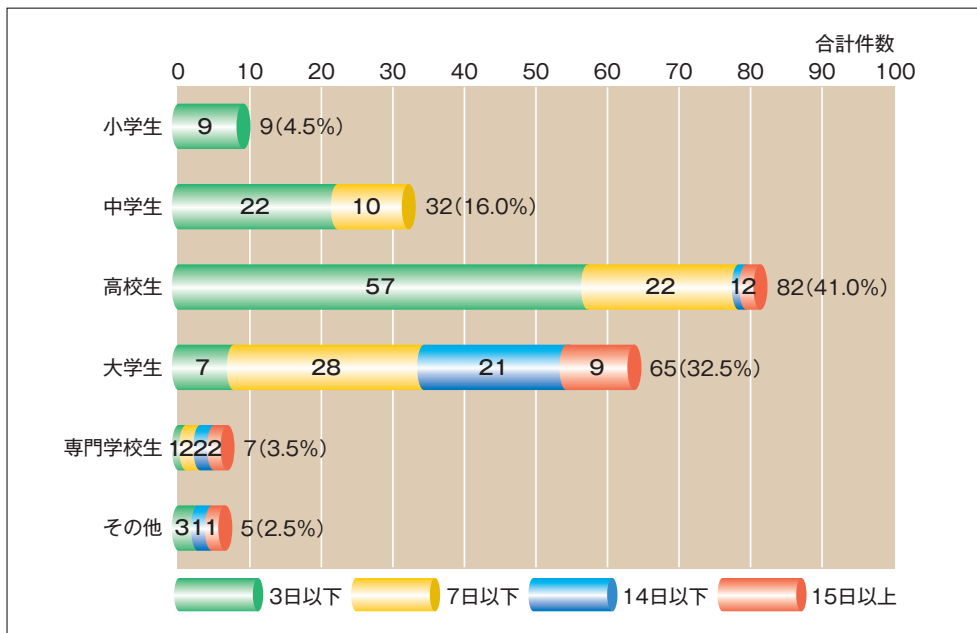
【図5】 インターンシップの実施期間・件数



※実施期間を回答していない件数を除いているため、活動数と一致しない。

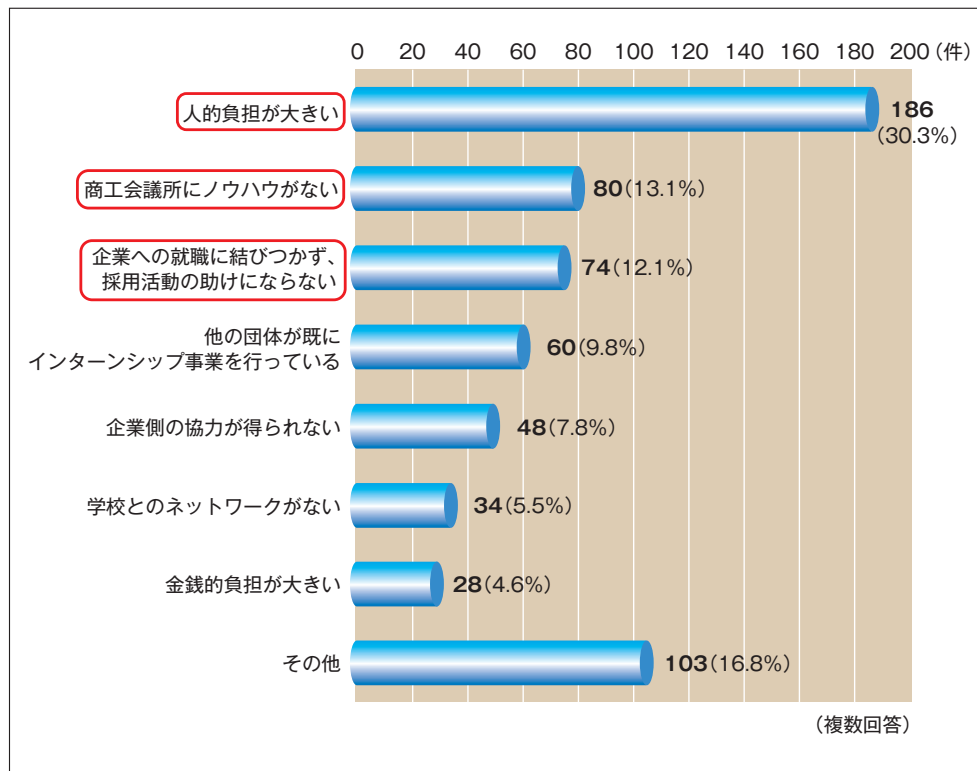
対象（図6）について見ると、小学生が9件（4.5%）、中学生が32件（16.0%）、高校生が82件（41.0%）、大学生が65件（32.5%）、専門学校生が7件（3.5%）である。その他のうち、特別支援学校生を対象としたインターンシップが3件（五泉、豊川、竹田）あり、多様な人材の活躍推進に向けた活動として特筆される。

【図6】 インターンシップの対象別実施期間・件数



商工会議所におけるインターンシップ推進の課題（図7）としては、「人的負担が大きい」が186件（30.3%）で最も多く、次いで「商工会議所にノウハウがない」が80件（13.1%）、「企業への就職に結びつかず、採用活動の助けにならない」が74件（12.1%）と続く。学生を受け入れるための人的負担が大きく、インセンティブとして、就業体験を通じた企業への学生の就職というインターンシップ本来のメリットを求める声が多い。

【図7】 インターンシップ推進の課題



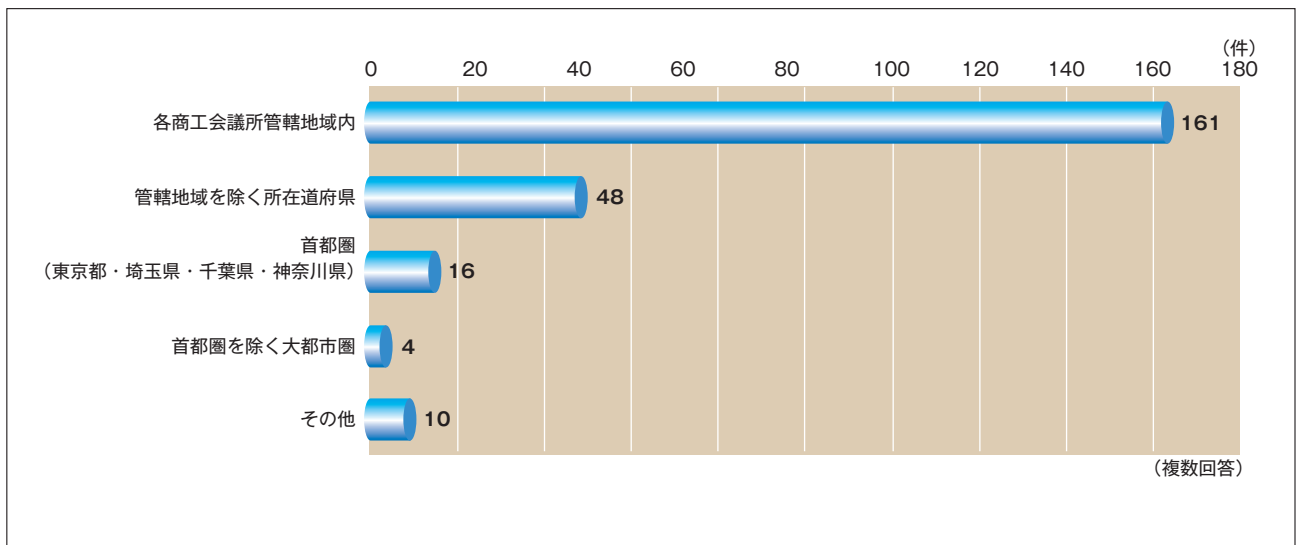
※その他には、「インターンシップ生に行ってもらおう仕事がない」、「学生が中小企業に興味関心を持っていない」、「学校側がインターンシップに必要な研修制度を確立していない」等が含まれる。

④域外の学生を呼び込む形の地方創生インターンシップが加速、情報伝達と参加学生の旅費が課題

最近の特徴として、各商工会議所の管轄地域内のみならず、首都圏等、域外の学生を地元呼び込み定着してもらう形の地方創生インターンシップに積極的に取り組む動きが加速している。インターンシップ生の居住地域（図8）を見ると、管轄地域内が161件と最も多いが、首都圏（16件）や大都市圏（4件）など管轄地域外が合計で78件あり、約3割を占める。

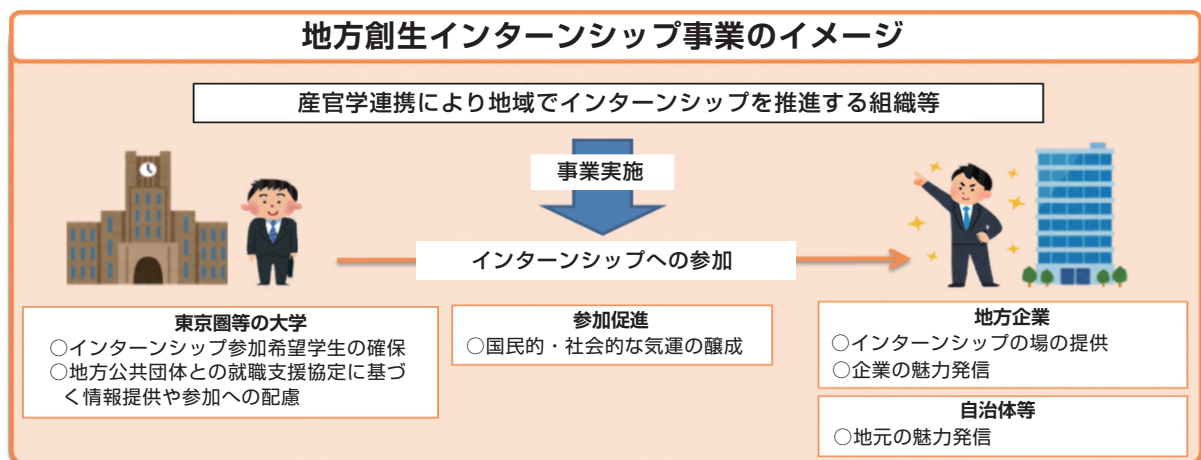
商工会議所においては、地方創生インターンシップを行っていることの情報をつかいて都会の学生に伝えて参加してもらうか、また、学生においては、所得がない中で地方に出向くための旅費をつかいて確保するかが課題となっている。

【図8】 インターンシップ生の居住地域



なお、政府のまち・ひと・しごと創生本部（本部長：安倍総理大臣）においては、2016年度に、東京圏に在住する地方出身の大学生等の地方還流や、地方在住の大学生の地元定着の促進に向け、産官学が連携して地方企業でインターンシップを実施する「地方創生インターンシップ事業」（図9）を創設し、各地における取り組みを支援している。

【図9】 地方創生インターンシップの概念図



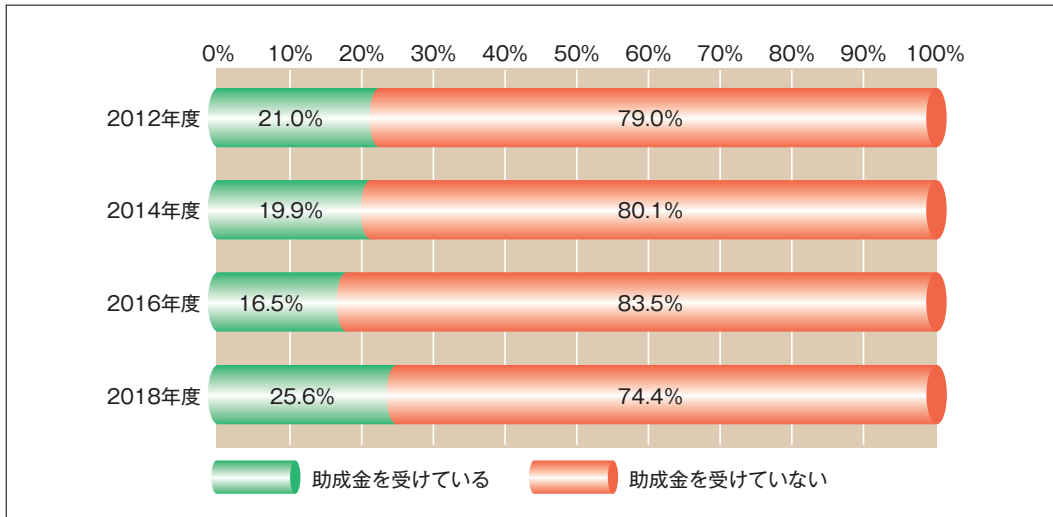
出典：まち・ひと・しごと創生本部

⑤7割強の商工会議所が自主財源で実施

キャリア教育活動を実施するにあたり、行政等からの助成金を受けているのは25.6%で、自主財源で活動している商工会議所が7割強と大多数を占める(図10)。助成元は、市町村が最も多く6割を占め、都道府県、国の順で続く。

夕張商工会議所では、地元自治体が財政再建団体にある中で、地方創生の取り組みの一環として、行政からの補助金がなくても、地域の子どもたちのために自主財源でキャリア教育活動を実施している。

【図10】 助成金の有無

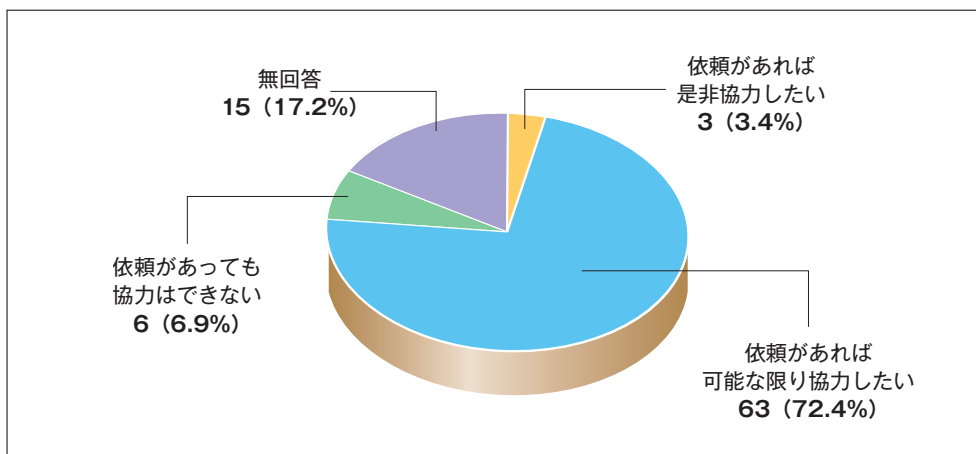


⑥キャリア教育活動に取り組んでいない商工会議所の意向

本調査では、21.3% (87ヶ所) の商工会議所がキャリア教育活動に取り組んでいないと回答している。しかし、「会員企業や自治体、大学等外部からの依頼があればどうするか」を尋ねたところ、「依頼があれば是非協力したい」、「依頼があれば可能な限り協力したい」が合わせて75.8% (66ヶ所) を占め、前向きな意向が見られる(図11)。今後、地元の教育機関や教育委員会、自治体との連携が深まることで、キャリア教育活動に取り組む商工会議所がさらに増えていく可能性がある。

なお、「依頼があっても協力はできない」理由としては、「商工会議所職員のマンパワーが不足しており、対応が難しい」など、切実な声もある。

【図11】 外部からキャリア教育活動の依頼があった際の意向について



2

商工会議所における キャリア教育活動の好事例

① 産学連携による「十勝学講座」で産業人材を育成

帯広商工会議所（北海道）

POINT

帯広商工会議所は、十勝地方の観光業の振興と産業人材の育成・確保を目的に、道内で唯一観光学部を有する札幌国際大学と産学連携協定を締結。同協定に基づき、十勝地方の魅力等を学ぶ「十勝学講座」を同大学に開設。会員企業を講師として派遣しているほか、学生のフィールドワークの受け入れを実施。同事業により、帯広市内に就職する学生が現れるなどの成果が出ている。

◆背景・経緯：札幌国際大学と産学連携協定締結

帯広商工会議所は、十勝地方の観光業の振興と産業人材の育成・確保を目的に、道内で唯一観光学部を有する札幌国際大学と2012年4月に産学連携協定を締結。同年9月から、将来の観光分野を担う若者の十勝地方に関する理解と関心を深め、地域の情報を広く発信してもらうことや定住してもらうことなどを目的に、十勝地方の魅力や歴史、地域資源について学ぶ「十勝学講座」を同大学に開設している。

※「十勝学講座」は、一般教養科目「北海道Ⅱ」（全15回・2単位）の一部（2017年度は10回）を利用して実施。

◆内容：「十勝学講座」で地域の魅力発信

「十勝学講座」では、大学の教員が、同所が実施する十勝地方の観光文化検定（「とちかち検定」）を主たる題材として講義を行っているほか、会員企業による出前授業も実施している（2017年度は1回）。出前授業として、これまで①馬文化を次代につなぐ活動を展開している会員企業から、帯広市が世界で唯一実施している「ばんえい競馬（体重1トンを超えるばん馬が鉄そりをひきながら力とスピードを競う）の歴史と魅力」、②農業の生産現場を体験できる国内初の取り組みである「畑ガイドツアー」の企画開発運営を手掛ける会員企業から、「十勝の農業と観光」、③域外から十勝に移住し、創業した会員企業から、「十勝の魅力と潜在的資源」などの講義が行われた。

また、学生が地元の企業や帯広百年記念館等を訪れ、実際に目で見て触れて学ぶフィールドワークを行い、学生に、十勝地方の歴史、産業、観光、農業、食文化により深く触れる学びの場を提供している。さらに、フィールドワークの一環として、学生に訪れた施設のPR動画を製作してもらう取り組みも実践している。

◆効果・成果：地元への就職者が現れ始める

2017年度の「十勝学講座」の受講者数は49名。会員企業による講義やフィールドワークにおいて、企業

に対し、多くの学生から質問が出るなど、意欲的に学んでいる。

近年、「十勝学講座」を受講した学生の中から帯広市内の企業に就職した者や、帯広市内のイベントにボランティアとして携わる者も出てきており、徐々に成果が現れ始めている。

◆課題・展望：受講者数の増加に向けた方策の検討

同所は、翌年度の「十勝学講座」の構成の検討および改善等を目的に、毎年、同所担当者と大学側との打ち合わせの場を設けている。この場を活用し、今後、より多くの学生に十勝地方の魅力を発信し、地元に着住してもらうため、受講者数の増加に向けた方策を検討していく予定。



会員企業による講義



帯広百年記念館でのフィールドワーク

②「ロボット・ワークショップ」によるプログラミング能力の育成

弘前商工会議所（青森県）

POINT

弘前商工会議所は、小学生を対象とした「ロボット・ワークショップ」を開催し、第4次産業革命に不可欠な情報活用能力やプログラミング能力を身に付ける場を提供。同ワークショップを通じて、プログラミング能力の育成に限らず、ものづくりへの興味や、コミュニケーション力の向上につなげている。

◆背景・経緯：情報活用能力の育成

第4次産業革命が進展し、コンピューターに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けることが不可欠となる中、政府は2020年度から小学校においてプログラミング教育を必修化することを決定した。こうした政府の動きに先駆け、弘前商工会議所青年部は、「これからの時代を切り拓く」力を持ち、多分野で活躍できる人材を育成するため、2017年度より、小学生を対象に、「ロボット・ワークショップ」事業を開催し、プログラミング教育に取り組んでいる。

◆内容：プログラミングの基本からロボット製作まで

本ワークショップは、全4回の講座で9月から10月の土曜日の午後に開催。1回が4時間程度、参加費は無料となっており、プログラミングの基本から学び、最終的には、チームに分かれて子どもたちが自力でプログラミングしたロボットを製作する構成となっている。講師は青年部メンバーが務めている。ワークショップ修了後には、その集大成として、弘前市内で行われる産業関連のイベントにおいて、ロボットが決められたコースを競争するコンテストを実施している。保護者や多くの来場者が観戦するコンテストの開催は、参加者のモチベーション向上につながっている。

◆効果・成果：コミュニケーション力の向上にも寄与

2017年は27名の小学生が参加。保護者からは、「子どものものづくりへの興味が増した」、「成功体験によって自信の醸成につながった」、「チームでコンテスト優勝を目指すため、コミュニケーション力や論理的思考力が身に付いた」といった声が寄せられた。参加者からも「来年も参加したい」との声があがるなど、親子双方から大変好評を得ている。

◆課題・展望：大学等との連携を模索

現在は、青年部メンバーが講師となって、ワークショップを開催しているが、受入可能な人数が限られることや、チームによって進捗度合に差が出てしまうこと、また、ワークショップ終了後、継続的に学び続ける環境をどうやって提供していくかなどが課題となっている。

そのため、将来的には大学等と連携し、より多くの学生が、高度なプログラミングを学び続けていけるカリキュラムを構築していくことを目指している。

同所では、今後も、地域の子どもたちへのプログラミング教育を通じて、地域においてイノベーションを牽引し、地域活性化を担う人材の育成に取り組んでいく。



自らプログラミングしたロボットの動作を確認



コンテスト授賞式

③ 「いわきアカデミア」 事業による若者の地元定着の促進

いわき商工会議所（福島県）

POINT

いわき商工会議所は、2016年度に行政等と連携し、「いわきアカデミア推進協議会」（事務局：同所）を設立。地域社会に貢献できる人材の育成を目的に、小学生から大学生までを対象としたキャリア教育事業（いわきアカデミア）を展開。各年代に応じた特色あるプログラムを提供することで、地元企業への理解の深化、職業観の醸成、地元就職やいわき市へのUターンを促進を図っている。

◆背景・経緯：若者の市外流出・労働力人口の減少

いわき市では、人口がピーク時の約36万人（1998年）から約34万人に減少するなど、人口減少が進んでいる。そのうち、高校を卒業する世代の市外流出が顕著で、2017年度に高校を卒業した約3,300名のうち、約7割が市外に流出しており、労働力人口の減少が課題となっている。

こうした状況の中、いわき商工会議所は、子どもたちの郷土愛を醸成し、次代の地域社会を担う人材を育成することなどを目的に、2016年度に行政、教育機関、地元金融機関等と連携して「いわきアカデミア推進協議会」（事務局：同所）を立ち上げ、キャリア教育事業として、「いわきアカデミア」をスタートした。

◆内容：各年代に応じた特色ある教育プログラム

「いわきアカデミア」では、小学生から大学生までの各年代に応じた特色あるプログラムを提供している。

小学生に対しては、市内企業への理解を深めてもらうため、「いわき発見！会社見学ガイドブック」を作成し、教育委員会と連携して市内小学3年生全員（約3,000名）に配布して、社会科の授業等で活用している。

中学生に対しては、教育委員会と連携し、企業人から仕事の内容ややりがいなど生の声を聞き、職業観を醸成する「いわき・わくわく『しごと塾』」を実施している。

高校生向けには、卒業後に大半が市外に進学してしまう進学校の生徒を対象に、企業訪問研修「いわき発見ゼミ」等を実施。地元企業の仕事現場を見学するとともに、経営者や若手社員から職業観や人生観を学ぶ機会を提供している。

大学生向けには、市内の大学生を対象に、学生の地元定着を目的とした「大学生地域実践ゼミ」を実施。学生がいわき市内の過疎中山間地域に入り込み、特産品を生かした商品開発等を行うことで、地方で働く魅

力を発見する機会としている。

また、首都圏等の大学生を対象に、市内中小企業で新規事業や商品開発などに携わる「実践型インターンシップ」も実施している。

◆効果・成果：参加者は着実に増加

「いわきアカデミア」は、開始から間もないこともあり、同事業を通じた地元就職者はまだ出ていないが、2016年12月から3回開催している「いわき発見ゼミ」には累計920名、2017年度の「いわき・わくわく『しごと塾』」には312名、「大学生地域実践ゼミ」、「実践型インターンシップ」にはそれぞれ10名が参加しており、多くの生徒・学生に地元企業の魅力を発信している。

◆課題・展望：「いわきアカデミアファンド」（仮称）の創設

現在は、政府からの地方創生推進交付金を活用して事業を実施している。将来的には、地域の教育を地域で支えるため、行政、地域金融機関、地元・市外企業による基金（いわきアカデミアファンド（仮称））を創設し、キャリア教育事業の充実・拡大を計画している。



高校生の企業訪問研修「いわき発見ゼミ」



過疎中山間地域での「大学生地域実践ゼミ」

④ 先端技術に触れる「ものづくりフェア」を通じたイノベーション人材の育成 松本商工会議所（長野県）

POINT

松本商工会議所は、地域の将来を担うイノベーション人材の育成に向け、塩尻商工会議所や行政等と共同で「まつもと広域ものづくりフェア」を開催。小学生から高校生まで幅広い世代を対象に、地元の工業高等専門学校や企業等有する先端技術に触れる機会の提供、プログラミング教室、企業見学会などを実施し、ものづくりに興味を持つ人材の育成と地元企業への就職を促進している。

◆背景・経緯：発端は地域産業の空洞化

松本商工会議所は、大企業の海外移転により地域産業の空洞化が進む中、製造業の基盤強化、新規事業創出のため、塩尻商工会議所や松本市、塩尻市等と共同で、2000年度に「まつもと広域工業まつり」を開催。その後、人口減少による人手不足や地方経済の疲弊等の状況変化に対応して、地域の将来を担うイノベーション人材の育成に主眼を置いた事業へと進化させ、現在は「まつもと広域ものづくりフェア」として実施している。

◆内容：先端ものづくり技術を体感

「ものづくりフェア」は、地域の将来を担う子どもたちに、ものづくりや理工学に関心を持ってもらうこと、地元企業の技術力の高さを知ってもらうことを目的に3日間にわたって開催している。

小・中学生向けには、企業や団体、教育機関等がブースを出展し、先端技術を使った製品の展示・デモンストレーションを実施するほか、ものづくり体験教室、科学実験教室を開催。生徒は、ものづくりや科学の楽しさ、ものができる過程や動く仕組みを学ぶことができる。また、プログラミングを学ぶことができるプログラム作成教室も開催している。

高校生向けには、中信地区（松本市、塩尻市、安曇野市、東筑摩郡）の高校生を対象に、地元企業に関する理解の深化と地元就職を促進するため、ものづくりの現場に触れる企業見学会を実施。

また、同フェアを高校生、高等専門学校生、大学生などが日頃の研究成果を発表する場としても活用。工業高校生が製作したVR（バーチャルリアリティ）の体験コーナーや工業高等専門学校生が製作したエコランカー（省燃費カー）の展示・試乗、ロボコン対戦のデモンストレーションやロボット操縦体験等を実施している。

◆効果・成果：地元企業への就職に貢献

2018年度の「ものづくりフェア」には、3日間で延べ13,950人が来場。アンケート調査では、8割強の来場者が「ものづくりへの興味関心が持てた」と回答するなど、子どもたちのものづくりへの興味を醸成する有力な機会となっている。

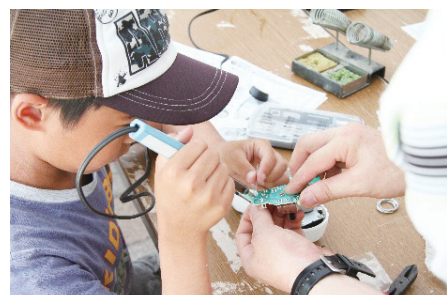
また、2018年度の企業見学会（6社）には、53名の高校生が参加。同事業への参加を通じて松本市のものづくり企業に就職する者も現れており、地域の将来を担うイノベーション人材の育成・確保に貢献している。

◆課題・展望：地元就職者の増加に向けた事業改善

今後は、地域のものづくり企業のPRを強化するため、企業見学会の受入企業数を増加させていくことや、企業説明会を新規に開催していくことなどを検討している。



小・中学生向け「ものづくり体験教室」



はんだ付けを体験

⑤地(知)の拠点校との連携協定に基づく人材育成事業

前橋商工会議所（群馬県）

POINT

前橋商工会議所は、2015年に文部科学省の地(知)の拠点校である共愛学園前橋国際大学と「地域人材育成及び地域文化発展のための連携に関する協定」を締結。産業界のニーズを踏まえたカリキュラム改革などを通じて、地域が求める人材育成事業を展開。2017年度に同大学を卒業した学生のうち、7割強が地元企業に就職。

◆背景・経緯：地元就職の潜在ニーズへ働きかけ

群馬県によると、2015年に県内の高校を卒業した学生の約半数が大学・短大等へ進学しているが、そのうち、6割（全体の3割）以上が県外となっている。また、県外への進学者のうち、Uターン就職する学生は3割（全体の約1割）に満たない。

一方で、県内高校生の約8割が、群馬県への定住の意向を持っているとの調査結果があり、地元企業に就職してもらうためには、地域の魅力を積極的に発信し、地元就職の潜在ニーズへ働きかける必要があった。

そこで、前橋商工会議所は、地域で活躍し、地域振興を担う人材の育成と地元就職の促進を目的に、2015年7月、文部科学省の地(知)の拠点校である共愛学園前橋国際大学と「地域人材育成及び地域文化発展のための連携に関する協定」を締結した。

◆内容：産業界のニーズを踏まえたカリキュラム改革

同所は、地元産業界が求める人材像を明らかにするため、2015年度に会員企業向けアンケート調査を実施。「行動力と主体性を備えた人材」や「規律性を備えた人材」を求める企業が多いことが明らかになった。

一方、大学側は、2016年度に、地元産業界が求める人材を育成するため、どのコースに所属していても受講可能なRegional Career Training副専攻を新設した。この副専攻は、①地域志向科目、②キャリアプラン科目、③実践プログラムで構成。①地域志向科目では、学生が、地域の歴史、文化、資源を学ぶことにより、地元愛を育む。②キャリアプラン科目では、学生が、「規律性を備えた人材」になるため、社会人として必要なマナーを学ぶとともに、地域を支えるためのキャリア形成について学ぶ。③実践プログラムでは、学生が、「行動力と主体性を備えた人材」になるため、地元企業で働くことの意義を学び、就職に必要なスキルを身に付ける。また、実践プログラムの一環として、①4ヶ月にわたって地元企業などで実習に取り組む「長期イン

ターンシップ」や、②学生が企業経営者や社員を取材して、企業の現場をより深く理解し、そこで得た情報を学生同士で共有する「取材インターンシップ」等を実施している。同所は、受入企業の掘り起こしと仲介役を担うほか、自らもインターンシップ生を受け入れている。

◆効果・成果：卒業生の7割強が地元就職

Regional Career Training副専攻の履修人数は、2016年度と2017年度で、延べ1,100名を超えている。また、「インターンシップ科目」は、2016年度に69名、2017年度に54名の学生が受講しており、実務の中で、主体的に業務に取り組むことの大切さや、組織で働くことの意義を学んでいる。

こうした取り組みの結果、2017年度に同大学を卒業した学生のうち、7割強が地元企業に就職しており、また、同大学の調査では、ほとんどの学生が自身の就職先に満足している。

◆課題・展望：地域総がかりでの人材育成へ

同所は、行政や他の教育機関とも連携し、地域総がかりでの人材育成に取り組むため、2018年9月に、前橋市および共愛学園前橋国際大学を含む市内6大学と「めぶく。プラットフォーム前橋（地域人材の育成・定着に向けた産学官連携基盤推進協議会）」を設立。今後、具体的な施策について協議していく予定である。



インターンシップで実務を経験

⑥ インターンシップ・採用情報の発信等を通じた企業と若者のマッチング 東京商工会議所（東京都）

POINT

東京商工会議所は、2006年度以来、3年に1度、「企業における教育支援活動等に関する調査」を実施。その結果に基づき、商工会議所がコーディネーター役となって、「会員企業と学校法人との就職情報交換会」、「東商リレーションプログラム」、「インターンシップ・職場体験ハンドブックの発行」等の様々なキャリア教育事業を幅広く行っている。これらの活動を通じて参加学生が会員企業に就職するなど、学生の職業選択と企業の人材確保に貢献している。

◆背景・経緯：商工会議所がコーディネーター役に

東京商工会議所は、2006年度以来、3年に1度、「企業における教育支援活動等に関する調査」を実施している。その調査結果に基づき、商工会議所が企業と学校をつなぐコーディネーター役となって、企業による教育支援活動を推進してきている。

◆内容：企業と学生をつなぐ場・情報の提供

同所は、本部・支部それぞれにおいて、インターンシップの支援や就職情報交換会の開催など、様々なキャリア教育事業を幅広く展開している。

<主な本部事業>

①「会員企業と学校法人との就職情報交換会」（2006年度～）

企業の人事担当者と大学等の就職指導担当者が一堂に会し、就職・採用やインターンシップの取り組みなどについて情報交換。

②「東商リレーションプログラム」（2015年度～）

“企業・業界・仕事を知る”をテーマに、大学1・2年生が中小企業の経営者や社員と接したり、職場体験をしたりすることで、職業観・就業観を醸成。

③「インターンシップ・職場体験ハンドブック」（2016年度～）

インターンシップ・職場体験を実施する際の課題を整理。事前準備から事後フォローまでに行うべきことを解説し、中小企業のインターンシップを促進。

④「東商ジョブサイト」（2017年度～）

新卒採用支援HPとして運営していた「東商学生サイト」（2016年度～）に、キャリア採用支援メニューも加えてリニューアル。企業の採用やインターンシップ・職場体験などの様々な情報を発信。

⑤日本女子大学と「女性のための新たな学び・再就職支援に関する覚書」を締結

2018年に覚書を締結し、日本女子大学リカレン

ト教育課程の学生を対象に、同所が実施する研修を提供するとともに、インターンシップや再就職を支援。

<主な支部事業>

①「高校と会員企業による就職情報面接会」（2006年度～）

城東5支部（江東・墨田・足立・葛飾・江戸川）と浦安商工会議所が連携し、会員企業の採用担当者と高校の就職担当者を一堂に集め、業務内容や雇用条件などについて情報交換する面接会を開催。

②「江戸川 業種・仕事ガイドブック」（2017年度～）

江戸川支部は、高校生向けに、仕事内容や入社後のキャリアプラン等を紹介するガイドブックを発行。

◆効果・成果：職業観醸成と企業の人材確保に貢献

2017年度の「東商リレーションプログラム」の受入企業・参画大学は延べ57社・25大学、参加学生は延べ912名となり、いずれも過去最大となった。

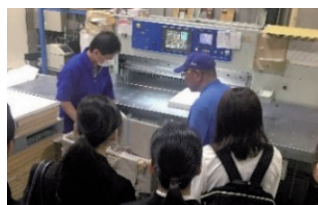
2017年度の「高校と会員企業による就職情報面接会」には、会員企業の採用担当者と高校の就職担当者をあわせ、計263名が参加した。

これらの事業は、学生の職業観の醸成と企業の人材確保に大きく貢献しており、就職情報面接会に参加した企業からは、「人材を採用することができ、大変助かった」などの声が寄せられている。

◆課題・展望：インターンシップ事業を拡大

同所は、企業と学校をつなぐ情報交換会や、Web・ハンドブック等を通じた情報提供を強化していく。

また、一部の支部で実施している都立商業・工業高校生向けインターンシップを各支部に拡大していく。



「東商リレーションプログラム」にて職場を見学する大学生



インターンシップ・職場体験ハンドブック

⑦熊野の林業を学ぶ「体験遠足」と魅力を再発見する「熊野サミット」 熊野商工会議所（三重県）

POINT

熊野商工会議所は、地場産業を子どもたちに知ってもらうため、小学生を対象とした「体験遠足」を実施。2016年度は、熊野地域の一大産業である林業に触れる「林業体験遠足」を開催。高校生に対しては、2017年度から「熊野サミット」を開催し、熊野の魅力について知る機会と地域外の人々と交流する場を提供。これらの活動を通じ、地域活性化と若者の地元定着の両立を目指している。

◆背景・経緯：林業の担い手減少への危機感

熊野市は、総面積の約9割が森林であり、林業が古くから主要産業となっているが、従事者の高齢化や後継者不足が課題となっていた。そこで、熊野商工会議所は、林業をはじめ地域の魅力ある産業について、子どもたちの理解を深めることを目的に、「みえのしごと」魅力発見事業を三重県から受託し、2016年から、小学生を対象とした「体験遠足」を開催している。

また、高校生の地元定着率の低さは、熊野の魅力を知らないことが一因であると考えられた。このため、主要産業である林業や、世界遺産である熊野古道等の研究のために、全国各地から大学生や研究者がフィールドワークに訪れていることに着目し、こうした地域外の方々と高校生や市民が交流し、熊野の魅力を再発見してもらう機会として、2017年度から「熊野サミット」を開催している。

◆内容：熊野の魅力を体験・発見

2016年度に開催した「林業体験遠足」は、林業関係者から直接指導を受けて行う間伐体験をはじめ、熊野原木市場の見学、「森林の役割」等についてのディスカッション、間伐材を利用したオリジナルマイ箸の制作などで構成され、子どもたちに林業に親しんでもらった。

また、2017年度に開催した「熊野サミット」では、熊野地域で活動する大学生や研究者と、熊野市の企業関係者・住民・高校生などが、熊野の魅力や未来についてディスカッション等を行った。大学生や研究者など、地域をよく知る地域外の人達と交流することは、地元高校生にとって、熊野の良さを再発見する良い機会となっている。

◆効果・成果：児童や高校生・関係者の良い刺激に

2016年度の「林業体験遠足」は18名の小学生が参加した。グループディスカッションにおける子どもた

ちの、「木を切ることが森を守ることにつながるとわかった」、「森のピンチを救いたい」といった意見は新鮮であり、林業関係者から、「新たな気づきを得られた」との声が出るなど、双方にとって良い刺激となっている。

2017年度の「熊野サミット」には、104名が参加し熊野の魅力について話し合った。また、高校生を対象に行ったアンケートでは、半数以上が「熊野で働きたい・戻ってきたい」と回答するなど、同事業の効果が徐々に現れてきており、関係者のモチベーションも向上している。

◆課題・展望：「体験遠足」の対象拡大

同所では、林業だけでなく、那智黒石（熊野市内で産出される特産品で、基石や硯、庭園用の玉石等に使用される）の生産・加工現場などを「体験遠足」の対象にするなど、引き続き若い世代に地域の産業を知る機会を提供することで、若者の地元定着を図っていく予定である。



間伐作業を行う小学生（林業体験遠足）

⑧自動車教習合宿の県外大学生に着目した地域魅力発見バスツアー 小浜商工会議所（福井県）

POINT

小浜商工会議所は、行政や教育委員会等と共同で2015年度に「小浜市キャリア教育推進協議会」（事務局：同所）を設立。同協議会は、小浜市の自動車教習所で合宿している県外の大学生が多いことに着目し、小浜市へのU I Jターンや観光振興を目的に、「若狭おばま魅力発見バスツアー」を実施し、小浜地域に立地する企業や地域の魅力をPRしている。

◆背景・経緯：産官学連携によるキャリア教育

小浜商工会議所は、若者の市外流出に歯止めをかけるため、2004年度に「地域づくり委員会」を設置し、これまで小学生から高校生までを対象に、地元企業の魅力を学んだり、職業観を醸成したりすることを目的としたキャリア教育事業を展開してきた。2015年度からは、地域が一体となってキャリア教育活動を推進するため、行政や教育委員会等と共同で「小浜市キャリア教育推進協議会」（事務局：同所）を設置し、実施体制を強化した。

同協議会は、2016年度から、県外の学生の小浜市へのU I Jターンの促進と観光振興を目的に、小浜市と同所会員企業である地元の自動車教習所と共同で「若狭おばま魅力発見バスツアー」を新たに開始した。

◆内容：新たな着眼点による魅力発見バスツアー

バスツアーは、運転免許取得のために長期休暇を利用して小浜市の自動車教習所で合宿している県外の大学生が多いことに着目して企画され、教習の合間を活用して行っている。学生にとっては、企業情報の収集のためにわざわざ地方に向かう必要がないため、負担の軽減にもつながり、これまでにない新たな着眼点による事業と言える。

バスツアーでは、参加学生に対し、地元企業の紹介に加え、伝統工芸や文化財、食文化などの地域の魅力をPRしている。2017年度は、家庭用蓄電システムの生産などを手掛ける地元企業の工場見学を実施したほか、同社社員から仕事に関する説明を受けた。また、地域の伝統工芸品である塗り箸の製作体験や、市内の観光スポットである妙楽寺を拝観した。

◆効果・成果：小浜市のファンが増加

バスツアーは定員20名で実施しており、毎回定員を超える学生が応募している。事業開始から間もないこともあり、参加した学生の中から小浜市の企業へ就職した学生はまだ出ていないが、参加した学生からは、

「小浜市の魅力をたくさん知ることができた」、「免許合宿後もまた来たい」などの声が多数寄せられたほか、「就職先として小浜市の企業も検討したい」とする学生もいた。また、卒業後に後輩に参加を勧める者や、家族・友人等を連れて小浜市に観光に訪れる者もいるなど、同事業の成果が現れ始めている。

◆課題・展望：実施回数や定員の増加を検討

同事業の参加者は先着順で受け付けており、募集開始後すぐに満員になってしまうことが嬉しい課題。小浜地域のことをより多くの若者にPRし、就職先として検討してもらうため、今後、実施回数や定員を増やして開催することを検討している。



地元企業が仕事と地域の魅力を説明



伝統工芸の塗り箸製作体験

⑨会社経営を体験し、働くことの楽しさを知る「キッズカンパニー」

鯖江商工会議所（福井県）

POINT

鯖江商工会議所は、市内の小学校5・6年生を対象に、会社の設立・経営をリアルに体験することができる起業体験活動「キッズカンパニー in sabae」を実施。子どもたちに、働くことの楽しさやお金を稼ぐことの大変さを感じてもらおうと同時に、論理的思考力やコミュニケーション能力を養うプログラムとして好評を得ている。

◆背景・経緯：市内事業所数は減少の一途

後継者不足等の影響により、鯖江市内の事業所数は、減少の一途にあることから、地域で起業し、ビジネスで地域を盛り上げる人材を育成することが必要とされている。そこで、鯖江商工会議所は、小さい頃から、会社の設立をリアルに体験させ、働くことの楽しさやお金を稼ぐことの大変さを感じてもらおうことを通じて、地域で活躍するビジネス人材に育成することを目的に、2018年度から、起業体験活動「キッズカンパニー in sabae」を開始した。

◆内容：リアルな企業活動を体験

本事業のプログラムは、3名程度のチームごとに、架空の「株式会社」を設立し、5回の講座を通じて、①事業計画の策定、②事業計画の発表、③仕入れ・商品の生産、④販売、⑤決算報告を行う構成となっている。

②事業計画の発表では、投資家を前に子どもたちが、自分たちの事業計画を発表し投資を募り、④販売体験では、本物の現金を使用して、お客との現金のやりとりやその管理を行い、また、⑤決算報告では、「株主総会」を開催し、株主の前で報告を行うなど、企業活動をリアルに体験できるプログラムとなっている。

◆効果・成果：働くことの楽しさやお金の大切さを実感

今年度は、フレッシュドライ加工した植物をボトル等に閉じ込めた植物標本（ハーバリウム）を販売するチームなど、2チーム（7名）が参加。参加した子どもたちには、市内へのポスター掲示、通学する小学校での宣伝、会場での呼び込みなど、販売促進のための創意工夫が見られた。その結果、商品を完売でき、利益を上げた。販売体験終了後、子どもたちからは、「実際のお金を扱うので大変だったが、楽しかった」、「どんな商品が売れるか考えることが楽しかった」、「お金

を稼ぐことの大変さがわかった」との声が寄せられた。保護者からは、「じっくり考えることで、論理的な思考力が養われた」、「チームで活動することでコミュニケーション能力が培われた」と好評を得た。特に、販売体験は、多くの方が来場する地元企業の博覧会（さばえものづくり博）の会場にて行うため、来店者も多く、子どもたちにとって、やりがいのある貴重な経験となった。

◆課題・展望：企業経営をより身近に感じてもらう内容に

全5回の講座は、9月から11月の週末に実施するため、間隔が空いてしまい、子どもたちのモチベーションが下がってしまうことや、各チームの進捗状況にバラつきが出てしまうことが課題となっており、今後、日程の見直しや担当職員の増員などを検討していく予定である。

将来的には、対象を中学生・高校生へと引き上げることや、現役の企業経営者による講演会を取り入れるなど、会社経営の面白さをより身近に感じてもらえるようなカリキュラムへの充実を図っていく予定である。



元気に接客をする子どもたち



射的ゲームのルールを説明する子どもたち

⑩リカレントキャリア教育で“しごと”と“ひと”を呼び込む「移住創業」 佐世保商工会議所（長崎県）

POINT

人生 100 年時代を迎え、リカレント教育が重要性を増す中、佐世保商工会議所は、創業支援と移住を組み合わせ、ユニークなリカレントキャリア教育に力を入れている。2015 年度から 2017 年度まで、県外から佐世保市へ移住し創業してもらうことを目的に「移住促進ビジネスプランコンテスト」を開催。社会人の新たなキャリア形成や自己実現の機会を提供すると同時に、地域にしごとを作り、人口増を図る事業として注目を集めている。

◆背景・経緯：リカレントキャリア教育で人口増を目指す

佐世保商工会議所は、2006 年度に市の創業融資制度が創設されたことを契機に、市民を対象とした創業セミナーの開催、個別相談の実施、創業間もない経営者同士の交流会や研修会の開催など、創業支援に力を入れて取り組んできた。2015 年度からは、急速に進む人口減少に対応し、市外からの人口流入を図るため、佐世保市への移住希望者を対象とした「移住促進ビジネスプランコンテスト」を新たにスタート。人生 100 年時代を迎える中、社会人の新たなキャリア形成や自己実現の機会を提供すると同時に、地域にしごとを作り、人口増を図るユニークなリカレントキャリア教育事業として注目を集めている。

◆内容：創業の機会と移住の場を提供

「移住促進ビジネスプランコンテスト」は、県外からの U I J ターンによって佐世保市で創業を希望する“移住創業者”を対象（2017 年度は佐世保市在住者による製造業の創業も対象）にしており、最優秀賞（1 名）に賞金 90 万円、優秀賞（1 名）に賞金 20 万円、5 名に移住奨励金 5 万円を支給している。2017 年度は、最優秀賞の該当者はいなかったが、福岡から J ターンして夫婦で美容院を創業した経営者や、千葉から U ターンしてネットショップサイトの開発を手掛けるソフトウェア会社を立ち上げた経営者らが優秀賞を受賞した。

なお、同所では、創業支援の一環として、創業 5 年以内の商工会議所会員を対象とした“創業クラブ”を運営しており、同クラブが開催する交流会や研修会は、移住創業者にとっての新たな人脈形成や取引拡大の場として活用されている。

◆効果・成果：移住者の増加と社会人の自己実現

これまで、同コンテストには 10 名が応募して 9 名が受賞し、そのまま創業に至った。2018 年 7 月現在

で、その 9 名全員（創業者のご家族を含めて 20 名）が、佐世保市に移住しており、大きな成果をあげている。

◆課題・展望：新たな移住促進事業を検討

2018 年度は、同コンテストの開催は予定していないが、今でも年に数件、移住を機に創業したいとの相談が寄せられていることから、今後も、移住創業希望者への個別相談によるリカレントキャリア教育に取り組んでいく予定である。



ビジネスプランコンテスト表彰式の様子



移住創業者が立ち上げた洋菓子店

⑪働く意義や延岡市の魅力を伝える「よのなか教室」

延岡商工会議所（宮崎県）

POINT

延岡商工会議所は、産業界と教育現場が連携して地元産業の魅力を子どもたちに伝え、地域の将来を担う人材を育成することを目的に、「延岡市キャリア教育支援センター」を開設。「延岡の大人はみな子供たちの先生」をスローガンに、延岡市内の社会人講師（よのなか先生）が、働くことの意義や延岡の魅力と課題を子どもたちに伝える「よのなか教室」を開催し、地域総がかりで人材育成に努めている。

◆背景・経緯：若者流出に対する強い危機感

宮崎県や延岡市では、大卒・高卒の県内就職率が低く、義務教育時代から地元企業や地域の魅力を一貫して継続的に伝えることが必要とされていた。このため、延岡市の教育委員会が中心となり、長年にわたり「出前授業」、「ふるさと推進事業」、「学校支援はげまし隊」などの活動を行ってきたが、一向に若者の流出に歯止めがかからず、強い危機感を抱いていた。

そこで、延岡商工会議所は、さらに産・学・官が連携を深め、地域の総力をあげてキャリア教育を推進することが必要であると考え、推進組織として「延岡市キャリア教育支援センター」を2017年に開設した。同センターでは、将来を担う若者に延岡で働くことや、暮らすことに魅力を感じてもらうことを目的に、社会人講師（よのなか先生）が働くことの意義や地域の魅力と課題を子どもたちに伝える「よのなか教室」を開催している。

◆内容：よのなか先生が働く意義や地域の魅力を伝える

「よのなか教室」は、小学生から高校生までを対象とし、市内の様々な職種の社会人講師（よのなか先生）を教師役として、仕事のやりがいや苦勞、延岡の魅力について、授業形式で学ぶ。社会人講師（よのなか先生）は、「延岡の大人はみな子供たちの先生」をスローガンに、企業関係者だけでなく、延岡市内の主婦や引退されたシニアの方も含まれる。例えば、これまで2万人以上の赤ちゃんを取り上げた助産師さんや、24歳から夜間高校に通い、努力して社長になった経営者などが、自らの生い立ちやこれまでの努力について授業を行っており、児童・生徒にとって、人生観や職業観の醸成に良い刺激となっている。

また、同事業への理解と協力を得るため、延岡市教育委員会や関係団体等で構成する「延岡市キャリア教育推進懇話会」を設置し、地域総がかりで、「よのなか教室」に関する基本方針の策定や、実施結果の評価・

総括・改善を随時行っている。

◆効果・成果：受講した児童・生徒は3,000名超に

「よのなか先生」の登録者数は、2018年3月現在で161名と、当初の目標である100名を大きく上回っている。

また、2017年度は32回の教室を開催し、受講した児童・生徒は、延べ3,142名となった。受講した児童・生徒からは、「素晴らしい技術を持つ企業があることを知った」、「延岡のすばらしさをもっと知りたい」、「自分の将来の夢を描いていきたい」との感想が寄せられている。一方、講師からは「子どもたちに様々な生き方があることや未来への明るい希望と夢を持つことの大切さを伝えることができた」、「延岡を誇りに思える子どもたちになってほしい」といった声が寄せられるなど、双方から高い評価を得ている。

◆課題・展望：「よのなか先生」を300名規模へ

延岡市では、若者の就労や定住による産業人材の確保が大きな課題であり、同所は、「よのなか先生」の登録者数を300名規模まで増やし、実施校や授業数を拡大するなど、本事業を拡大・強化していく。



よのなか先生（洋菓子店従業員）の話を熱心に聞く子どもたち

⑫「企業ガイドブック」で地域の魅力を発信し地元就職を促進

気仙沼商工会議所（宮城県）／いわき商工会議所（福島県）／静岡商工会議所（静岡県）／徳山商工会議所（山口県）／伊万里商工会議所（佐賀県）／日向商工会議所（宮崎県）

POINT

各地商工会議所では、若者の地元定着やU・I・Jターンの促進を目的に、地元企業の情報や地方で暮らすことの魅力などをまとめた「企業ガイドブック」を作成し、配布している。キラリと光る企業や仕事内容の紹介に加え、先輩社員の声、観光スポットやグルメ情報など、ライフスタイルやキャリア形成がイメージしやすい、工夫された構成となっている。

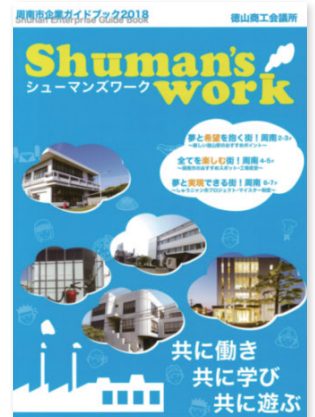
◆「しごと場あそび場ちよいのぞき気仙沼」

気仙沼商工会議所は、官民連携によるDMO組織を設立し、地域ならではの仕事や暮らしを観光商品化した「しごと場 あそび場ちよいのぞき気仙沼」を発行。観光をしながら地場産業の成り立ちや魅力を知る「キャリア教育観光」を推進している。



◆周南市企業ガイドブック 2018 [Shuman's work]

徳山商工会議所は、2018年4月、新南陽商工会議所（山口県）と連携し、企業ガイドブック「Shuman's work」を発行。発行部数は2,000部で、市内の高校や専門学校、県内外の大学生や関係団体などに配布。



◆「会社見学ガイドブック（ものづくり編）」

いわき商工会議所は、2017年8月、地域の産業や会社に対する理解の促進と会社見学のサポートを目的に「いわき発見！会社見学ガイドブック」を発行。発行部数は3,000部で、市内小学3年生に配布。



◆「伊万里ふるさと企業ガイドブック 2018」

伊万里商工会議所は、若者の地元定着等を目的に、「伊万里ふるさと企業ガイドブック 2018」を発行。近隣の高校や専門学校に1,200部を配布。QRコードを読み取ると各企業の動画を見ることができるほか、地域観光マップも掲載。



◆「静岡で働こう。」

静岡商工会議所は、2017年12月、地元の学生や地元を離れた若者向けに、企業の紹介や先輩社員からのメッセージを掲載した「静岡で働こう。」を発行。発行部数は31,000部で、卒業後3年以内の市内の高校卒業生全員に配布。



◆「日向市のいろんな産業 いろんな会社 いろんな仕事」

所内にキャリア教育支援センターを設置している日向商工会議所は、2018年6月、キャリア教育の教材として、「日向市のいろんな産業 いろんな会社 いろんな仕事」を発行。発行部数は600部で、市内の中学2年生に配布。



3

「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」集計結果

(1) 調査概要

1. 調査目的	地域総合経済団体である商工会議所として「社会総がかりでの教育」の実現に貢献するため、本調査を実施し、今後より一層キャリア教育活動の取り組みを拡大するとともに、好事例を全国に横展開していくための参考資料とする。(2008年度より実施)
2. 調査期間	2018年5月10日～5月31日
3. 調査対象	全国 515 商工会議所
4. 回答商工会議所数	408 商工会議所 (回答率：79.2%)
5. 調査方法	イントラネットによるアンケート調査
6. 調査内容	小学生から大学生までを対象としたインターンシップ・職場体験、商い体験、教育機関への社会人講師の派遣など、キャリア教育活動の実施状況および活動内容等

●地区内人口別回答状況

	回答商工会議所数	回答率
全体	408	79.2%
20万人以上	77	80.2%
10万人以上 20万人未満	81	80.2%
5万人以上 10万人未満	107	81.1%
5万人未満	143	76.9%

●ブロック別回答状況

	回答商工会議所数	回答率
全体	408	79.2%
北海道	37	88.1%
東北	40	88.9%
北陸信越	43	87.8%
関東	85	82.5%
東海	32	65.3%
関西	45	63.4%
中国	41	80.4%
四国	22	81.5%
九州	63	80.8%

※ブロック分け：

北海道 = 北海道

東北 = 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

北陸信越 = 新潟、富山、石川、長野

関東 = 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、
東京、神奈川、山梨、静岡

東海 = 岐阜、愛知、三重

関西 = 福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国 = 鳥取、島根、岡山、広島、山口

四国 = 徳島、香川、愛媛、高知

九州 = 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、
鹿児島、沖縄

(2) 集計結果の概要

●約8割の商工会議所がキャリア教育活動を実施し、活動数は10年間で倍増

回答があった408商工会議所のうち321商工会議所がキャリア教育活動を実施しており、実施率は約8割(78.7%)に達している。商工会議所が中心となった社会総がかりでの活動が全国各地に普及してきたことにより、実施している活動数は、調査を開始した2008年度から10年間で倍増(273件→564件)している。

●プログラミング教育など、活動内容が拡充・進化

- 第4次産業革命を牽引する人材を育成するため、政府の動きに先駆けた「プログラミング教育」(弘前、松本、彦根)をはじめ、「ドローンの出前授業」(天童)や「ロボットコンテスト」(中津川、和歌山)など、デジタル社会に対応した活動が広がり始めている。
- 観光をしながら地域の魅力や地元企業を知ってもらう「キャリア教育観光」(気仙沼、小浜)といった商工会議所ならではの発想による新しいジャンルの活動がスタートしている。
- 若者の地元定着やU I Jターンの促進を図るため、地元企業の情報や地方で暮らすことの魅力などを見える化した「企業ガイドブック」(気仙沼、いわき、静岡、徳山、伊万里、日向ほか)の発行が増加している。また、大学の学食で企業と学生がランチをとりながら地元企業の認知度向上と満足度の高い就職の両立を目指す「モグジョブ」(豊橋、豊川、浜松)といったユニークな取り組みもある。

●キャリア教育支援センター設置の動きが拡大

宮崎県内では、日向商工会議所が全国で初めてキャリア教育支援センターを設置して実施してきた「よのなか教室事業(社会人講師が働くことの意義や地域の魅力を伝える)」が好評で、好事例として延岡商工会議所、小林商工会議所、高鍋商工会議所に順次横展開されている。

●活動の約4割を占めるインターンシップ、特別支援学校生も対象

キャリア教育活動の約4割(229件)をインターンシップが占める。実施期間は、約8割が1週間以内であるが、数は少ないものの、数か月に及ぶものや、実働時間に応じて報酬を支払うものが11件ある。

また、特別支援学校生を対象としたものが3件(五泉、豊川、竹田)あり、多様な人材の活躍推進に向けた活動として特筆される。

なお、インターンシップ推進の課題としては、「人的負担の大きさ」が186件(30.3%)と最も多く、「企業の就職に結びつかず、採用活動の助けにならない」との回答も74件(12.1%)ある。受け入れのインセンティブとして、就業体験を通じた当該企業への学生の就職というインターンシップ本来のメリットを求める声が多い。

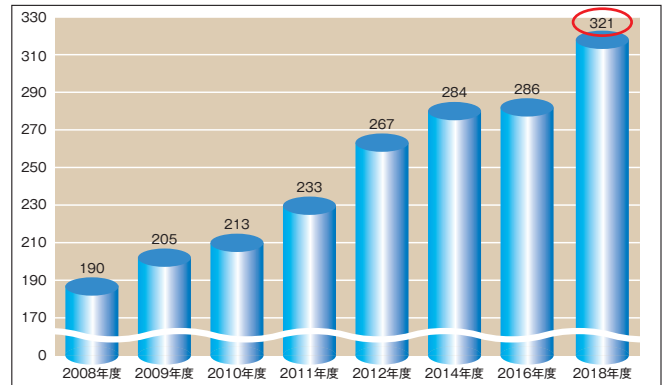
●域外の学生を呼び込む形の地方創生インターンシップが加速、情報伝達と参加学生の旅費が課題

各商工会議所の管轄地域外の学生を地元呼び込み、定着してもらう形の地方創生インターンシップ(塩尻、春日井ほか)に積極的に取り組む動きが加速しており、インターンシップの件数の約3割(78件)を占める。商工会議所においては、インターンシップの情報をいかにして、都会の学生に伝えて参加してもらうか、また、学生においては、所得がない中で地方に出向くための旅費をいかに確保するかが課題になっている。

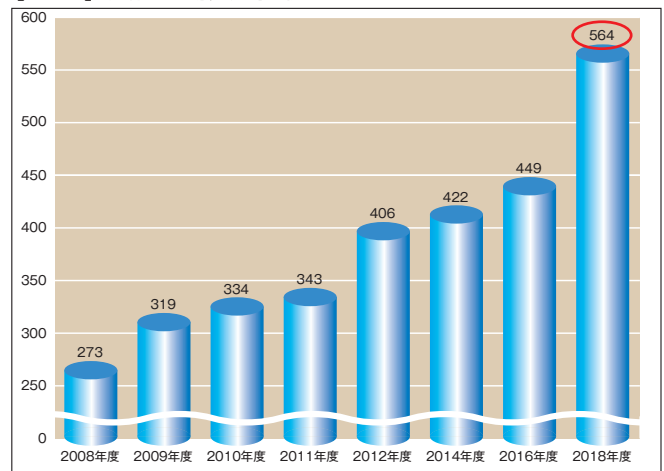
(3) キャリア教育活動実施商工会議所数等の推移

- 回答があった408商工会議所のうち321商工会議所がキャリア教育活動を実施しており、実施率は約8割(78.7%)に達している(図12)。
- 調査を開始した2008年度と比較すると、190商工会議所から131ヶ所(68.9%)増加し、前回調査した2016年度(286ヶ所)から35ヶ所(12.2%)増えている。商工会議所が中心となった社会総がかりでのキャリア教育活動が、10年間で全国各地に普及してきたことがうかがえる。
- 実施されている活動の総数は、キャリア教育活動実施商工会議所数の増加に伴い、2008年度の273件から564件に291件(106.6%)増加し、10年間で倍増している。2016年度からは、115件(25.6%)増えている(図13)。

【図12】実施商工会議所数の推移



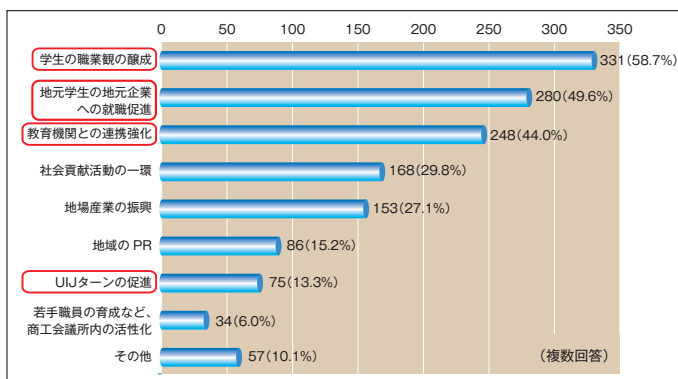
【図13】実施活動数の推移



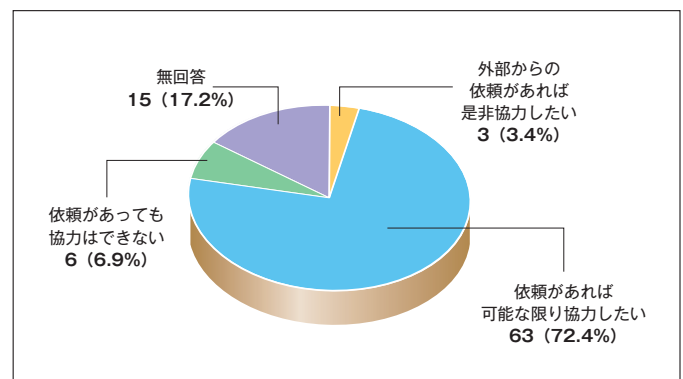
(4) キャリア教育活動の実施目的

- キャリア教育活動の実施目的としては、「学生の職業観の醸成」が331件(58.7%)で最も多く、次いで「地元学生の地元企業への就職促進」(280件、49.6%)、「教育機関との連携強化」(248件、44.0%)の順となっている。「UIJターンの促進」も75件(13.3%)ある(図14)。
- キャリア教育活動に取り組んでいない商工会議所に、「会員企業や自治体、大学等外部からの依頼があればどうするか」を尋ねたところ、「依頼があれば是非協力したい」、「依頼があれば可能な限り協力したい」が合わせて75.8%を占め、前向きな意向が見られる(図15)。
- 「依頼があっても協力はできない」理由としては、「商工会議所職員のマンパワーが不足しており、対応が難しい」ことなどが挙げられた。

【図14】キャリア教育活動の実施目的

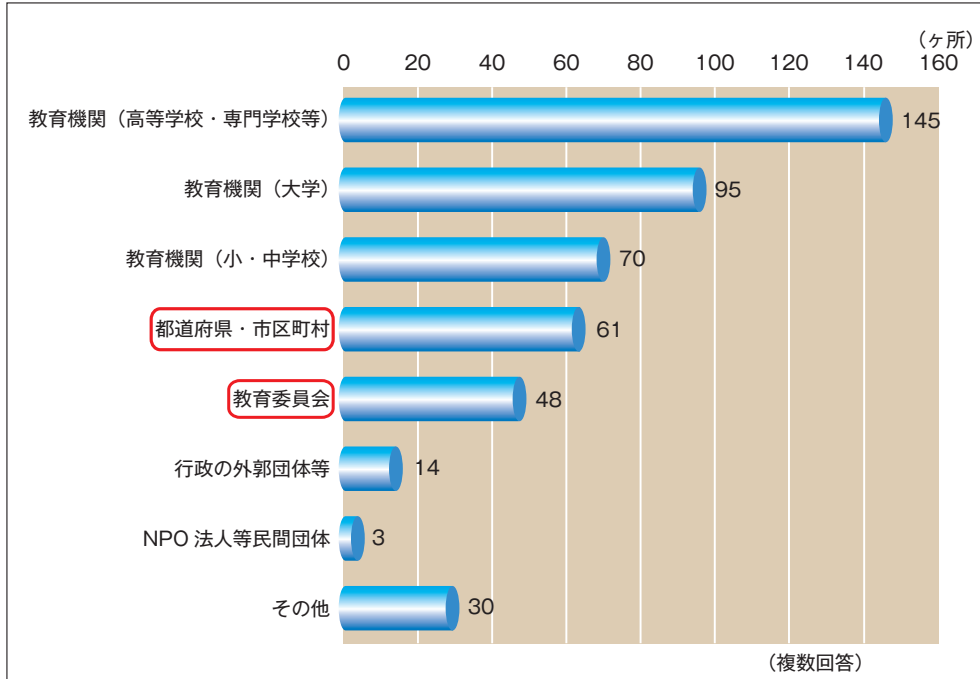


【図15】外部からキャリア教育活動の依頼があった際の意向について



- キャリア教育活動の依頼元としては、「高等学校・専門学校等」が145ヶ所で最も多く、次いで「大学」(95ヶ所)、「小・中学校」(70ヶ所)の順となっている。また、「都道府県・市区町村」や「教育委員会」などからの依頼が増えており、商工会議所が行政を含む多様な機関と連携して、地域のキャリア教育活動推進の中心的な役割を担っている(図16)。

【図16】 キャリア教育活動の依頼元



※その他には、「インターンシップ推進協議会」、「経営者協会」等が含まれる。

(5) 地区内人口別キャリア教育活動の実施率等

- 地区内人口の多い商工会議所の実施率が高い傾向は2012年度調査から変わらないが、「20万人以上(90.9%)」、「10万人以上20万人未満(90.1%)」の商工会議所において、はじめて90%を超えた。特に地区内人口が「10万人以上20万人未満」の商工会議所における伸びが大きい(2016年度:56ヶ所→73ヶ所)(図17)。
- 「5万人以上10万人未満」、「5万人未満」の小都市商工会議所においては、調査を行うたびに実施商工会議所数が増加している。

【図17】 地区内人口別キャリア教育活動の実施率等

	実施商工会議所数				実施率 (実施商工会議所数/回答数)				1商工会議所あたりの活動数			
	2012年度	2014年度	2016年度	2018年度	2012年度	2014年度	2016年度	2018年度	2012年度	2014年度	2016年度	2018年度
全体	267	284	286	321	72.0%	75.9%	74.1%	78.7%	1.5	1.5	1.6	1.8
20万人以上	61	72	67	70	84.7%	88.9%	85.9%	90.9%	1.9	1.7	2.0	1.9
10万人以上20万人未満	65	54	56	73	85.5%	74.0%	76.7%	90.1%	1.5	1.6	1.6	1.8
5万人以上10万人未満	69	71	72	85	74.2%	77.2%	80.0%	79.4%	1.4	1.4	1.5	1.8
5万人未満	72	87	91	93	55.4%	68.0%	62.8%	65.0%	1.4	1.3	1.2	1.6

(6) ブロック別キャリア教育活動の実施率等

- 地域ごとに見ると、2016年度に対し、9ブロック中6ブロックで実施率が増加し、関西・中国・四国ブロックでは、10ポイントを超える高い伸びとなった。また、東海ブロックにおいて、はじめて実施率が90%を超えた。全体の実施率は約8割(78.7%)に達しており、地元の人材を定着させるための地方創生活動の一環として、商工会議所によるキャリア教育活動の輪が、全国的な広がりを見せている(図18)。

【図18】ブロック別キャリア教育活動の実施率等

	実施商工会議所数				実施率 (実施商工会議所数/回答数)				1商工会議所あたりの活動数			
	2012年度	2014年度	2016年度	2018年度	2012年度	2014年度	2016年度	2018年度	2012年度	2014年度	2016年度	2018年度
全体	267	284	286	321	72.0%	75.9%	74.1%	78.7%	1.5	1.5	1.6	1.8
北海道	18	18	22	26	66.7%	66.7%	73.3%	70.3%	1.3	1.5	1.3	1.7
東北	26	27	22	29	70.3%	75.0%	64.7%	72.5%	1.5	1.6	1.5	1.9
北陸信越	28	32	38	36	75.7%	86.5%	88.4%	83.7%	1.5	1.5	1.6	1.8
関東	53	59	63	67	68.8%	78.7%	77.8%	78.8%	1.6	1.5	1.7	1.8
東海	28	31	26	29	80.0%	88.6%	81.3%	90.6%	1.5	1.6	2.0	1.9
関西	42	35	34	38	79.2%	74.5%	70.8%	84.4%	1.5	1.5	1.5	1.5
中国	25	34	29	36	71.4%	89.5%	74.4%	87.8%	1.8	1.4	1.3	1.9
四国	14	10	9	17	77.8%	52.6%	56.3%	77.3%	1.5	1.7	1.8	1.5
九州	33	38	43	43	63.5%	63.3%	68.3%	68.3%	1.3	1.3	1.5	1.8

(7) 実施内容別の活動数と特徴

- 活動内容の内訳は、これまでと同様、「インターンシップ・職場体験」が最多(229件)で、全体の40.6%を占める(図19)。
- 2016年度と比較すると、「地元大学との連携(人材育成等)」(10.7%→12.1%)や「各種講座・授業の開催」(8.9%→10.8%)、「商い体験」(5.6%→8.5%)、「行政等の教育に関する委員会等に委員を派遣」(5.8%→6.6%)の割合が増加している。特に、職業観を醸成する「商い体験」が高い伸びを示し、人気となっている。

〈特徴〉

- とりわけ、特徴的な活動としては、第4次産業革命・デジタル革命を牽引する人材を育成するため、政府の動きに先駆けた「プログラミング教育」(弘前、松本、彦根)の実施や、「ドローンの出前授業」(天童)、「ロボットコンテスト」(中津川、和歌山)などの取り組みが広がり始めている。
- また、地域外の子どもや大学生を対象に、観光をしながら地域の魅力や地元企業を知ってもらう「キャリア教育観光」(気仙沼、小浜)といった商工会議所ならではの発想による新しいジャンルの活動がスタートしている。
- さらには、若者の地元定着やUIJターンの促進を目的に、地元企業の情報や地方で暮らすことの魅力などを見える化した「企業ガイドブック」(気仙沼、いわき、静岡、徳山、伊万里、日向ほか)をあらためて発行する商工会議所が増えている。

また、求人サイト運営会社との連携の下、地元大学の学食に企業の人事担当者が出向き、学生とランチをとりながら交流することで、地元企業の認知度向上と満足度の高い就職の両立を目指す「モグジョブ」(豊橋、豊川、浜松)が新たに組み込まれている。

- このほか、宮崎県内では、日向商工会議所が始めた、商工会議所内にキャリア教育支援センターを設置し、そこを拠点として実施する、社会人講師(よのなか先生)が働くことの意義や地域の魅力を伝える「よのなか教室」事業が好評で、延岡商工会議所、小林商工会議所、高鍋商工会議所に順次横展開されている。

【図 19】 実施内容別の活動数等

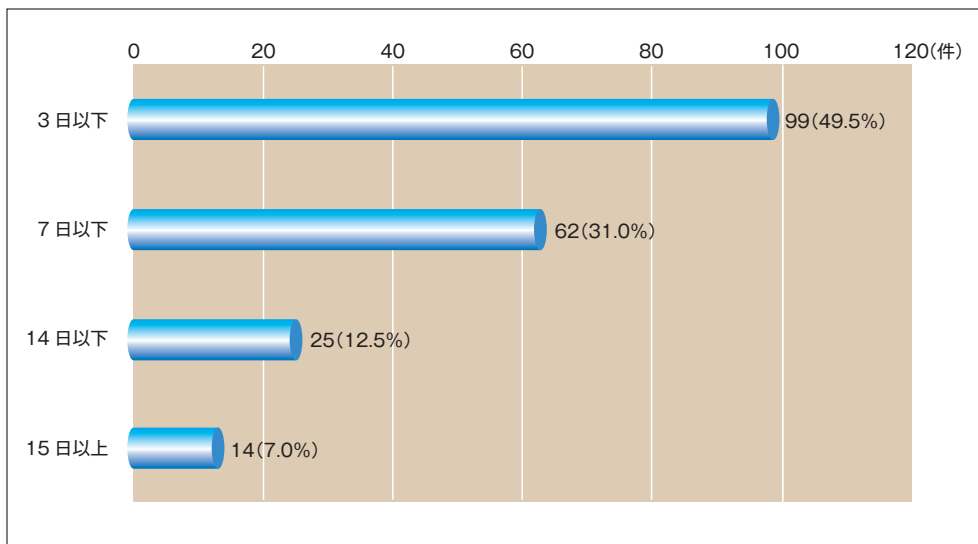
	2012 年度		2014 年度		2016 年度		2018 年度	
	活動数	構成比	活動数	構成比	活動数	構成比	活動数	構成比
インターンシップ・職場体験	225	55.4%	205	48.6%	200	44.5%	229	40.6%
地元大学との連携（人材育成等）	31	7.6%	21	5.0%	48	10.7%	68	12.1%
各種講座・授業の開催	20	4.9%	31	7.3%	40	8.9%	61	10.8%
教育機関への社会人講師の派遣	36	8.9%	48	11.4%	47	10.5%	53	9.4%
商い体験	24	5.9%	24	5.7%	25	5.6%	48	8.5%
行政等の教育に関する委員会等に委員を派遣			29	6.9%	26	5.8%	37	6.6%
教育機関（教育委員会等）への参画	13	3.2%	14	3.3%	17	3.8%	15	2.7%
民間企業等への教員の受け入れ	4	1.0%						
民間人校長の推薦	0	0.0%						
その他	53	13.1%	50	11.8%	46	10.2%	53	9.3%
合計	406	100.0%	422	100.0%	449	100.0%	564	100.0%

※ は、2012 年度と 2014 年度・2016 年度・2018 年度で質問の項目が異なるため、比較できない。

（8） インターンシップの推進と課題

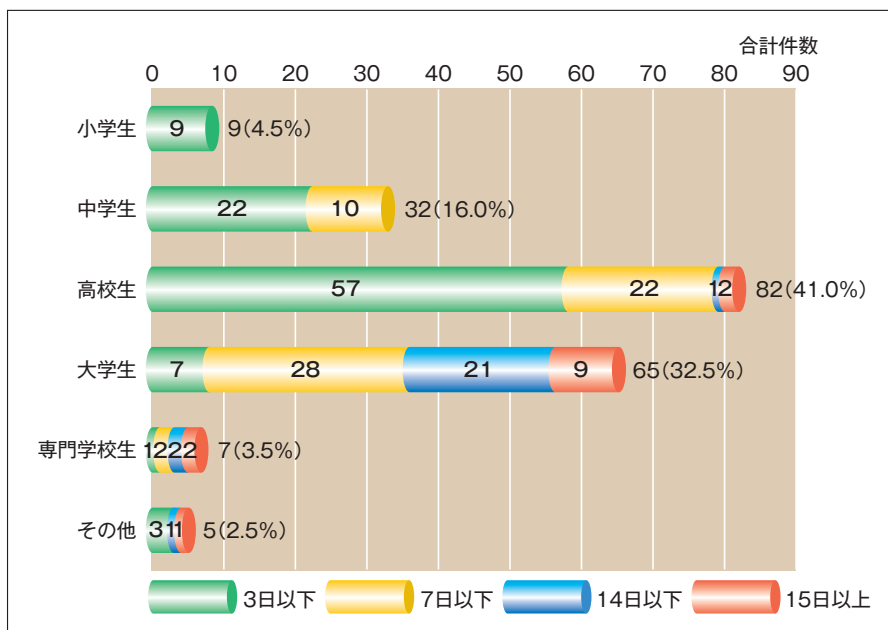
- キャリア教育活動の約 4 割（229 件）を占めるインターンシップについて見ると、実施期間は、3 日以下が 99 件（49.5%）で最も多く、次いで 7 日以下が 62 件（31.0%）、14 日以下が 25 件（12.5%）、15 日以上が 14 件（7.0%）であり、約 8 割が 1 週間以内となっている（図 20）。
- 対象については、小学生が 9 件（4.5%）、中学生が 32 件（16.0%）、高校生が 82 件（41.0%）、大学生が 65 件（32.5%）、専門学校生が 7 件（3.5%）、その他（特別支援学校生、職業訓練生等）が 5 件（2.5%）であった（図 21）。その他のうち、特別支援学校生を対象としたインターンシップが 3 件（五泉、豊川、竹田）あり、多様な人材の活躍推進に向けた活動として特筆される。

【図 20】 インターンシップの実施期間・件数



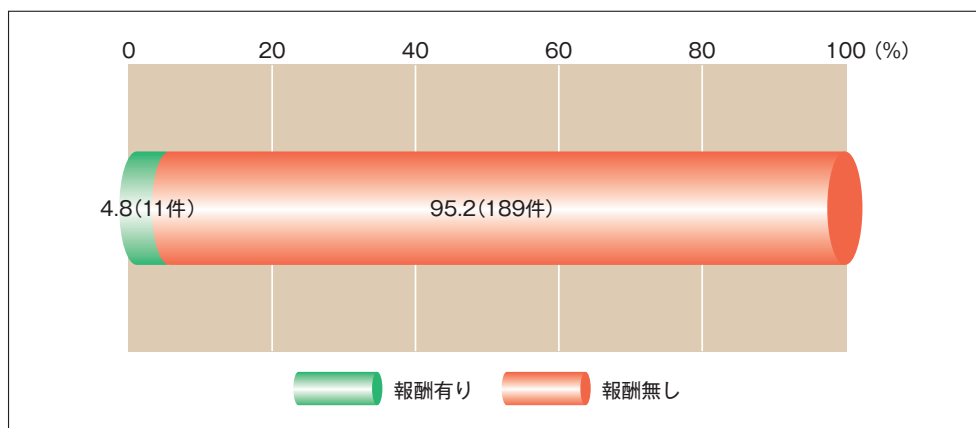
※実施期間を回答していない件数を除いているため、活動数と一致しない。

【図 21】 インターンシップの対象別実施期間・件数



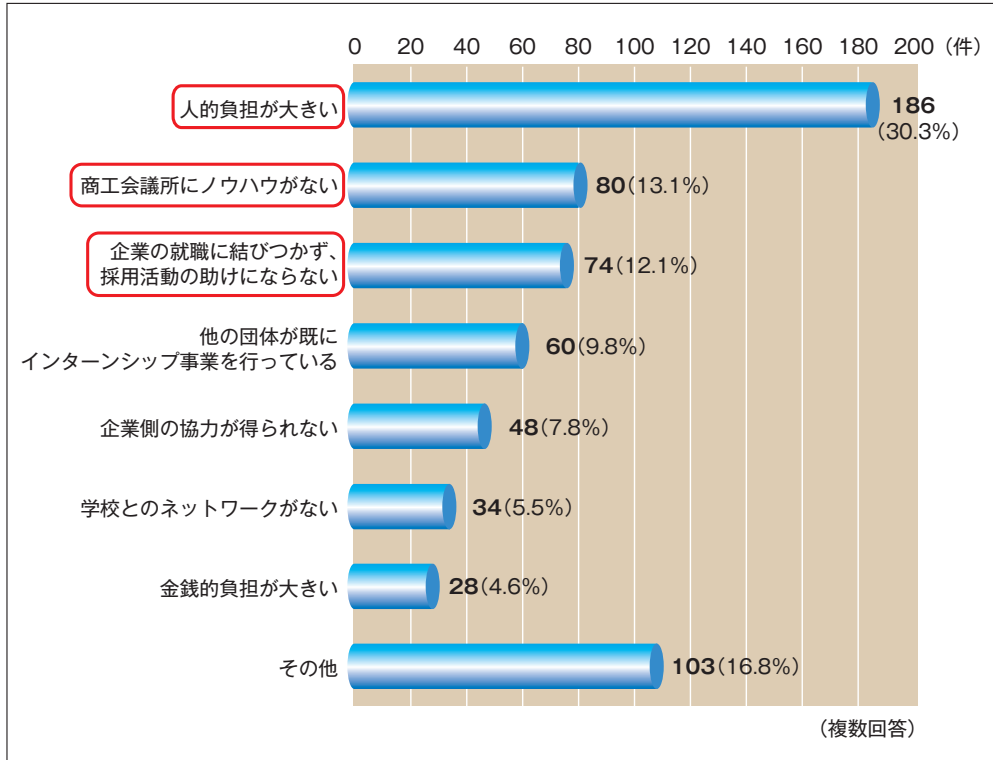
- インターンシップにおける報酬については、ほとんどが無報酬であるが、実働時間に応じて報酬を支払っているケースや、活動支援金・調査費を支給するケースなど、「報酬有り」が11件(4.8%)ある(図22)。

【図 22】 インターンシップにおける報酬の有無



- 商工会議所におけるインターンシップ推進の課題としては、「人的負担が大きい」が186件(30.3%)で最も多く、次いで「商工会議所にノウハウがない」が80件(13.1%)、「企業への就職に結びつかず、採用活動の助けにならない」が74件(12.1%)と続く(図23)。学生を受け入れるための人的負担が大きく、インセンティブとして、就業体験を通じた企業への学生の就職というインターンシップ本来のメリットを求める声が多い。

【図 23】 インターンシップ推進の課題



※その他には、「インターンシップ生に行ってもらおう仕事がない」、「学生が中小企業に興味関心を持っていない」、「学校側がインターンシップに必要な研修制度を確立していない」等が含まれる。

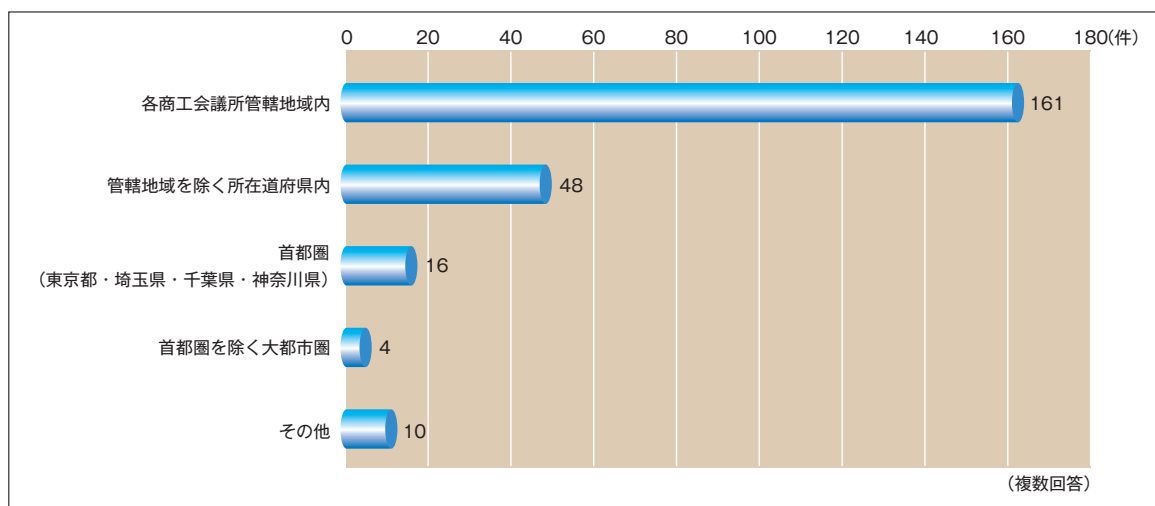
【インターンシップ推進の課題に関する商工会議所の声】

- 受入企業は無償で協力しているのが現状。今後インターンシップ受入企業を増やしていくためには、何らかのインセンティブが必要。
- 人手を割いてインターンシップを実施しても、地元企業への就職というメリットがないと負担感が大きい。
- 学生が希望する体験先の業種に偏りがあり、希望者すべてを受け入れてあげることができない。
- 学校の先生側に、インターンシップの必要性や理解をもっと深めてもらうことが必要。

<地方創生インターンシップ>

- 最近の特徴として、各商工会議所の管轄地域外の学生を地元呼び込み定着してもらう形の地方創生インターンシップに積極的に取り組む動きが加速している。インターンシップ生の居住地域(図24)を見ると、管轄地域内が161件と最も多いが、首都圏(16件)や大都市圏(4件)など管轄地域外が合計で78件あり、約3割を占める。
- 商工会議所においては、地方創生インターンシップを行っていることの情報をついて都会の学生に伝えて参加してもらうか、また、学生においては、所得がない中で地方に向くための旅費をついて確保するかが課題となっている。

【図24】インターンシップ生の居住地域



<各地商工会議所における地方創生インターンシップの取り組み事例>

■塩尻商工会議所(長野県)

塩尻商工会議所は、2014年度より、地域活性化と中小企業の人材確保を目的に、塩尻市およびNPO法人ETIC.の協力を得て、首都圏の大学生を対象とした「実践型インターンシップ」を実施しており、2017年度までの4年間で延べ43名を地元企業が受け入れている。プログラムを修了した学生の中には、同市の企業への就職を決める学生が現れてきているほか、観光客として再び同市に足を運ぶ者、後輩にプログラムへの参加を勧める者がいるなど、様々な波及効果が生まれている。



参加学生とコーディネーター

■春日井商工会議所(愛知県)

春日井商工会議所は、文部科学省の地(知)の拠点校である中部大学と連携し、1社で6ヶ月間就労体験する長期型と、2社で2~3ヶ月間就労体験する多業種型の「報酬型インターンシップ」を実施している。地域企業とのつながりを深めることで地元就職する人材の確保が図られ、2014~2017年度は、同事業に参加した学生のうち5名がインターンシップ受入企業に就職した。

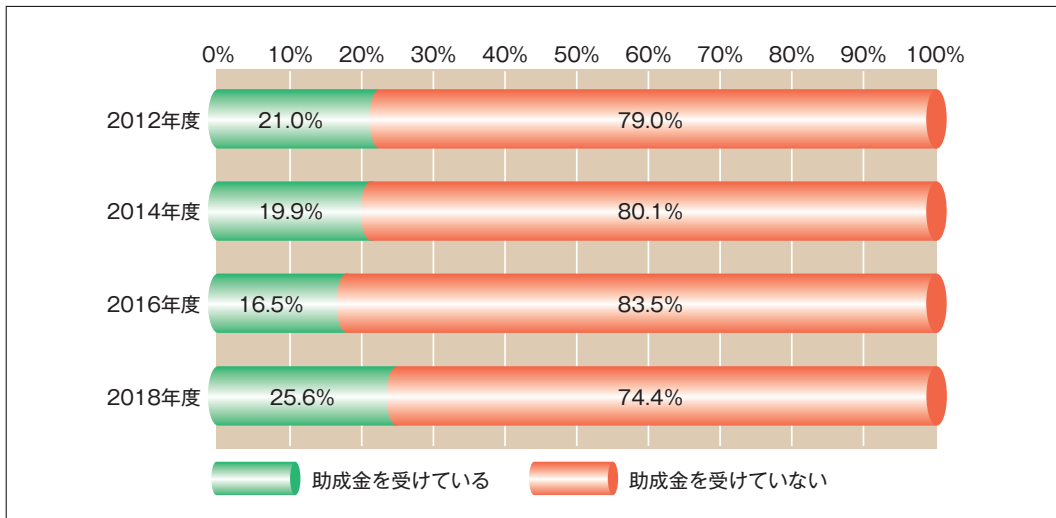


社員として販売する大学生

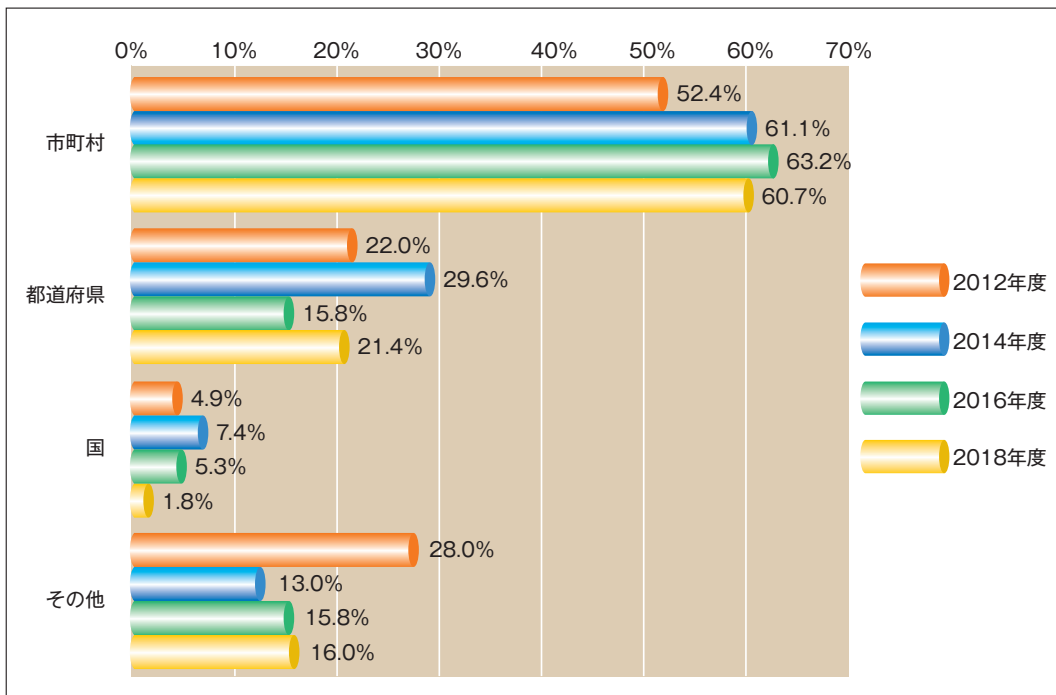
(9) 助成金の有無

- キャリア教育活動を実施するにあたり、行政等からの助成金を受けているのは全体の活動のうち 25.6% で、自主財源で活動している商工会議所が7割強と大多数を占める(図 25)。一例として、夕張商工会議所は、地元自治体が財政再建団体にある中で、地方創生の取り組みの一環として、行政からの補助金がなくても、地域の子どもたちのために自主財源でキャリア教育活動を実施している。
- 助成元を見てみると、市町村が最も多く6割を占める(図 26)。次いで、都道府県、国の順で続き、都道府県が前回調査の 2016 年度から 5.6 ポイント上昇。人口減少・労働力不足に危機感を持つ地方自治体が、若者の地元定着に向けてキャリア教育による人材の育成・確保に力を入れていることがうかがえる。

【図 25】 助成金の有無



【図 26】 助成金を受けて実施している活動における、助成元別割合



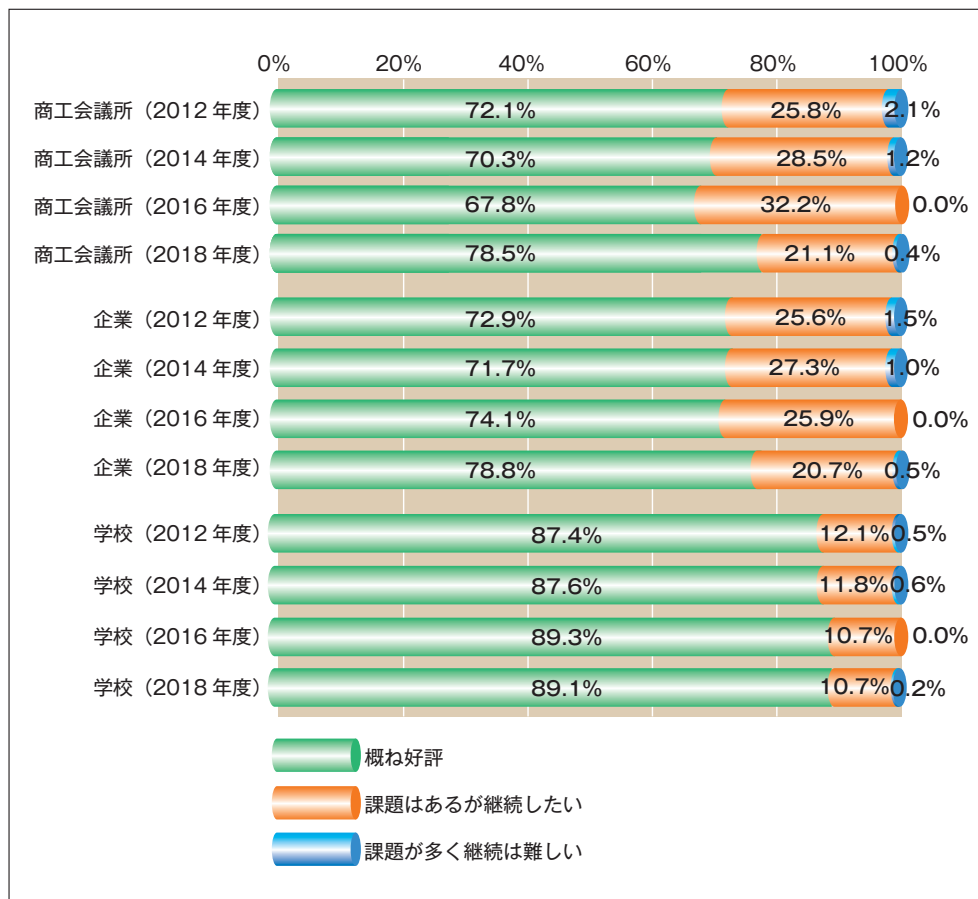
※その他には、「民間企業」、「団体」、「学校」が含まれる。

※一つの活動において、都道府県と市町村から助成金を受けているケースがあるため、合計は 100%にならない。

(10) キャリア教育活動に対する評価

- キャリア教育活動に対する評価は、これまでと同様、学校が極めて高く、「概ね好評」が約9割を占めるなど大変喜ばれている。一方、商工会議所と企業においても、「概ね好評」とする割合が約8割を占め、活動内容が拡充・進化していることが評価を高めていると考えられる(図27)。また、課題を感じていても「継続したい」との声が多く、引き続き前向きな姿勢が見られる。

【図27】 キャリア教育活動に対する評価



(11) 商工会議所が取り組むキャリア教育活動に関する主な意見(自由記述、順不同)

- 就職後3年以内に離職する若者が3割に達していることを踏まえ、小学生段階からキャリア教育を実施し、幼い頃から職業観や就労意識を醸成してあげることが必要。
- 有効求人倍率が高い昨今、大手企業が地元高校にも求人を出すようになった。地方の中小企業の人材確保・育成を支援する施策が必要。
- 採用活動につながるなどの直接的メリットがないキャリア教育活動に人員を割くことは難しいと考える中小企業が多く、キャリア教育活動に対するインセンティブがあるとよい。
- 商工会議所がキャリア教育活動に取り組む際の指針・方針等があるとよい。
- 教育機関は、社会的要請により、コミュニケーション能力の高い人材育成を目指しているが、その実現に苦慮。一方、地方企業は、深刻な人手不足の中、地元高校・大学卒業者の地元定着に苦戦。こうした状況の中、商工会議所は、今後とも両者の橋渡し役となる取り組みを強化していくことが必要。

(12) キャリア教育活動実施商工会議所一覧

会議所名	事業名称	事業内容
函館	人育て事業 奨学金制度	函館地域の産学官連携事業に協力。北海道大学大学院水産科学院の学内推薦を受けた大学院生1名に対し、年間10万円を給付
小樽	市内小学校での食育授業	小樽市内の小中学校に北海道の食のスペシャリスト、和食料理人やパティシエを派遣し、地場産食材の魅力伝える講話や調理実習を通じて、地産地消の大切さを伝えている。食育授業を通じて、地元の食資源の豊富さや、地元で獲れる豊富な食材への関心を高めることで地元への理解を深めてもらい、将来を担う若者の地元定着を目指す
札幌	札幌インターンシップ推進事業	就業体験や職場体験(市近郊の高校生を3日間程度、大学生を2週間程度、商工会議所および会員企業にて受け入れ。計30社75名)・企業家講話などを実施
	北海道教員育成連絡協議会/札幌市教員育成協議会	北海道および札幌市の教育委員会が主催する、教員育成方針を策定する会議に参画。経済界としての意見を反映させるとともに、教員採用面接への参画、また教員向けの講演等を実施
	学生と企業が新事業に180日間本気で取り組むプロジェクト「PROJECT180」	180日間に及ぶ長期インターンシップの実施により、企業と学生が共に取り組む課題解決型のアクティブラーニングを実施。地元企業の魅力を理解してもらうとともに、学生の社会人としての資質の向上を図る
室蘭	インターンシップ事業	商工会議所において、市内の私立高校2年生1名を3日間受け入れ。また、受け入れ可能な会員企業の情報を提供
	室蘭工業大学カリキュラム「地域社会概論」への講師派遣	室蘭工業大学教育カリキュラムである地域社会概論の授業へ商工会議所職員を講師として派遣
	室蘭工業大学学生を対象とした市内企業の合同企業見学会・説明会	室蘭工業大学学生を採用する意向がある企業の見学および説明会を実施
釧路	インターンシップ事業	商工会議所において、市内商業高校2年生2~3名を1週間受け入れ。学校で学んでいることが、社会で具体的にどのように活かされるかを学べる軽作業を実施。職場内での対人コミュニケーションの重要性についても学ぶ
	職場一日体験	小学3年生3名程度を対象に、1日職場体験を実施。計50名
	釧路市教育大綱策定に係る意見交換会	釧路市教育大綱策定の際に、釧路市との意見交換会に参加
帯広	十勝学講座	社会人講師を派遣し、十勝に関する講座を開催。また、フィールドワーク(現地体験実習)も実施
	インターンシップ事業	商工会議所において、専門学校1年生1名を2週間受け入れ
北見	オホーツク企業合同セミナー	北見工業大学および道内大学卒業予定者を対象にオホーツク企業合同セミナーを開催(参加企業46社、参加学生55名)
岩見沢	インターンシップ支援事業	市内高校に対し、市内事業所のデータ提供として商工名簿を提供
網走	起業意識醸成事業	学校の授業に講師を派遣し、起業意識醸成のための授業を行った。網走市内で2校の小中学校に対して実施
栗山	小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業	地域未来づくり会議を開き、地元栗山町の魅力を理解してもらう取り組みを段階的に実施
美唄	インターンシップ事業	会員企業において、市内中学2年生対象に実施。1社あたり2~5名程度受け入れ
紋別	インターンシップ事業	商工会議所において、市内高校のビジネス科2年生を1名受け入れ
	スマイルプロジェクト	ビジネス科の学生が手掛ける商品開発や地域課題解決へ向けた提案活動に対し、青年部(YEG)が企業人として実務に基づきアドバイスを実施
森	インターンシップ事業	商工会議所において、町内の高校1年生3名程度を2日間受け入れ
富良野	インターンシップ事業	会員企業において、市内の緑峰高校2年生計96名を4~5日間受け入れ
遠軽	地元企業合同説明会	地元企業合同説明会の実施
江別	インターンシップ事業	商工会議所において、市内高校3年生1名を2日間受け入れ。簡単なデータ入力と集計作業、振込依頼書等の書類作成、会計システムの操作を実施
芦別	合同企業説明会	会員企業の来春の求人を取りまとめ、市内はもとより、市外の高校生にも参加してもらう説明会を実施。また、地元企業に就職している若手社員の就活体験談と社会人になったの感想を話してもらう
	職場体験実習	商工会議所において、地元高校から2年生を対象に1名、2日間受け入れ。電話応対や事務の補助等を実施
夕張	インターンシップ(職場体験)	夕張市内の高校2年生を対象に市内企業・官公庁等15ヶ所程度で実施
	社会人講師派遣 夕張人材バンク	地域や産業振興の課題について高校生を対象に50分1コマで講義を実施 夕張人材バンクおよび社会教育委員会の委員長に専務理事が就任。前者は生涯学習の推進、後者は企業のPRを実施
伊達	インターンシップ(職業体験)	会員企業のほか、伊達市役所、市内の保育所、医療機関、農協、漁協等において、市内の高等学校2校の2年生を対象に、1社あたり1~2日間の日程で開催。計46事業所、100名参加
苫小牧	地元大学における講座開設	地元大学の後期講座(地域経済論:1時限90分全15回)を担当。会員企業の役職員を講師として派遣し、各企業の概要や企業理念、現在の取り組み状況等を講義、単位認定までの評価を行った
	会員企業合同研究会	地元高専の学生(主に本科4年生)に会員企業の事業内容等について理解を深めてもらい、会員企業への就職促進を図るため、会場に企業のブースを設置し、1回30分の説明を計4回実施
留辺蘂	インターンシップ(職業体験)	高校生:会員企業において、地元高校の2年生を1社当たり1~2名で3日間受け入れ。計24社25名 中学生:商工会議所が会員企業と中学校の間に立ち、受け入れ先の調整を行い、会員企業において地元中学の2年生を1社当たり1~3名で1日間受け入れ。計12社28名
	オホーツク企業合同説明会	大学生を対象に合同説明会を実施
千歳	インターンシップ(職業体験)	会員企業において、市内大学2年生を対象に、1社あたり1~3名、2日間~1週間受け入れ
登別	登別市パートナーシップ推進事業	市内の諸機関と連携し、インターンシップや看護体験を実施

会議所名	事業名称	事業内容
恵庭	サケ種卵里親事業並びにサケ稚魚放流式	教育支援事業の一環として、公益社団法人北海道さけ・ます増殖事業協会よりサケ種卵の供与を受け、恵庭市教育委員会協力のもと、市内の小中学校 13 校へサケの種卵を各 800 粒配布。12 月～3 月にかけて里親事業として飼育した後、4 月に放流式を実施
石狩	キャリア教育連携	北海道科学大学の学生・教員に対し、工業部会の会員企業の企業見学会・交流会の開催。北海道科学大学の教授との交流会の実施
弘前	学都ひろさき未来基金「グローバル人材育成事業」	大学・行政の予算と商工会議所が中心となって企業から募る寄付金によって、基金を創設。弘前大学の学生を中心とした海外留学体験等による人材育成事業を実施
	長期企業等派遣研修	主に進路指導を担当する高校教諭を 1 年間受け入れ、商工会議所の業務の中でも特に地元企業と接する場面を中心に業務を担当してもらう
	ロボット・ワークショップ	子どもたちにプログラミング的思考を身に付けてもらい、将来様々な分野で活躍し地域に貢献できる人材を育成するため、小学 4・5・6 年生を対象にプログラミングによるロボット操作の競技大会を実施
八戸	職場体験事業	小学 5・6 年生が 4～5 名で架空の株式会社を立ち上げ、資金調達から商品開発、仕入、販売、納税までを体験してもらい、社会の仕組みを学ぶとともに、仕事の楽しさも知ってもらう
十和田	十和田地区事業所と就職希望生徒との懇談会	就職者の職場適応等、雇用の安定を図るため事業所、関係機関が連携を密にして施策を推進する
黒石	インターンシップ（就業体験学習）	商工会議所において、地元の商業高校生 2 名を 3 日間受け入れ。事務作業、事業所訪問、イベント準備等を実施
盛岡	岩手県立盛岡商業高等学校評議委員会	評議委員会への参画
一関	インターンシップ事業	市内の普通高校・工業高校の 2 年生各 2 名を、時期をずらして 3 日間受け入れ。夏・秋イベント準備作業、経理伝票の整理作業を実施
花巻	東北地域大学間連携インターンシップ受け入れ事業	岩手県内の大学において、岩手県を中心とした東北地域の大学間連携インターンシップを企画・実施。県内市内の大学生等が対象
奥州	職場体験学習	市内の商業高校および普通科高校の 2 年生を対象に、商工会議所の事務作業やイベント業務を体験
北上	就職講演会	卒業生から就職活動の取り組みや就職後の仕事の様子を聞き、就職活動や仕事に対する心構えを学ぶ
仙台	インターンシップ（職業体験）	商工会議所において、市内の大学生 15 名程度を 1 週間受け入れ。商工会議所の業務を理解してもらい、広く地元企業に対する理解を深めてもらうための企業訪問等を実施
	マッチング・トーク・ライブ	青年部（YEG）企業が 20 社程度集い、学生向けに社長の思いや企業の特徴を伝える事業を実施
気仙沼	しごと場あそび場ちよいのぞき気仙沼	気仙沼市特有の企業や観光地にて、様々な年代を対象とした体験型のイベントやワークショップを開催。造船所や漁具屋、魚の解体ショーの見学、寿司職人や漁師の体験などが可能。また、体験一覧や観光地を記載した冊子を作成し、観光客や市内の学生に配布
古川	ジュニアエコノミーカレッジ in 古川	1. カリキュラムやルールの説明と株式会社について学んだうえで、販売する商品をどのくらい売り、どのくらい儲けるのか考えて「プラン」にまとめる。また、帳簿の簡単な書き方や初のビジネスマナーを学ぶセミナーを開催 2. 秋まつり会場でチーム（模擬株式会社）ごとに模擬店を開設し販売実践を行う 3. 決算の方法を学んで、各々の模擬株式会社の決算を行う。内容を「決算報告書」に記入し提出してもらう。最後に決算の結果を発表 4. 成績の良いチーム（模擬株式会社）の表彰式・税金贈呈式を行う
能代	デュアルシステム	商工会議所および会員企業において、市内の高校 2・3 年生 78 名を 3 日間受け入れて、業務体験を実施
大館	短期型インターンシップ（就業体験）	商工会議所において、市内の工業高校 2 年生 2～3 名を約 3 日間受け入れ
	課題研究	地域資源を活用した企画・商品開発・販売等
	特別講師派遣	地域産業の紹介、キャリア教育への協力等
横手	インターンシップ事業	商工会議所において、市外高校生 1 名を 2 日間受け入れ
	IT エースをねらえ！プロジェクト	次世代の IT を担う人材を見つけ、地域の IT 化を促進するためのリーダーを育成することが目的
湯沢	インターンシップ事業	商工会議所において、市内高校 2 年生 3 名を 3 日間受け入れ。企業巡回に同行、パソコンでの軽作業、夏祭り装飾品の作成作業等を実施
	こどもマルシェ（アントレプレナーシップ教育）	夏祭りの際、商工会議所玄関先で高い体験。オリジナル商品を制作し、観光客に販売
大曲	商工会議所まつり	未来を担う子どもたちに地域の企業や仕事を知ってもらうため、祭りの会場で職業体験を実施。木工品や花火玉の製作、ロボット操作、駅長体験等
山形	ジュニア・インターンシップ事業	1. 推進会議の開催 2. 面談会および事前セミナーの開催 3. 職場体験の実施（地区内の高校 2 年生を対象に 2～5 日間受け入れ、計 400 名程度） 4. 事後アンケートの実施
鶴岡	鶴岡・田川地区高校生就職祭	高校 3 年生の就職希望者の就職活動支援として、働き始めて間もない先輩からのメッセージ発表、企業ブースでの経営者・採用責任者との仕事説明交流会を開催
	高校 2 年生就職ガイダンス	高校 2 年生を対象にした職業観醸成セミナーを開催。就職に関する情報提供、就労観の醸成のほか、基本的な生活態度やマナー、将来に向けたキャリア設計について学ぶ
	管内高等学校の地元企業視察への助成	管内の高等学校が行っている地元企業視察の際の貸切バス使用について助成する（上限 1 校あたり 70,000 円）

「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」集計結果

会議所名	事業名称	事業内容
米沢	インターンシップ事業	商工会議所において、市内の商業高校2年生を1名を3日間受け入れ
	米沢地域人材確保・定着促進事業	1. 地域企業を学校や学生に知ってもらう事業 2. 学生と地域企業のマッチング 3. 就職後の定着促進 4. Uターン、Iターン促進のための事業
	米沢方式インターンシップ事業	会員企業において、市内の高校生、大学生を対象に、1社あたり1～2名受け入れ。期間は会社ごとに決定
新庄	職場体験・インターンシップ受入企業データベース	市が作成したインターンシップ受入企業のデータベース作成に協力。データベースには、会員企業・非会員企業共に含まれる
	新庄未来の担い手育成プロジェクト Shin-Job 体験	市内のすべての中学校へ企業が赴き、体育館を会場に中学生が企業の事業内容を模擬体験する
	山形大学基盤教育「社会理解」講座	山形大学の社会基盤教育の授業の一環として、最上地域の企業が同大学に赴き、自社の活動内容と地域への思いを講演
長井	職場体験	教育委員会からの協力要請により、会員企業において職場体験を実施。市内中学1・3年生を対象に3日間実施。会員企業に対しても協力依頼を行う
	創業支援・人材マッチング事業	大学2校の学生に対する市内企業見学会を開催。4社が実施
天童	少年少女発明クラブ	月1回クラブを開講、講師（現職や退職した理科の先生など）が子どもたちにもものづくりを教える
	ドローン出前授業	1. 模型を用いた理科の学習 2. ドローン本体やドローンシミュレーターを用いた学習
	租税教室	金融部会の会員が、税金の使われ方や納税の意味などに関する出前授業を行う
郡山	インターンシップ事業	会員企業において、市内高校生を対象に1社あたり3～5日で実施（22社）
会津若松	インターンシップ事業	商工会議所において、若松商業高校2年生2名を3日間受け入れ。中心商店街に出て、経営指導員とともに、空き店舗調査の補助を実施
	ジュニアインターンシップ事業	中学校と会員企業の仲介。会員企業において、市内中学生を1社2～3名で2日間受け入れ。計91社377人を仲介
いわき	いわき商工会議所インターンシップ	7月～8月にかけて、地元大学生が市内企業、行政機関にインターン。昨年度は81社に201名が3～4日の期間で実施。地元高等教育機関等と連携し、地元企業への理解促進・定着、学生のキャリアアップ等を目的に、商工会議所が2000年から事業開始。近年は、U I J ターン促進に貢献させるべく、首都圏や県外の大学生の参加募集にも注力
	いわきアカデミアプロジェクト	小学生から大学生までを対象に人材育成を実施。小学生に対する企業ガイドブック配布や、中学生への職業観醸成を目的とした講座の実施のほか、高校生や大学生を対象にした、特産品開発や自分の働き方をじっくり考える講座の設置など、各年代に応じた、特色のあるプログラムを提供。地元理解の深化や地元就職率向上を目指している
	ジュニアエコノミーカレッジ	商工会議所青年部主催。市内の小学生高学年を対象に経済教育（模擬会社設立、資金調達、商品考案、市内商業施設での販売実践、決算、納税を体験）、起業家精神の育成を目的とした事業。合宿や研修などを行いながら理解していく。毎年市内10校程度から約50名が参加
白河	職業現場実習	商工会議所において、市内商業高校2年生を5日間受け入れ
須賀川	岩農ショップ須賀川店	中心市街地の賑わい創出や住民への利便提供とともに、生徒と市民の交流や店舗運営による実践社会教育を通して生徒の資質向上に資することを目的に岩瀬農業高校の農産物の直売所を運営（年4回）
新潟	新潟地域学習	地域イベント、特に新潟まつりの運営や行事内容等について説明
	インターンシップ事業	商工会議所において、県内私立大3年生を2～4名、2週間受け入れ
上越	上越市キャリア・スタート・ウィーク	中学校における授業の一環として、子どもたちの勤労観および職業観を育てるために、市内中学2年生（22校）を対象に、1社平均2～3名5日間以上の受け入れ。2017年度は1,560名、400社以上で受け入れた
長岡	企業実習・職場体験	会員企業において、市内高専の学生1名を1週間、市内中学生4名を2日間受け入れ。一般事務の補助・イベント等の手伝いを実施
	高校生長岡ラーメン選手権	出場校の学生が、事業計画などについて学ぶとともに、ラーメン店の出店を通じて、商品開発・PR・販売を体験学習し、就業観の形成、将来の地域経済を担う人材を育成する
柏崎	ほんちょうマルシェ	定期市における学生による販売
新発田	新発田市・胎内市・聖籠町圏域就職支援事業	一定のルールのもと、学校と企業間のインターンシップ事業の取次ぎを実施
新津	新潟薬科大学との協力連携事業	1. 学生ランチMAP 商店街の飲食店を学食として活用 2. キャリア形成実践実習 地域のボランティア活動に学生が関わる授業を実施 3. 地域活性化論 大学1年生を対象とした授業で、まちづくりに積極的な商工業者等に登壇してもらい、担当教授との掛け合いで講義を実施 4. 社会調査論 大学3年生を対象とした授業で、まちづくりに積極的な商工業者等へ学生がインタビューを行い、職業観を養う
	インターンシップ・職場体験	高校生：商工会議所において、工業高校生2名を3日間受け入れ 中学生：商工会議所が運営するまちの駅「ぼっぼ」において、市内中学2年生10名程度を受け入れ

会議所名	事業名称	事業内容
燕	GOOD JOB つばめ推進事業	市内の中学生を対象に職場体験を実施。376社で計1,066名を各5日間受け入れ。また、職場体験活動の手引きの作成、リーフレットの作成、事業所や家庭への配布、受入企業の開拓も実施
	専門学校生を対象にした企業体験	新潟県最大の専門学校を持つNSGと提携。専門学校2年生を対象に、期限付きで募集(1社1~3名)。説明会や募集も実施した
村上	村上市キャリア・スタート・ウィーク	商工会議所および会員企業にて、中学2年生(計8校462名)を対象に実施。商工会議所では、2名を3日間受け入れ。会員企業(186社)では、1社あたり数名で、原則3日間受け入れ。また、キャリア・スタート・ウィークの実行委員会を職場体験前に1回(前年度の結果報告と当年度の計画概要等)、職場体験後に1回(当年度の実施状況)開催
十日町	まちの産業発見塾	市内企業の業務紹介の場を出展ブース形式で設営し、中学生を対象に、業務内容の紹介や体験の場を提供する
	オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト	キャリア教育の一層の充実を図るため、関係機関で協議を行い、インターンシップや学校、地域産業、企業との連携を行っている
加茂	インターンシップ事業	商工会議所において、市内大学生1~2名を1週間程度受け入れ
五泉	特別支援学校就業体験	県立特別支援学校の生徒を毎月10名程度受け入れ。業務内容は、商工会議所が会員に対して毎月発行する広報誌へのチラシ等の折り込み作業等
富山	COC+富山大学「産業観光学」講義	富山大学の一般教養講義「産業観光学」の講師として、会頭、専務理事が講義
	富山産業観光図鑑の学校への配布	富山産業観光図鑑を各小学校・中学校・高校等へ配布したところ、小学校、中学校から社会の授業の参考テキストとして使用したいと申し出があり、学生数分を追加配布し、授業に活用されている。高校では課外授業にて、企業見学の資料として活用されている
高岡	高岡こどもおしごと博	小学生が、地域の職業を体験する事業。地元企業の仕事に触れることで、働くことへの興味関心や郷土愛を育むことを目的に実施
氷見	市内企業研修会	就職希望の高校3年生を対象とした市内企業見学会(見学企業は新卒求人を行う事業所)
	お仕事探検隊	小学生を対象とした職場体験見学会。キャリア教育の一助となるよう、夏休みの1日を利用して、親子で地元の職場見学、体験会(工作教室等)を実施し、地元企業を知り、働くことについて親子で話し合う場を提供
	富山大学連携 広告制作事業	地元大学と連携し、学生が応募企業へ訪問し要望を伺い企業PRポスターやパンフレットを授業の一環として作成
射水	いみず企業見学バスツアー	射水市内企業の施設見学を実施することで、企業の雰囲気や印象・従業員の働く姿を直接肌で感じ取ってもらい、自分に適した企業への就職促進と人材確保を図ることを目的としている。今回で3年目となり、昨年同様に5コースを設けて実施
	射水市合同企業説明会	射水市内企業の若年労働者の確保と、学生の就職活動支援を目的に開催
魚津	20歳の挑戦事業	商工会議所において大学生を受け入れ。特に、大都市圏などに通う大学生のU1Jターンを狙い、定住促進を図るために、公共施設や社会問題などを調査・研究し、行政などへの提案をしてもらう
砺波	「14歳の挑戦」連絡協議会	会員企業において、中学2年生を1週間受け入れ。実際の企業体験を行う
	工業高校生市内企業見学事業	これから進路(就職または進学)を決定する市内工業高校2年生を対象に、就業に対する意識醸成、社会勉強等に加え、市内企業を知ってもらうこと、併せて先生方にも市内企業の業務を知ってもらうことを目的に実施。企業から、会社概要、業務内容に加え、社会人としての心構えやマナー、技術的なことを説明してもらう
滑川	商業科研究課題発表会	地元高校商業科による研究課題発表会を実施
小松	ものづくり企業見学会	県内大学5校の1~3年生を対象に2日間、バスを貸し切ったの企業訪問を実施。訪問先企業では企業概要の説明と工場見学を実施(1日3社程度の企業訪問を実施)
輪島	インターンシップ・職場体験	商工会議所において、市内の高等学校(商業系)2年生1名を3日間、年2回受け入れ
加賀	インターンシップ事業	商工会議所において、高校生工業科生徒を対象とした研修等を実施
白山	地域を知るプロジェクト	産学連携事業の一環として、年2回、商工会議所が会員企業を地元の短期大学に紹介(1回あたり3社)。紹介した各会員企業担当者が、短期大学2年生を対象に企業の事業内容等の説明を行い、学生と意見交換を行う
	インターンシップ事業	商工会議所において、市内高校1年生1名(1週間・年1回)、市内大学・短期大学1年生1~2名(1~2週間年2回)を受け入れ
上田	インターンシップ事業	商工会議所において、地元大学から3年生1名、2週間受け入れ
長野	インターンシップ事業	商工会議所において、市内女子大学・短期大学2~3名、地元女子大学提携の台湾の大学生2名を受け入れ
	企業人と女子学生との座談会	企業人と女子学生との懇談会を通じて、学生の職業観の醸成を図る
松本	建設職人塾	会員企業において、地元実業高校生を対象に1社あたり1名~4名を3日間受け入れ。現場作業の見学および職人と一緒に作業体験を実施
	まつもと広域ものづくりフェア	将来を担う人材(小・中学生)に対し、ものづくりや理工学、先進技術を使った展示・デモンストレーション、プログラム作成教室を実施し、ものづくりや理工学への興味を持ってもらうよう促す。また、高校生に対し、企業見学会を開催し、地元企業を知ってもらうとともに就職先としての意識づけを促す
	インターンシップ事業	会員企業において、地元工業高校の2年生全員を対象に、3日間のインターンシップを受け入れ(2018年度:生徒186名、企業84社)
飯田	出張授業	青年部のメンバーが学校へ出向き、それぞれの仕事や職業観について話す。1人2時間(2回)授業を行い、生徒は選択して2人の話を聞く
	委員会への参画	1.「飯田市キャリア教育推進協議会」の副会長に会頭が就任 2.「飯田市小中連携・一貫教育推進委員会」の委員に副会頭が就任
	インターンシップ事業	商工会議所において、高校生1名を2日間受け入れ

「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」集計結果

会議所名	事業名称	事業内容
岡谷	インターンシップ事業	1. 会員企業において、大学生を受け入れ。受入企業を募集し、リスト化して広報・仲介している 2. 会員企業において、高校生向け職場見学を実施。受入企業を募集し、リスト化して地域の高校に配布し受け入れを仲介
	若者未来の応援事業	岡谷労務対策協議会会員企業の人事担当者が、市内中学校に Outreach、就職観の育成、地元企業を知ってもらうこと、キャリアを身近に感じてもらうことをコンセプトに講義を実施
諏訪	小学生向け市内産業紹介冊子	市内小中学生向けに、市内の産業紹介冊子を作成し配布
	勤労体験学習	会員企業において、市内の中学3年生を、1社あたり2名程度、3～5日間受け入れ
須坂	ジュニアエコノミーカレッジ in すざか	小学校5・6年生の児童が模擬株式会社を設立し、商品の企画から製造、仕入れ、販売、決算まで一連の商売体験を実施
	児童の職場体験学習	夏休み期間中に小学6年生が地元(学区内を主とする)の商店等で1日の職場体験を行う(1社1名で3日間受け入れ、計20社40名)。商工会議所は「働く意義」の講演とビジネスマナー講座を担当し、青年部の会員が小学校へ Outreach 授業を実施
伊那	伊那市中学校職場体験学習	商工会議所において、市内中学2年生を年2回、平均2日間受け入れ。商工会議所の活動の体験、会員企業への訪問、社長との面談を実施
塩尻	実践型インターンシップ	商工会議所の会員企業で課題を持っている企業をピックアップして、毎回プロジェクトを組む。コーディネーターが、日々学生が出す日報から学生の気持ちや悩みを読み取り、相談に乗り、サポート。最後は、市の補助金を活用しているため、市長、会頭、市議会議員などを招いて成果報告会を開催。参加者は、首都圏の大学生で、1社1～3名程度、夏休み・春休みの1カ月～1カ半月受け入れ(最大10社20名程度)
	出張シリゼミ	商店街振興事業であるまちゼミを学校に Outreach して行う出張シリゼミ。学校のキャリア教育と連携し、地元企業の社長の話を聞いてもらい、様々な職業・商売の内容を知ってもらう。約1時間の授業で12講座を用意し、学生自身が聞きたい職業を選び、聴講する
小諸	小諸市産学官連携協議会	1. 産学官サロン、省エネ・節約・節電講演会 2. 信州大学、小諸市産学官連携協議会、一般財団法人浅間リサーチエクステンションセンター主催によるものづくりパートナーフォーラム(製品技術発表会、研究シーズ発表会、展示会) 3. 四季成りイチゴ研究
信州中野	ふるさと JOB セミナー	様々な業種の経営層が講師となり仕事の内容などについて話をし質疑を受ける
駒ヶ根	高校就業体験学習	商工会議所において、市内高校商業科の2年生を1名、2日間受け入れ。パソコンを使っただけの簡単な事務作業、庶務的な業務を実施
	キャリアフェス in 東中	子どもたちに地域の企業・文化・風土などを知ってもらうイベントを実施
飯山	いいやま雪まつり実行委員会	いいやま雪まつり実行委員会の組織、運営方法について講話を実施
	飯山高校評議員会	年数回の学校評議員会に出席
千曲	長野大学インターンシップ	商工会議所において、県内の大学(長野大学)3年生2名を5日間受け入れ。商工会議所の業務・販売業務・まちづくり事業について学習
	長野大学松下ゼミ	「よろづやプロジェクト」の推進
	清泉女学院大学川北ゼミ	マーケティング、広報の実地体験
水戸	中学生職場体験受け入れ事業	水戸市教育委員会と締結した「職場体験活動に関する協定」に基づき、市内中学生の職場体験の受入協力企業を募集、リスト化し、教育委員会に情報提供
土浦	公立学校教員選考試験面接員推薦	茨城県教育委員会では、教員選考2次試験(面接)の面接員を民間企業の人事担当者の協力を得て行っており、この人選について商工会議所が推薦を行った
日立	ひたちあきんど探検少年団	小学生が、大学の教員に商品開発について学ぶほか、企業等へ訪問し職場体験等を実施
	ひたちものづくり探検少年団	工業部会主催で、小学生を対象に会員企業にてもものづくり体験を実施。地域の方々や産業界の協力により、働く意味や働くことの大切さを子どもたちに伝える
	高校生のインターンシップ事業	会員企業において、市内工業高校2年生を1社あたり2～5名で3日間受け入れ。計50社137名。会社概要研修、社内の見学、軽微な作業体験、従業員とのコミュニケーションを実施
石岡	インターンシップ事業	商工会議所において、市内商業高校2年生2名を受け入れ。商工会議所業務を体験
結城	平成29年度結城市企業交流による移住促進活動支援業務	移住・定住促進事業において、移住希望者が移住行動を実行するにあたっては、移住希望地での就業が最も重要な要素である。そこで、移住希望者と市内企業との接点づくりや、テレワーク就業を促進している首都圏企業に対して、茨城県と連携した受け入れ活動に取り組み、仕事とセットでの本市への移住促進を図ることを目的に、業務に取り組み。対象は、市外の若年者。1社2名で3日間受け入れ
ひたちなか	ひたちなか地区ものづくり人材育成委員会	高校生を対象に、企業見学会を実施
	那珂湊高校「みなと版デュアルシステム」	会員企業において、県立那珂湊高校の3年生を対象に、1社あたり1～3名を約17日間受け入れ。計20社33名
宇都宮	宇都宮商工会議所青年部「おもてなし出前講座」	社会人としてのマナーの重要性と働くことの意義について、わかりやすく伝える
鹿沼	職場体験事業	商工会議所において、市内商業高校2年生3～5名(5日間)受け入れ
小山	いいとこ教え隊おやま	市民によるまちづくり事業として「いいとこ教え隊おやま」が中心となり、中学生を対象としたひたちなかの名所を案内するボランティアガイドを実施
	おやま産学官ネットワーク	小山市内の企業、高等教育機関、行政機関をメンバーとしたネットワーク主催で、大学生を対象に、企業視察やシンポジウムを開催
大田原	インターンシップ事業	会員企業にて高校生を対象としたインターンシップを実施。商工会議所は周知に協力
佐野	佐野松桜高校オリジナル商品販売・佐野市の観光PR活動	栃木県のアンテナショップ「とちまるショップ」(東京スカイツリータウン内)のスペース内で、高校生が開発した商品(ソース、おかし、インスタントラーメン、ドレッシング)の販売、佐野市の観光PR活動を年2回実施(開設した平成24年から毎年実施)。商工会議所で日程・内容確認、申請手続、商品発送等を実施
真岡	インターンシップ推進事業	会員企業(計35社)において、市内の工業高校2年生160名を5日間受け入れ。学校が主体的に受け入れ先と協議して実施

会議所名	事業名称	事業内容
高崎	インターンシップ事業	商工会議所において、商業高校生や短期大学生、大学生、小学校教諭等を受け入れ。商工会議所業務を体験。年間を通してインターンシップ実習生の受け入れを積極的に行っている 【受け入れ実績】 商業高校生：前・後期でそれぞれ4名4日間 短期大学：6名5～10日間 国立大学：1名5日間 小学校教諭：1名3日間
	高崎ビジネススクール	市内の学生が経営しているカフェを会場とし、大学生を対象にマーケティングに特化したビジネススクールを実施。講師は市内の経営者10名。11/22～12/20毎週木曜日、全5回開講し、延べ58名が参加
	小・中・高、児童・生徒向け市内企業見学ツアー	市内の児童・生徒を対象に企業見学バスツアーを開催。夏休み期間中、小学生・中学生・高校生と年代ごとに実施日を分け、市内の3企業を巡るバスツアーを実施し、延べ100名が参加
前橋	地（知）の拠点校との連携協定に基づく人材育成事業	地（知）の拠点校である共愛学園前橋国際大学と連携協定を締結し、地元産業界のニーズを踏まえたカリキュラム改革などを行い、地域が求める人材育成事業を展開
	群馬大学社会情報学部連携授業	国立大学法人群馬大学社会情報学部のカリキュラムの中で、前橋商工会議所の常議員・議員企業との役員や若手社員を講師として派遣し、業界動向などの講義や企業見学を実施
桐生	未来創生塾	商工会議所が関係機関と協力し、小・中学生を対象に地域資源・地域力を活用した様々なジャンルの体験型教育プログラムを実施
	高校生就職ガイダンス	1. 市内優良企業の総務および労務部門の方を講師として管内高校へ派遣。就職に対する取り組み・職業選択の考え方を講義する 2. 模擬面接会面接官派遣等を実施
	就業体験学習	商工会議所において、市内の商業高校2年生2名を2日間受け入れ。商工会議所の業務概要説明、簡単な事務作業、会員企業訪問同行などを実施
館林	実務研修	商工会議所において、近隣の大学3年生1～3名を2週間受け入れ（イベント開催の企画・運営業務、研修会への参加、その他商工会議所事務の補佐）。また、会員企業において、市内中学2年生を、1事業所あたり4～5名で2日間受け入れ
	中学生職場体験学習	中学生職場体験学習を受け入れてくれる企業を募集し、中学生が自分の興味のある仕事を体験する
伊勢崎	短期インターンシップ	商工会議所において、商業高校1年生2名を、2日間受け入れ。イベントの手伝い等を実施
沼田	総合学習	将来沼田に就職し生活してもらおう意識を高めることを目的に、沼田花火大会の関連業務を体験
	復興支援気仙沼物産市	市内（南中学校）の中学生1～3年生が、イベント開催時に気仙沼復興支援として商品を気仙沼市から仕入れて販売。生徒会役員を中心に約30人が、歩行者天国となったイベント会場にテントを張り1日限定販売。売上金の一部を義援金として気仙沼市に寄付している
渋川	群馬県産業教育振興会	教育振興会への参画
	渋川工業高等学校評議会	評議会への参画
川口	川口若手ものづくり人材育成プロジェクト・インターンシップ事業	1. 進路に関する企業人からの講演会 2. インターンシップ（市内の工業高校2年生を1社あたり2～5人で3日間受け入れ、計95社188人） 3. 高度技術者による特別授業 4. 企業実習（工場見学） 5. 教員研修（教育の民間企業体験） 6. ものづくり体験ツアー（小・中学生を対象とした工場見学）
熊谷	立正大学3・4年生対象業界セミナー（合同企業説明会）	合同企業説明会・地元企業の紹介
	熊谷発ビジネスプランコンテスト	ビジネスプラン作成講座（トレーニングセミナー）
さいたま	インターンシップ事業	商工会議所および会員企業において、市内高校生を受け入れ
秩父	インターンシップ事業	会員企業において、市内高校生を受け入れ。また、インターンシップを受け入れてくれる企業を募集し、地元高校に情報を提供している
本庄	インターンシップ事業	商工会議所において、市内3つの高校から1年生それぞれ2名ずつを、3日間受け入れ
深谷	深谷市中学生社会体験チャレンジ推進委員会	中学生を対象に、市内事業所にて職業体験を実施
	高校生のための合同企業説明会	高校生を対象にした県北地域合同企業説明会
蕨	伝統織物双子織の伝承に関する事業	伝統織物「双子織」の伝承
	お菓子開発の事例発表	1. お菓子開発の事例発表 2. 学生の事例発表に対する審査委員
飯能	就職模擬面接会	就職希望の学生を対象に模擬面接を行う
上尾	上尾・桶川・伊奈地域雇用対策協議会	1. 会員企業からインターンシップ受入企業の募集 2. 大学生を対象とした就職面接会の実施 3. 就職促進懇談会に参画
狭山	インターンシップ事業	商工会議所において、首都圏の大学3年生を10日間受け入れ。商工会議所活動を通して地域とのかかわりを体験してもらう。当市最大の祭りの準備から当日の運営等を体験
草加	産学ネットワーク事業・業種別懇談会	地元企業のPRと地元企業への就職促進を、学生向けセミナーと懇談会の2部構成で実施
	草加モノづくり探検隊	小学生の夏休みにあわせ、市内の製造業（一部農業）を訪問し、モノづくり体験を実施。5日間10コースで定員は400人
千葉	インターンシップ事業	商工会議所から会員企業に対して、インターンシップの受け入れについて希望をとり、希望のあった事業所情報を教育機関に提供

「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」集計結果

会議所名	事業名称	事業内容
木更津	インターンシップ事業	商工会議所において、木更津総合高校・学校法人秋葉学園・千葉経済短期大学の学生2名ずつを3日間受け入れ。事務処理、PC操作、入力作業等の業務を体験
市川	インターンシップ事業	商工会議所において、短期大学生1名を受け入れ。商工会議所業務補助やイベント当日のスタッフ業務を体験
	小学生そろばん授業支援	小学校3・4年生を対象にそろばんの授業を実施
松戸	千葉県小規模事業者支援提案型事業「松戸伝統工芸技術展」	1. 文化と伝統に関する展示 2. 未来を担うイノベーション展 3. ものづくりコーナーにおける実演や体験
	インターンシップ事業	商工会議所において、インターンシップ（職場体験）と、職場実習（OJT）を通じてビジネスマナーやPCスキルを取得してもらう。市内大学に通う大学2年生を対象に100日程度（2名）、市内専門学校生17日間（1名）をそれぞれ受け入れた
佐原	インターンシップ事業	商工会議所において、首都圏の大学生を対象に、職場体験や地域のまちづくり体験を実施
茂原	夏の体験教室	会員企業（11事業所）の協力のもと、夏休み中の市内小学生等を対象に、仕事の楽しさや難しさを体験し、地元企業に関心を持ってもらうことを目的として実施
	出張職場体験	青年部メンバーが市内中学校を訪問し、職場体験を実施。135名の生徒が参加した
野田	キッズタウン	小学生向けの職業体験。1日参加券を購入すると、終了時間まで体験できる方法で実施。1体験は約30分で、終了するごとに「お給料」として100円分の疑似通貨を進呈。この疑似通貨は会場内のイベントブースのゲームコーナーやイオンノア店の一部店舗で利用可能
東金	インターンシップ事業	商工会議所において、市内の商業高校2年生を3名、3日間受け入れ。軽微な事務作業、市内巡回、イベントの準備や補助等を実施
	開かれた学校づくり委員会	学校が地域の学びの拠点となるべく課題等の解決に向けた検討を行う「開かれた学校づくり委員会」に参画。学校と地域が連携するための取り組み強化等について議論
習志野	インターンシップ事業	商工会議所において、大学2年生を受け入れ
成田	平成29年度生産流通課現場実習	会員企業および市内の非会員企業（12事業所）において、市内高等学校生産流通科の2年生を1社2～6名で5日間受け入れ（計39名）。職業現場にて作業を体験してレポートを提出するとともに、受入企業は参加者個々人の評価を学校に報告して改善を図る。また、1、2年生合同報告会、文化祭での発表を通じ成果を内外に報告
流山	わくわくキッズマルシェ	1. 事前学習：商売の基本について学ぶ 2. 産業博：商い体験 3. 事後学習：売上結果報告
東京	東商リレーションプログラム	「会員企業の魅力発信」と「大学初年次からの職業観の醸成」を目的に、大学1～2年生が、会員企業を訪問し、各企業が実施する学生受け入れプログラムに参加する。大学生の参加目的および学習成果を明確にするため、「事前学習」「事後学習」をさせるほか、参加学生全員が一堂に会する「事前研修会」を実施。2017年度は、大学生1～2年生（延べ25大学912名）を延べ57社にて受け入れた
	高校生向けインターンシップ	東商各支部が、地元の高校が実施するインターンシップの受け入れに協力する会員企業を募り、学校との橋渡し役となるほか、各種講師派遣事業を実施し、地元企業の魅力を伝えるとともにこれから社会人になる上での心構えなどを説く。2017年度は、都立商業・工業高校生を2～5日間受け入れた（1社につき数名、全116社、延べ18校）
	インターンシップ交流会 他	会員企業のインターンシップ受け入れ推進のため、会員大学のインターンシップ担当者との交流会として実施。事前に面談希望を取り、学校側とプロフィールシートを共有。当日は事前情報に基づいて希望する学校と会員企業がマッチングできる仕組み。2017年度は、大学3年生22名（17大学）が、23社でマッチングした
青梅	多摩工業高等学校デュアルシステム推進委員会	インターンシップ、長期就業訓練等の実施に際しての運営上の指導・助言
	青梅総合高等学校全日制課程学校運営連絡協議会	保護者や地域住民に理解され、かつ、学校運営に保護者および地域社会の方々の意向を反映し、地域に根ざしてより発展していくための支援
立川	地域ものづくり力発見事業	会員企業において、小学生を対象に、市内で製造されている製品への認識、企業活動に対する理解を深め、コミュニケーションを図った（目的：子どもの理科離れや理系学力の低下が危惧される中で、地域の生産現場を見たり技術者の話を聞いたりすることで、日本経済を支えてきた「ものづくり」の技術力を体感し、ものづくり産業への理解を深め職業感を育成する）
町田	インターンシップ・職場体験	商工会議所および会員企業において、市内大学生1名、市内高校生2名、市内中学生2名をともに5日間受け入れ。一環として、「社会人インタビュー」を実施し、学生が企業担当者等から、業務内容やその企業を選んだ理由、これから取り組みたいことについてインタビューしている
横浜	横浜インターンシップ制度事業	会員企業と市内大学生のインターンシップのマッチングを実施（市内に本部を置く9大学在籍の学生が対象）
	市内大学との合同会社説明会	時期は各大学の希望により開催。会場は各大学内の施設を利用している。大学ごとに参加企業を募集し、当日はブース形式の合同説明会を実施
	はまっ子未来カンパニー推進委員会	会議への参画および事業周知への協力
横須賀	よこすかキャリア教育推進事業	「未来の横須賀を担う人財に育ってほしい」という目的のもと、市・市教育委員会と連携し、商工会議所に事務局を置き、産業界からの職業人講師の派遣等、キャリア教育コーディネーターを配置し、産業界と教育界の橋渡し役を担っている
	横須賀商工会議所・関東学院大学との連携及び協力に関する協定	横須賀地域の持続的発展や問題解決に向けて、関東学院大学の持つノウハウと学生のアイデアや行動力を、商工会議所が実施する地域振興事業と融合させ、新たな街づくりを市に提案

会議所名	事業名称	事業内容
川崎	川崎インターンシップ事業	商工会議所および会員企業において、川崎市内にある8大学の学生を1社あたり1～20名で5～14日間受け入れ(計25社100名)。スケジュールは、3～4月受入企業の募集、5～6月参加学生の募集、7月学生選考、8～9月実務実習、11月報告会の実施、2月推進協議会の実施
小田原箱根	高校進路担当者とSİK(西湘異業種研究会)事業所との情報交換会	企業からは求める人材像について、学校からは生徒の就職観についての情報収集を行い、意見交換を実施
	若年者雇用支援事業	「働く」を知るセミナー&高校生と企業の交流会(ジョブトーク)
小田原箱根	小田原箱根大博覧会 なりわい体験	小田原・箱根(商工会議所管内)の会員企業に協力いただき、事業所内でなりわい体験を実施。企業・職業を知って体験してもらう機会としている
	インターンシップ事業	商工会議所において、市内大学生2～3年生1名を7日間受け入れ。商工会議所の業務体験ならびに小規模、中小企業の現状を把握してもらえよう、企業訪問に同行などを実施
茅ヶ崎	文教大学高大連携(教員間交流プログラム)	職業直結型のキャリア教育ではなく、チーム学校で取り組み、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえ、小学校段階から大学等の上級学校で、より良く生きていくために必要とされるキャリア教育の重要性、意義について理解を深める。「望ましい勤労観・職業観」をキーワードに、先進的な理論や取組事例、実践プログラムなどを学ぶ
	ビジネス体験隊(起業家教育)	茅ヶ崎市、寒川町、茅ヶ崎商工会議所、寒川町商工会は、次世代の産業を支える人材を地域で育てていくこと、夏休みに子どもたちが「会社をつくる」というビジネスの疑似体験活動『ビジネス体験隊』を2016年度から開催(12年目)。当事業は、「自分で行動すること」、「チームで行動すること」、「ビジネスの視点で考えること」をポイントとし、子どもたちが実体験を通じてチームワークやお金の大切さを学ぶとともに、独創性と行動力・自立心を伸ばし、「ビジネスセンス」や「生きる力」を身につけることを目的とする
厚木	インターンシップ事業	市内の短期大学1年生10名程度を、2名ずつ5つの期間に分けて5日間受け入れ。会議事務の補助やデータ入力、文書の発送、チラシ作成等を体験
鎌倉	かながわ学Ⅱ(経済)	湘南信用金庫が関東学院大学で「かながわ学Ⅱ(経済)」という講座を開講、その中で商工会議所経営指導員が講師として鎌倉市の経済・産業・中小企業の現状や支援事例を学生に講義
大和	大和東高等学校1学年「職業体験」への協力	会員企業において、市内の高校(クリエイティブスクール)1年生(全240名)を受け入れ。職業体験を2017年8月中旬に、1～3日間実施。会員企業51社が協力した。商工会議所では、会報に募集記事を掲載し、会員企業に呼びかけたほか、専務理事から会員企業に直接働きかけも実施した
海老名	インターンシップ事業	商工会議所において、厚木市の湘北短期大学の1年生2名を約20日間受け入れ。主に事務作業(資料作成等)を実施
甲府	甲斐マンガ塾	地元出身漫画家が講師となり、マンガの描き方を教える講座を実施
	ものづくり体験教室	小学生から高校生までの学生に、ものづくりの楽しさを知ってもらい、将来、山梨県内の製造業を担ってもらいたいという思いから、夏休みなどを活用したものづくり体験教室を開催(ペーゴまつくりやペットボトルロケットなどの製作指導)
	よつびしまちづくり総合研究室	学生によるまちづくり、地場産業等の自主的活動をサポート(活動への職員派遣など)
富士吉田	山梨大学客員社会連携コーディネータ事業、学校法人杉野学園との包括連携事業	1. 地域産業の振興および育成に関する事項 2. 地域ブランド育成等に関する事項 3. 人材育成に関する事項
静岡	若者の企業研究機会創出(インターンシップ関連)業務	商工会議所および会員企業において、県内・外の大学2～3年生を15名5日間受け入れた。静岡市内の高校生1～2年生を対象に、1社あたり1～2名を3日間受け入れ(計33社42名)。インターンシップや企業見学など、企業へ訪問する機会を通じ、地元企業の魅力を発信できる講座を開催し、企業研究を促進する。また、静岡市で働く魅力を発信するとともに、高校生に対する就労観、職業観の醸成を図る
	若者の企業研究機会創出業務	高校生や大学生を対象にキャリア教育授業を実施
	企業ガイドブック「静岡で働こう。」	地元の学生や地元を離れた若者向けに、企業の紹介や先輩社員からのメッセージを掲載した企業ガイドブック「静岡で働こう。」を発行。2017年度は31,000部発行し、卒業後3年以内の市内の高校卒業生全員に配布
浜松	インターンシップ事業	青年部にて、大学生を対象とした、職業講話への講師派遣やインターンシップ受入企業の紹介
	モグジョブ	浜松市内の企業の人事担当者が、静岡文化芸術大学を訪れ、学食で学生と一緒にランチをとりながら企業の魅力や仕事のやりがいなどについて話し、認知度の向上を図る。また、就職のミスマッチ防止にもつながる。2018年度は3日間の日程で実施し、学生18名、企業6社が参加。
沼津	地元農産品を活用した新商品の開発	商工会議所青年部からJA南駿、沼津商業高校へ連携を呼び掛け、高校の授業で地元農産品を活用した新商品の開発を提案。成果として、沼津の茶を使用した餃子「沼津餃茶(ぬまづぎょうちゃ)」を開発し、夏まつりや同校の販売実習「ぬまショップ」で販売。その取り組みが2016年度第10回静岡県高等学校生徒商業研究発表大会にて優秀賞を受賞し、その後、東海大会へ進出して優秀賞を受賞した
	新商品のパッケージデザイン制作	沼津商業高校情報ビジネス科の生徒が、洋菓子店の新商品のパッケージデザインを制作
	沼津夏まつりイベント	沼津夏まつりのイベントとして、高校生のブースを設け、企画、運営を行う。また、各高校の特色を活かした体験コーナー、地場産品の販売を行った
三島	三島商工会議所と日本大学国際関係学部との企業実習	商工会議所において、日本大学国際関係学部3年生1名を2週間受け入れ。事務所窓口業務、会館業務を通じて社会人としての基本動作(挨拶、返事、コミュニケーション等)を学んでもらう。また、イベント(三嶋大祭り等)のスタッフ業務も体験し、まちづくりにについても学んでもらう
	みしまなりわい体験塾	三島市内小学生を対象に事業所(お店)を体験する事業。夏休み期間中に開催し、販売体験やお菓子作り体験等を実施。昨年度は38講座、185名が参加

「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」集計結果

会議所名	事業名称	事業内容
富士宮	静岡県立富岳館高校工業テクノロジー系列への支援	富岳館高校工業テクノロジー系列に対して、授業で使用する材料（鋼材の端材等）を会員企業が無料提供などを通じ、学校側との連携強化を図る
	富士宮市立富士根北中学校ドリームジョブカフェへの講師派遣	富士根北中学校が開催するドリームジョブカフェ（キャリア教育推進事業）に青年部会員を講師として派遣
富士	サマーインターンシップ事業	会員企業（青年部所属）にて、高校3年生を対象に、1社3～4名を受け入れ。実施後は受入企業を招いた報告会を学校で開催
磐田	食と農業体験セミナー	農作物の収穫体験を通じ地域の食材を知り、味わうことで市内の農業や地場産品への消費者の理解を深め、興味関心を高める。また収穫体験で市内の農業者や大型店、消費者が協働することで関係構築を図り、「農業と食」をテーマに多様な地域貢献が可能となる
	みんなで軽トラ市いわた☆駅前楽市	年4回、第2日曜日の9:00～12:00に実施。駅前の通り500mに交通規制をかけ、軽トラ106台が集まり、自社のPRや販売を行う。商工会議所や市役所のスタッフだけでは人的に不足するため、地元大学生延べ80名がスタッフとして活動
伊東	伊東子どもビジネス体験塾 BIP (Business Ito Process)	市内小学生を対象に、「自分達の方で作り上げる起業体験」の場を提供し、会社の設立から計画、仕入れ、製造、販売、決算までの一連の流れを学ぶ。商売の魅力を感じてもらおうとともに、青年部メンバーをはじめとする市内企業との関わりを通じて、郷土愛を育むことを目的としている
	職業教育講演	商工会議所職員が各々の知見で、進路・職業観について講演（例：「社会人とは」、「仕事の意義」、「人生目標」など）
島田	島田 YEG みらぶろ高校生と会話をしよう	青年部メンバーを講師として高校へ派遣。テーマ、形式等は都度学校側と打ち合わせて決定
	島田人づくり事業「人財ネットワーク」	経営者を始めとする多くの方が商工会議所の「人財ネットワーク」に登録。小・中・高等学校等に「職業観」や「地域の文化・歴史」等を伝える講師として派遣
掛川	中学校2年生キャリア教育・職場体験学習	会員企業において、市内中学2年生857人が、9月から10月にかけての平日3日間、授業の一環として職場体験を実施
	第8回子ども起業塾ジュニアエコノミカレッジ in 掛川	小学5・6年生を対象に、1チーム5名、計10チーム50名を募集 1. ドリームセミナー：仮想株式会社設立 2. アクティブセミナー2回：商品・店舗計画作成。販売計画のプレゼン実施 3. 販売実践：商工まつりの一般来場者を相手に実施 4. まとめセミナー：決算報告書を作成し発表 5. 表彰式&修了式：市長・会頭出席。修了証授与。各賞・グランプリを発表。市への仮想納税（2017年実績31,810円）
	ほうとく寺子屋出前講座	報徳の教えを日常生活に活かしていくことを目的に、道徳の授業の一環として、市内小・中学生を対象に、冊子「心のスイッチ」を題材とした講座を実施
藤枝	インターンシップ研修	商工会議所において、市内大学3年生1名を2017/9/4～9/15の10日間受け入れ、経営支援課の業務に従事。また、商工会議所主催のサッカー大会運営に従事
	静岡産業大学情報学部冠講座	静岡産業大学における冠講座。地元経済人（会員）による経営理念および各業界の状況を大学へ出向き講義、会員企業での視察を兼ねた研修を実施
	藤枝商工会議所青年部「職業講話」	静岡産業大学を対象に、同所青年部次世代育成委員会が主体となり取り組む出前講座。様々な職業の説明、苦労したこと、生きがい、やりがいなどを伝える
袋井	袋商ショップ	高校生を対象に、学校をショッピングセンターと見立て、店舗運営をして、経営実務を学ぶ
岐阜	鮎菓子たべよー博イベント	岐阜市内の和菓子屋が集結し、岐阜市の伝統菓子「鮎菓子」を全国へ発信するためイベントを継続的に実施。その一環として、地元企業と商業高校が新商品開発や販売促進に一緒に取り組み、地域産業の活性化を図ることを目的とする
	岐阜県産業教育振興会	産業経済界および教育関係者が協力し、産業教育の振興、優れた産業人の育成、県内就職の推進を図り、地域産業の活性化に努める
大垣	大垣地域合同企業展	地元実業高校で企業展を開催
中津川	インターンシップ・職場体験	中津商業高等学校では2年生を対象に職場体験を実施。その一環として、商工会議所において、1名を3日間受け入れ
	ロボカップジュニア事業	講師は外部に委託し活動。ロボカップジュニアは、19歳以下の子どもたちを対象とした、自律式ロボットの競技会であり、中津川大会→岐阜ブロック大会→全国大会→世界大会があり、成績によって上位の大会に進むことができる
	新入社員研修会	新入社員をターゲットに2日間の研修会を毎年実施。1日目は基礎研修、2日目はビジネスマナー、70名前後が参加
恵那	中京学院大学インターンシップ	会員企業において、中京学院大学の学生を対象に、会員企業4社が2週間程度受け入れ
	ジュニアエコノミカレッジ	小学5・6年生を対象に1チーム5名で模擬株式会社を設立し、計画・仕入れ・製造・販売・決算・納税を体験。会員企業4社が2週間程度受け入れ
各務原	職業講話	中学生に職業観育成の一環として、青年部の若手事業者が様々な職業分野の講話を実施
	各務野立志塾	次代のリーダー育成のために市・市教育委員会と実施。産官学のトップリーダーの講話聴講や、市長へのプレゼンに向けた表現力向上プログラム、自然体験プログラムなどを通して、リーダーとしての資質を高めることを目的とする
可児	高校生企業体験ボランティア	産業フェア in 可児において、市内・近隣市町の高校4校から36名を16社で受け入れ。出展企業（会員企業）のブースにおいて、販売や事業説明などの補助を行う
羽島	出張企業説明会	地元県立羽島高等学校3年生を対象に「出張企業説明会」を開催。授業時間を約2時間利用し、参加企業代表者が各5クラスを順に回り説明。会社案内、製品・技術力、サービスなどを高校生にPR（パワーポイントを使用し、1クラス15分ほど。昨年度は7社参加）

会議所名	事業名称	事業内容
岡崎	インターンシップ事業	商工会議所において、大学生（9名、10日間）と高校生（2名、5日間）を受け入れ、学生に対する職場実習（事務・接客対応・イベント運営、業務全般の補助等）の実施
	ものづくり基盤人材育成事業	会員企業（21社）において、工業高校生を1社あたり1～6名で、2～5日間受け入れ（計53名）。企業内研修、企業技術者による学内での実践指導、ものづくり技能大会、ロボット競技大会への支援
	キャリア教育推進事業	高校生のインターンシップ等の機会を増やすため、キャリア教育推進事業地域推進会議（岡崎地区）に参画
豊橋	モグジョブ	地元大学の学食に企業の人事担当者が出向き、学生とランチを食べながら交流する事業。事前に企業と学生が運営サイトに登録。企業は、交流したい学生の属性を選び、学生は興味・関心のあるテーマを持つ企業を選択し、システム上でマッチング。当日まで企業名は公表せず、学生にとっては、企業名で交流先を選ぶことがなく、視野を広げる機会となり、企業にとっては、認知度向上の機会となる
	おもてなしモーニング café	地元高校生が自らモーニングメニューを創作し、材料仕入れから喫茶店舗を使用した販売に至るまでを実施し、地域産業の振興、職業観の育成を図る
一宮	地元高等学校等進路指導教諭と企業採用担当者との懇談会	地元企業の産業人材確保のための活動の一環として、地元高等学校進路指導教諭と地元企業採用担当者との懇談会を実施
	一宮少年少女発明クラブ	次代を担う少年少女にモノづくりを通じて、創造性豊かな人間形成づくりを行う
瀬戸	職場体験	市内8中学校の2年生（計1,122名）が瀬戸市内および周辺地域の事業所（計249社）で2～3日間の職場体験を実施。実施する年度初めに一括して受入企業へ、各学校の職場体験の日程を伝え、受け入れ可能かどうかのアンケートを実施し、その結果を集計し各学校へ伝えている
	高い体験事業	小学校：体験型ワークショップ（貿易ゲーム・カイゼンセミナー）、プロジェクト学習（農業体験・販売体験） 中学生：生き方講座、職業講座、マナー講座、面接講座
	やきものプロジェクト	活動するグループを会社に見立て、製作はもちろん、経営戦略や製造・販売を行う。製造過程では、地元の陶芸家に協力を仰ぎ本格的なやきものを製作。中学生は、瀬戸市の代表的なお祭りである「せともの祭」で販売する。また、地域のB級グルメである「瀬戸焼きそば」を自分たちで製作したお皿で食べるという事業も実施
蒲郡	地元大学への社会人講師の派遣	愛知工科大学における「キャリア形成と職業Ⅲ特別講義」に対する講師の派遣
	AUカフェ	蒲郡市が愛知工科大学内に場所を確保し、そこに地元企業に出展してもらい、大学生と地元企業担当者がコーヒーを飲みながら歓談し、地元企業をより深く知ってもらう企画で、地元企業への就職促進を図るもの。商工会議所は、出展企業の募集に尽力
豊川	あわびの陸上養殖技術の確立に向けての支援	水産高校より水産業の人材育成に向けての支援要請があり、蒲郡市と協調して支援の継続を行った。具体的には、外郭団体である蒲郡技術科学振興会の役員、会員より協賛金を募り、2年間の支援を実施
	豊川商工会議所インターンシップ支援事業	会員企業において、地元の高校（支援学校など含む）18校の生徒を対象とした、インターンシップ受け入れ可能な事業所リストを提供
	子どもものづくり教室	小学生を対象に、月に1回、ものづくり教室を開催。企業OBや地元高校のボランティアなどが指導役を担う。指導員が考案した自作のロボットなどを土曜日の午前中（3時間）に製作
豊川	モグジョブ	愛知大学、豊橋技術科学大学、豊橋創造大学の各学食において、学生と地元企業の担当者がランチをとりながら仕事の楽しさや厳しさについてざっくばらんに話す機会を提供。企業にとっては、自社をPRする機会となり、学生にとっては、担当者の生の声を聞くことのできる貴重な機会となっている
	産学官連携事業（社会人基礎力育成事業）	愛知学泉大学家政学部にて管理栄養士を目指す学生と特産品協議会にて、安城市の特産品（農産物）を活用した新メニュー、新レシピ等の開発を共同で実施するとともに、学生の社会人基礎力の向上も目指す
西尾	鶴城丘高校インターンシップ	会員企業において、市内の高校1校（2年生の希望者のみ）を対象に1社あたり、1名～4名で4日間受け入れ（50社85名）。また、受入企業を募集する（商工会議所会報にて周知）
春日井	報酬型インターンシップ	会員企業において、中部大学の学生を対象に、1～6ヵ月間のインターンシップを実施（多業種型と長期型あり）。46社に延べ60名が参加した。商工会議所では、受入企業を募集。大学はキャリア教育の一環として参加学生を募り、マッチングを実施。事業終了後は、研修報告書で評価を行い、今後活かしていく
	社会人講話会	1クラスに1名青年部員が講師となり、自社の仕事の内容などを紹介し、働くことの意義などを具体的に生徒に話す
	工業高校インターンシップ	会員企業において、春日井工業高校1・2年生を受け入れ。期間は、1日間のみと、3～5日間の2パターンがある。37社にて100名が参加。商工会議所では、受入企業を募集し、取りまとめて高校へ提供。高校側が、企業と生徒のマッチングを行い実施している
小牧	職業ミニ体験	「こまき産業フェスタ」の中で、小学生等を対象に、万華鏡・コースターをつくる「ものづくり体験教室」や、フラワーアレンジメント、ロボット操作体験等を実施
犬山	未来を生き抜く人材育成事業地域推進会議（愛知県公立高校）ハローワーク管内	商工会議所および会員企業において、当該地域大学生1・2年生3名と、近隣地域の短期大学1年生2名を各10日間受け入れ。キャリア教育推進のための会議体にも参加
	学内企業説明会	企業を募集し、大学3年生を対象に説明会を実施
大府	そろばん授業ボランティア講師派遣	市内の小学校8校にそろばん授業のボランティア講師を派遣
四日市	しごと密着体験（ジョブシャドウイング）	実際に職場で働く人の様子を生徒が観察することを通して、職業や仕事、「働くこと」、「プロとは何か」について認識を深め、商業高校での学習意欲を高めることが目的

「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」集計結果

会議所名	事業名称	事業内容
津	インターンシップ事業	事前登録のあった会員企業において、市内の商業高校、農林高校2年生を約3日間受け入れ。昨年度実績では、受入企業登録31社、受入人数131名。また商工会議所では、インターンシップ受入企業を随時募集し、学校への橋渡し役を担っている。体験前には事前マナー研修や地元経営者の講話等も実施
	ものづくり企業見学会「夏休み親子教室」	ものづくりの興味や地元企業を知る良い機会として、また、就業観を醸成することを目的とし、市内の小中学生を対象とした、ものづくり企業等への見学会を実施
	市内企業魅力発見バスツアー	県内外の大学生を対象に市内の優れた企業を知ってもらい、津市へのU・I・Jターンの促進を図ることを目的として市内企業魅力発見バスツアーを実施
伊勢	地域が応援する中高生セミナー	地域の経営者の方々を講師に迎え、地域の中高校生を対象に「聞く・語る・学ぶ」をコンセプトとしたセミナーを開催。このプログラムは、中高生が経済・社会の仕組みについての知識向上と「学ぶことと地域への関心」、「将来の職業人としてのイメージ」を高め、将来「新しい伊勢」を担う人材を育成していくことを目的とする
	ビジネスパーク伊勢	地域の各種経営者たちが市内中学校にて出前授業を行い、働くことの大切さや大人になることの楽しさ、やりがいを伝える
松阪	インターンシップ事業	商工会議所および会員企業において、松阪商業高校(市内)、久居農林高校(県内)の2年生を1社あたり1～5名を約3日間受け入れ(計17社41名)
	わくわくスクール	企業経営者等による出張授業
鈴鹿	「みえのおしごと」魅力発見に関する事業	議員総会で受入企業の募集案内を配布
	キャリア教育推進地域連携会議	会員企業および市外企業、行政機関において、市内普通高校2校の2年生を対象に、夏休みまたは冬休みに1社あたり1～4名で3～4日間受け入れ(計54社、うち市内公的機関9団体、88名)。企業、中学、高校、行政がインターンシップの実施状況や将来地域を担う人材育成について情報交換を行う
桑名	桑名工業高校生徒による産業現場実習	会員企業において、市内の工業高校2年生を対象に1社あたり2～3名で5日間受け入れ(計80社159名)。7月の第1週に生徒が受入企業に出向いて現場実習を行う
上野	インターンシップ事業	会員企業において、地域の職業高校の1・2年生を中心に1社あたり2～3名、3日間受け入れ(283社580名)。また、合同就職セミナーを実施
尾鷲	若者と中小企業とのネットワーク構築事業	会員企業および市内行政機関において、市内の高校1～3年生の希望生徒を1週間受け入れ(2016年は延べ11社10名、2017年は7社11名)。また、市内全小学校の1～6年生の希望生徒を、1社あたり3～20名で半日受け入れ(2017年は計9社48名)。高校生は、事前にインターンシップ希望者を募りインターンシップ前に講座を2回開催。後日生徒による発表会を実施
名張	インターンシップ事業	高校からの依頼に基づき、会員企業へインターンシップ受入企業募集の案内を送付
熊野	林業体験遠足	市内小学生4～6年生18人に、熊野市を代表する産業である「林業」の仕事に関する講義・グループディスカッション・ワークショップや間伐体験を通じ、小学生とともに「楽しみながら学ぶ」をテーマに開催
	熊野サミット2017	熊野地域では、様々な大学や学生団体が年間延べ400人以上個々に地域に入って活動している。彼らが一堂に会し熊野地域で活動する合同活動報告会を開催し、パネルディスカッション等を実施した
敦賀	こどもお仕事体験	小学生を対象に、地元企業の仕事内容を体験し、働くことの大切さ、大変さを学んでもらい、将来の職業選択に役立ててもらおう
武生	中小企業人材確保支援事業	会員企業において、職業系高等学校を対象に職場見学会を実施
大野	インターンシップ事業	商工会議所において、職業系高校生2名を約3日間受け入れ
	産業パンフレットの作成	地域中小企業の人材確保・地元定着率向上を目的に、技術・働く人々・製品・サービスなどを紹介したパンフレットを地元中学2年生全員に配布
小浜	ふるさとしごと塾	<ul style="list-style-type: none"> 小学生向け：市内全12校の6年生を対象に、地元企業経営者らによる出前授業や企業見学 中学生向け：市内全2校の2年生を対象に企業経営者らとのディスカッションや出前授業 高校生向け：市内全2校の2年生を対象に、夏休み中に3社程度を見学するバスツアーを実施して就職活動に入っていき意識付けとして実施 大学生向け：小浜自動車学校へ免許取得にきている合宿生を対象に、地元企業をバスツアーで見学してもらい就業観の醸成とともに1ターンの促進を図る
鯖江	職場体験	商工会議所において、市内の中学2年生2名を2日間受け入れ
	キッズカンパニー in sabae	小学5・6年生15名を対象に、会社を設立し運営する体験を実施。生きる力を身に付けるとともに、就業観の醸成だけでなく、お金の大切さを学び、働くことの大変さややりがいを感じてもらおうことが目的。全5回の講座を実施し、会社の設立(投資家へのプレゼン)から、仕入れ、商品の生産・販売、決算報告を行う
大津	インターンシップ事業	商工会議所において、市内商業高校生4名(夏2名、冬2名)を3日間受け入れ
彦根	働き方探究プロジェクト2018春「企業経営者と語り尽くす@彦根商工会議所」	大学生を対象に、滋賀大学経済学部との連携プログラムとして、全15回の講座を実施。地域経済の振興を担う商工会議所のミッションや業務について理解するとともに、企業経営者から創業や事業承継時の思いを聞く。学生はディスカッションを行い、学生の立場から若者に響く企業の魅力発信のアイデアの提案も行う。これにより企業や事業経営、地域活性化について理解を深め、大学での専門教育への意識づけになることを目指すと同時に、自らのライフデザインを考えるきっかけを作る
	合同企業説明会	大学生を対象に、各企業の人事担当者からの業務概要の説明を受ける
	Tech Kids CAMP in 彦根	小学3～6年生を対象とした短期集中型プログラミングワークショップを実施。別途1日版ステップアップ講座「子どもプログラミング教室」も併せて実施している

会議所名	事業名称	事業内容
草津	インターンシップ事業	商工会議所において、中学生2名を1週間受け入れ。商工会議所業務(事務・庶務の補助)を体験する
守山	中学生商い体験、ようこそもりやまモノづくり教室へ!親子サイエンス教室	小学生を対象にしたミニソーラーカー作り、ロボットカー作り。中学生を対象にした商い体験の開催
京都	小学生への環境学習事業	小学校への環境問題に関する出前授業の実施(年間24社、42校、児童3,851名)
	インターンシップコンシェルジュ事業	会員企業において、大学生を受け入れ。6月下旬から7月中旬に計7社28名、11月初旬から12月初旬に計7社21名。これまでインターンシップに取り組みなかった企業を対象に、学生カフェ(hyggen)等を利用して学生との接点をつくり、インターンシップの実施をサポート
	～京商を知るっ!～先輩職員との交流&講演会運営体験	商工会議所において、大学生15名程度を1日間受け入れ。商工会議所の活動紹介・職員との昼食懇談会・業務体験を実施
宇治	インターンシップ事業	商工会議所において、大学2校より各1名ずつ10日間受け入れ
	COC事業、COC+事業	COC事業、COC+事業への支援を実施
大阪	大商インターンシップ	商工会議所において、関西圏の大学に通う大学3年生～修士1年生を、1回あたり20名程度で、年間計6回受け入れ。6回のうち5回は1日間、1回は5日間受け入れ、座学(組織・事業について)、事業見学、グループワーク、若手職員との懇談会などを実施
	大阪企業家ミュージアム職場体験	大阪企業家ミュージアムにおいて、市内の中学校3校から、2年生各2名受け入れ。1人の企業家を取り上げ、自らが原稿を作成し、職場体験最終日に自校の教員や生徒の前でプレゼンテーションを行う。これにより、情報収集、情報編集、プレゼンテーション力、そして自尊感情の醸成を図る
	大阪企業家ミュージアム出前授業	大阪市内の小・中学校、ならびに大阪府内の高校・大学に、「大阪の企業家に学ぶ」をテーマに商工会議所職員が出前授業を実施。2017年度実績:小学校5校、中学校13校、高校1校、大学3校
堺	インターンシップ事業	商工会議所において、大阪府内の短期大学生および大学3・4年生1名を5日間受け入れ。実習日誌・実習評価報告書を提出後、本事業に関するアンケート調査を実施
高槻	インターンシップ事業	商工会議所において、大学2年生1名を2週間受け入れ
岸和田	インターンシップ事業	商工会議所において、大学生2名を10日間受け入れ。商工会議所の日常業務体験等を実施
吹田	大学における授業への講師派遣	地元大学(2大学)からの依頼に基づき、商工会議所職員を講師として派遣。地域産業の状況について、講義を実施
豊中	インターンシップ事業	商工会議所において、提携大学の学生1名を1週間程度受け入れ。事務補助、夏祭などイベント補助を実施
泉佐野	職場体験	会員企業において、市内の高校3年生を、1社あたり2名、3日間受け入れ。計3社18名
北大阪	インターンシップ事業	商工会議所において、市内の大学3・4年生1～4名を、年2回、1回あたり20日間程度受け入れ。商工会議所業務の体験を通じ、多くの商店主等と接する機会を提供
守口門真	中学生の職場体験	門真市内の商業施設において、中学生の職場体験を実施
和泉	合同企業説明会	大学生を対象とした合同企業説明会への協力
大東	大東市の工場見学・職業体験協力企業MAP	小・中学生を対象とした工場見学・職業体験MAPを発行
	中小企業の社長と若年求職者の交流事業	大学1年生を対象に「仕事の意義」について地元社長による講話および意見交換
	経営者によるキャリア教育学習出前授業	中学生を対象に「仕事の意義」について地元社長による講話および意見交換
神戸	兵庫県経営者協会インターンシップ事業	商工会議所において、兵庫県内の大学生3年生等を3日間受け入れ
尼崎	次世代の産業人材育成事業	1. 会員企業10社において、市内の小学4～6年生を対象とした職場体験イベントを実施 2. 会員企業4社において、市内の中学生を対象とした工場見学ツアーを実施
	女性起業家派遣事業	大学生を対象に、女性起業家を講師として、自身の生い立ちからなぜ起業するにいたったか、起業するにあたっての課題等を講演
明石	明石市「トライやる・ウィーク」推進協議会	明石市「トライやる・ウィーク」推進協議会に参画し、事業の円滑な運営を支援。また、市内の企業において、中学2年生を5日間受け入れて職業体験等を実施。計約2,500名、900社超
伊丹	合同就職面接会	大学生を対象に合同就職面接会を実施
三木	トライやる・ウィーク	三木市トライやる・ウィーク推進協議会が実施する同事業において、商工会議所が、市内中学2年生2～3名を5日間受け入れて職業体験等を実施
洲本	ジュニアエコノミーカレッジ	小学校5・6年生が1チーム5名で模擬株式会社を設立し、計画、仕入れ、製造、販売、決算、納税までの一連のサイクルを体験するプログラム。この体験を通じて商売とは何かを学んでもらうとともに、「自ら決めて行動できる人材」の育成を図る
高砂	アントレプレナー入門授業	高校生を対象に、授業で専門家(中小企業診断士、金融機関・税理士等)を招いて商売のノウハウを学び、その後、商店街の空き店舗にて実際に出店
	まちなかキャンパス	大学生を対象に、ワンコイン講座を開催(大学と商店街のイベント共同実施)
	トライやる・ウィーク	市内の企業において、中学2年生が1週間職業体験をする
加古川	若者キャリア体験事業	高校生を対象に企業見学会等を実施
小野	勤労体験学習<インターンシップ>	商工会議所および商工会議所直営店舗において、市内の県立高校生各1名を5日間受け入れ
宝塚	トライやる・ウィーク	「トライやる・ウィーク」は、地域や自然の中で様々な体験活動を通じ、豊かな感性や創造性などを自ら高め、自分なりの生き方を見つけるよう支援するもの。商工会議所は、会員企業への周知等を実施
奈良	滋京奈地域人材育成協議会	滋賀県、京都府、奈良県の大学、産業界等が連携し、府県を超えたインターンシップに取り組むとともに、低年次向けや課題解決型、中長期など様々なプログラム開発に取り組んでいる

「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」集計結果

会議所名	事業名称	事業内容
大和高田	魅力産業創造フェア	高校生が、魅力産業創造フェアに出展する企業の補助およびブースにて販売活動を実施
和歌山	インターンシップ制度	商工会議所において、地元大学の学生1名を約1週間受け入れ。商工会議所の業務内容全般についての説明や地元企業への訪問等を通じて地域の現状を把握し、仕事における責任や重要性を学ぶ
	ロボカップジュニア・ジャパンオープン2018 和歌山大会	2018年3月31日～4月1日に本大会を開催。地元の中学校・高校・大学等、教育機関や県・市の教育委員会との連携のもと、小・中・高校生に対し、プログラミング教育の重要性やモノづくり人材の育成について広く発信
	わかやま商工まつり	毎年秋に開催する恒例イベントの中で、化学や木材など、当地域の地場産業をPRするブースを出展。小・中学生を対象に、木と触れ合う機会や化学実験を通してその面白さを伝える機会を提供
新宮	インターンシップ事業	商店街の各店舗において、市内の中学校3年生を、1店舗あたり1～3名、3日間受け入れ
	新規高卒就職者ビジネスマナー講習会	高卒就職者を対象に接遇等の講習会を開催
	知っとこガイダンス	地元高校生を対象に、地元企業を知ってもらう機会として、企業説明会を実施
御坊	わかやまインターンシップ/わかやまインターンフェア	商工会議所において、高等専門学校生1名を5日間受け入れ
紀州有田	有田市少年少女発明クラブ	小学2年生から中学1年生までを対象に、箕島中学校の工作教室にて毎月2回、木工工作、電気科学の実験等の活動を実施
米子	ジュニア世代創業チャレンジセミナー	1. 会社設立から銀行借入、販売、決算といった一連の企業活動を体験するセミナー（2016年度） 2. 企業活動の一つである商品開発を体験するセミナー（2017年度）
	技術シーズ交流会	企業経営者を招き、高等専門学校生からの技術シーズ発表を実施
	南部町版職場体験「しごと☆未来体験」	商工会議所において、鳥取県西部の中学2年生1名を4日間受け入れ。会報誌制作補助、原稿作成、取材同行、貸会議室の会場セッティング補助等を実施
倉吉	地域社会体験	商工会議所において、市内の短期大学1年生3名を2日間受け入れ。地域の子どもたちに、地域社会を体験してもらう機会を提供
	わかもの育成支援活動	市内の普通高校1・2年生約200名を対象に、社会人講師14名による講義を実施
浜田	MAKE DREAM 2017 島根県立大学浜田を元気にするアイデアコンテスト	島根県立大学の学生が、地域資源を活用したビジネスアイデアを発表
出雲	ジョブ・ドリームキッズinいずも	大学協力店制度による学生への生活支援等
	社会人講師の派遣	会員企業において、市内の小学5・6年生を受け入れ。計17社47名。それぞれの企業が体験ブースを設置し、参加者1人あたり6ブースを回って職場体験
	社会人講師の派遣	中学1年生を対象に、6名の青年部会員を講師として派遣。生徒は6グループに分かれ、希望の講師の職業観を聴講
安来	中心市街地活性化業務・賑わい創出業務	全国専門高校実習品の販売とオリジナル商品販売を実施
江津	ふるさと・キャリア教育推進事業	商工会議所において、市内の中学3年生1～2名を2日間受け入れ
岡山	インターンシップ事業	商工会議所において、市内の大学2年生1～2名を4ヶ月間受け入れ。企業視察や商店街訪問、商工会議所業務などを体験
倉敷	「課題研究」における企業演習	商工会議所において、市内の商業高校3年生1名を17日間程度受け入れ。週1回約2時間程度の企業体験として、事務処理等を実施
津山	インターンシップ事業	会員企業において、小学生を受け入れ
玉島	玉島商工会議所インターンシップ	商工会議所において、管内商業高校2年生2名を2日間受け入れ。会員企業の訪問、簡単なデータ入力などを実施
玉野	玉野市立高等学校インターンシップ事業	商工会議所において、市内の商業高校2年生1名を約3日間受け入れ
児島	産業祭の中での模擬店出店	高校生が授業の一環で、地元生産者や製造業者とのコラボにより、商品を開発、これを地元産業まつりにテント出店し、販売
	出前講座	小・中学生を対象に、「せいのまち・ジーンズのまち児島について」、「繊維産業の歴史や、地元のブランド等について」と題して出前講座を実施。自分の故郷に誇りを持ってもらうことを目的とする
	職場体験	倉敷市児島産業振興センターにおいて、小・中・高校生の視察を受け入れ。施設内において、繊維産業の歴史の講座や、棉繰り糸つむぎなどを、機材を使って実際に体験
笠岡	おかげいち	商店街に隣接する寺の縁日に合わせ商店街の賑わい創出事業として1996年10月より毎月実施。地元小学校の3年生が、年1回「おかげいち盛上げ隊」として参加し、店の販売の手伝いや肩たたきコーナー、おかげいちに困んだクイズ・ゲームコーナーを設けてお客様を迎える
井原	職場体験推進会議	会員企業を中心に、市内5つの中学校の2年生および市立高校（定時制）3年生を、1社あたり数名、3日間程度受け入れ。計175社
	企業説明会/職場体験	1. 企業説明会 会員企業が市内の高校へ出向き、1年生120名を対象に自社の企業説明を実施 2. 職場体験 会員企業8社において、高校2年生を1社あたり10名程度受け入れ
備前	産業振興出前授業	小学校を対象に備前市の産業をわかりやすく説明する授業を実施
	備前市産業フェスタ	備前市産業フェスタを開催し、来場者に備前市の産業をPRするとともに、企業が、管内高校生に対して自社PRを実施するなどして、企業と高校の連携を強化

会議所名	事業名称	事業内容
高梁	吉備国際大学社会科学部経営社会学科「高梁の産業」講義	吉備国際大学社会科学部経営社会学科で、市内経営者が講義を行う「高梁の産業」に14人の経営者が講師として登壇
	学生支援事業	1. 大学生の学生生活便利手帳（市内の店舗、病院、交通機関などの紹介等）の作成、配布 2. 留学生への生活支援用品の贈呈、歓迎会の開催 3. 新入生歓迎看板などの制作 4. オープンキャンパスへの協力 5. 女子サッカー部（なでこ下部リーグ）への協力、支援 6. デリシャスフードキッズクラブ（生活困窮世帯の子どもへの食料支援）への協力、支援
新見	未来人材育成事業	商工会議所において、地元高校生を受け入れ。地元石灰企業等の仕事内容を伝達
広島	インターンシップ（職場体験）	会員企業において、県内の大学3年生を中心に、1社あたり3～5名で約5日間受け入れ。計58社168名
尾道	広島県産業教育振興会尾三支部懇談会および企業見学会	産業界と教育界の連携強化を目的に、管内および近隣の高等学校校長・教員、地域・近隣の企業幹部との情報・意見交換会を年1回実施。また、地域内の企業の業務内容を知ることが目的に、教員による企業訪問・見学会を年1回実施
	尾道商業高等学校校外学習/尾道北高等学校講師派遣	1. 尾道商業高等学校校外学習 尾道商業高等学校の1年生を対象に、市・観光協会・商工会議所の職員を講師とし、商工会議所の会議室にて地域や商工会議所の歴史、商工業、観光などの現状を学ぶ 2. 尾道北高等学校講師派遣 尾道北高等学校の1年生を対象に、法務・金融・販売・情報・建設・医療・バイオの7つの産業分野をテーマに各業種の事業所から講師を派遣。各産業分野における仕事内容や働くことのやりがい、地元への社会貢献・地域の諸課題などを学ぶ
	インターンシップ事業	商工会議所において、中学生1名を5日間、専門学校生1名を10日間、大学生3名を延べ15日間受け入れ
呉	広島国際大学との産学連携協力、広島文化学園大学との包括連携協力	広島国際大学との産学連携協力および広島文化学園大学との包括連携協力
	広島県産業教育振興会呉支部	広島県産業教育振興会呉支部に参画
福山	ジュニアエコノミーカレッジ	小学生が5人で1つの模擬株式会社を設立し、資本金1万円（借入金は1万円まで可能）を元手に、自分たちで商品を企画販売し、商売の一連の流れを体験するプログラム
	福山少年少女発明クラブ	小・中学生を対象に、木材・電気・風力などの仕組みを教える例会を開催。計20回
府中	キャリア・スタート・ウィーク	企業約100社において、市内の中学2年生を5日間受け入れ
三次	平成29年度三次青陵高校インターンシップ受け入れ幹旋	会員企業27社において、三次青陵高等学校1年生44名を2日間受け入れ。商工会議所は、受け入れ可能な企業を高校へ紹介
	三次高等学校校定時制の特別非常勤講師幹旋	三次高等学校校定時制で実施されている「社会人講師による特別授業」に関して会員企業（経済人）から3名の講師を幹旋
	「みよし商工フェスティバル」への地元高校生の参画と「広島県高校生スペシャリストの祭典」の同時開催	地元の高校生が、みよし商工フェスティバルの運営ボランティアとして運営に参加。また、同会場で「広島県高校生スペシャリストの祭典」イベントを開催
大竹	ビジネスカレッジ	高校生を対象に、総合学科の選択科目授業で、日本の産業構造から大竹市内の企業の状況、ならびに起業に関する知識から商品企画開発等をテーマとした講義を実施。高校生が考えた商品を市内の企業にて作成してもらいイベントにおいて販売実践を行った
	就職面接を受ける心構え講座	就職を希望する高校生を対象に、就職面接開始前に、会員企業採用担当者を講師として「企業が求める人材」、「就職面接を受ける心構え」をテーマに講義を実施
	就職模擬面接会	高校生を対象に、就職面接本番前に会員企業採用担当者を相手に模擬面接会を実施
竹原	キャリア・スタート・ウィーク	地元企業および商工会議所において、市内の中学2年生を1社あたり1～2名、5日間受け入れ。計130事業所186人。働く事への関心、意欲の高揚、働く意義の理解とともに地元の産業や伝統文化を知り、地域の人々と触れ合うことによる豊かな心の育成を図る
東広島	企業PRフェスティバル	企業が大学生に自社をPR。学生は、興味のある業種の企業の説明を受ける
	就職ガイダンス	大学生を対象とした合同説明会および面接会を各1回実施
廿日市	産学官連携（包括的連携協力）	広島工業大学と包括的連携協力協定を締結、地域課題解決型実習を実施
下関	インターンシップ受け入れ事業	商工会議所において、市内大学3・4年生4名を5日間受け入れ。商工会議所の役割と事業内容を説明、空き店舗調査と分析、観光地視察などを実施
宇部	インターンシップ事業	会員企業および商工会議所において、高校生や大学生を受け入れ
下松	インターンシップ（職場体験）	商工会議所において、地元出身の学生1名を1週間受け入れ
	山口県立下松工業高等学校における職業講話	下松工業高校2年生4クラスを8つのグループに分け、8人の講師が「学生と社会人の違い」といった内容で講話を実施し、生徒の職業観の醸成や進路選択に役立ててもらおう
	学校運営協議会	学校運営協議会への参画
岩国	インターンシップ・職場体験事業	商工会議所において、市内の商業・工業高校1・2年生各1名を2日間、大学生1名を約5日間受け入れ
山陽	総合学習支援	小学生を対象に、地域の古くからある商店街でのひな祭りにおいて、おひな様の飾り付け準備などを総合学習として行い、地域の歴史文化祭りの理解を深める
小野田	山口県立小野田工業高等学校デュアル研修	会員企業および商工会議所において、地元工業高等学校校定時制1・2年生1～2名を3～5日間受け入れ。計10社（商工会議所含む）
柳井	インターンシップ事業	商工会議所において、専門学校1・2年生1～2名を5日間受け入れ

「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」集計結果

会議所名	事業名称	事業内容
新南陽	職業訓練生受け入れ	商工会議所において、公共職業安定所に求職申し込みを行っている訓練生等3名程度を1ヶ月間受け入れ
徳島	インターンシップ事業	商工会議所において、市内の大学3年生2名を5日間受け入れ
	ちびっこインターンシップ	管内の小中学生約20名を対象に中心商店街の小売・サービス業で2日間、職業体験を実施
	学校におけるキャリア教育を支援するための講演・出前授業	県内の小・中学校に会員企業経営者等を派遣し、小・中学生に対して講義を実施。勉強の大切さや働くことの大切さを説き、職業観を醸成
鳴門	ジュニアエコノミーカレッジ	小学生を対象に、4～6人1組でチームを作り、模擬株式会社を設立。商品企画・販売・経理・決算まで役割分担をしながら進める。また「大道商店街100円商店街」にて販売店舗を出店（大好き！撫養ドリームプラン）
小松島	インターンシップ事業	会員企業において、市内の高校2年生を、1社あたり1～2名、3～5日間受け入れ。計23名
阿波池田	ジュニアビジネススクール	小学生を対象に、授業の一環として、商業・会社の仕組みについて実践を通して学ぶ
高松	インターンシップ事業	商工会議所において、香川大学の学生2名、高松大学・高松短期大学生4名を5日間受け入れ。大学においては、学生に単位を与える特別講義「インターンシップ」を実施
丸亀	丸亀市キッズウィーク推進協議会	学校行事の振替休日を他の連休に続けて長期休暇とすることを検討
	産学官連携事業（シャッターアート in 商店街、ロゴマーク制作）	専門学校生徒が地域商店街のシャッターにアートを描き、地域活性化を図る。地域特産品のロゴマークを作成しPRする
坂出	インターンシップ事業	商工会議所において、香川県立坂出商業高等学校より2名を2日間受け入れ、商工会議所業務を体験
善通寺	企業委託実習	1. 商工会議所において、大学2～4年生2名を9日間受け入れ 2. 商工会議所において、市内中学校2校から3年生各2名を3日間受け入れ
	まち歩き事業	大学生50名を対象に、市内にある五ヶ寺について学ぶ講座を実施（歴史および歩き遍路）
宇和島	宇和島市ジョブチャレンジU-15	会員企業に、中学生を対象としたインターンシップ実施の機会を周知
今治	インターンシップ事業	1. 市内小中学生を対象に、船の進水式への参加と地場産業施設の見学を実施 2. 愛媛県内の工業高校生を対象に、造船・船用工場の見学を実施 3. 就職を希望する市内高校生を対象に、1日企業見学会を実施
八幡浜	租税教室講師派遣事業	小学生に、税金が社会で果たしている役割の重要性を正しく理解し、関心を持ってもらうために、小学校を訪問して「租税教室」を実施
新居浜	インターンシップ前マナー研修、就職前準備講習	中学生・高校生を対象にビジネスマナーや電話応対（ロールプレイング）、面接を受ける際の注意点などについて講習を実施
伊予	企業説明会	企業説明会を高等学校に出向き生徒に対して、1企業が20分の説明と5分の質疑応答を行うことで、地元企業のPRを実施している。参加企業16社・生徒約100名
高知	中学校への職業講師派遣	高知市内公立中学校への産業人材講師派遣
	四国地域における地域中小企業・小規模事業者の人材確保支援等事業	大学生を対象に合同企業説明会、人材育成セミナーを実施。地元企業へのコンサルティング、地元企業の周知を行っている
中村	ツルの自然体験学習会	四万十川再生事業の一環で、ツルが越冬できる条件整備を行っており、地域の小・中学校と連携し環境保全活動を実施
	租税教室	市内の小・中学校を巡回し「租税教室」を開催
安芸	ちりめん井の出前事業、ゼミナール	市の「じゃこシティ構想」（アクションプラン）の中で、毎月15日を「じゃこの日」と定め、商工会議所が事務局を務める「安芸釜あげちりめん井楽会」メンバーとともに、市内の小・中学校で出前事業、じゃこゼミナールを開催
宿毛	宿毛マラソンの支援	小・中・高校生を対象とした宿毛マラソンを全面的にサポートし、忍耐力の涵養を推進
	早春健全ジュニア駅伝の支援	小学生を対象とした早春健全ジュニア駅伝を全面的にサポートし、児童の健全育成を推進
福岡	インターンシップ事業	商工会議所において、大学3～4年生2名を10日間受け入れ
	FUKUOKA みらいフェスタ	商工会議所において、小学生以下を1日間受け入れ
	大学ネットワークふくおか	大学および都市の魅力づくりを行うことを目的として設立。高校生への情報発信や学生生活の支援事業を行う
北九州	文系インターンシップ推進モデル事業	会員企業において、文系の大学1～3年生を受け入れ。2017年度は、夏季インターンシップとして42社が82名を、春季インターンシップとして61社が88名を受け入れた
	課題解決型インターンシップ	若者の地元定着を促進するため雇用確保だけでなく、生活の場所として地域の魅力を感じてもらうため、課題解決型インターンシップ「若者のこころに響く北九州市の魅力発見・魅力発信」を実施。商工会議所において、市内の5大学の1～3年生6名を8日間受け入れ。学生自身が北九州市の魅力発見に取り組み、その魅力をどうすれば効果的に若者に伝えられるかを検討
大牟田	インターンシップ（職業体験）	商工会議所において、市内高校2校より計6名を2日間受け入れ
飯塚	中学生職業体験事業「お仕事スタジアム」	中学1年生を対象に、子ども達が将来の仕事を考えるうえで具体的なヒントとなるような様々な職種に触れるとともに、直接プロから説明を受け質問にも対応してもらおう場を設けることで、早期から自身の将来像を具体的にすることを目的とした職種説明、職種体験を実施
直方	福岡県立筑豊高等学校インターンシップ	商工会議所において、市内の県立筑豊高校2年生2名を2日間受け入れ
	直方市14才チャレンジウィーク実行委員会	直方市教育委員会が組織する実行委員会の委員長に会頭が就任。同実行委員会は職場体験を実施しており、中学2年生500名を約100社の市内企業が受け入れ。職場体験を通して地元企業を認知してもらう
柳川	求人・求職に関する合同会議	地元企業と近隣高校・高等専門学校・短期大学・大学等の進路指導担当者に呼びかけ合同会議を開催。会議では企業概要を取りまとめ冊子を作成。地元への就職状況と双方の要望等を発表し、意見交換を実施。2018年度は36社27校が参加
	柳川市中学生キャリアウィーク	会員企業において、市内全6中学校の2年生を対象に1社あたり2～3名を3日間受け入れ。計200社650名。商工会議所は、受入企業をリスト化して斡旋

会議所名	事業名称	事業内容
豊前	地(知)の拠点事業	大学と、地域(行政、経済団体、企業)との連携(共同事業実施、共同研究、課題解決等)。大学における「地域学」講座開講
苅田	キッズ・マーケット	小学生を対象とした商業体験販売学習。商店街内で1日限定の店舗を開く。商店街協力者とともに、生徒に対する事前学習会を実施。生徒は、心構えや売り方の工夫、チラシの作り方などを学習し、当日に臨む。商品の仕入れから販売、決算を通して、物流や社会の仕組み、お金の大切さなどを学習するとともに「気づき」を与えることを目的とする
宮若	インターンシップ事業	会員企業において、市内中学生を受け入れ。2016年度は中学1年生147名を3日間、2017年度は中学2年生148名を2日間受け入れた
佐賀	九州西部地域大学短期大学連合産学官連携プラットフォーム	佐賀・長崎の学生の卒業後の流出を防止するため、県域を越えて連携。具体的には、各大学の学部との長所を相互に生かし、人材育成と、地元企業を学生に知ってもらう活動
伊万里	雇用対策推進委員会	管内高校生への地元企業視察の実施、高校生を対象とした管内企業PR冊子の作成・配布、進路指導教諭との懇談会の実施
	インターンシップ事業 租税教室	商工会議所において、市内の商業高校2年生1名を3日間受け入れ 小・中・高校に講師を派遣して租税教育の授業を実施
鳥栖	インターンシップ・職場体験	商工会議所において、大学3年生1名を5日間(4回)、高校2年生2名を5日間(1回)、市内の中学1年生を2日間(1回)受け入れ
小城	インターンシップ事業	会員企業において、県内の大学1年生6名を10週間受け入れ。インターンシップ事業により空き家のリノベーションに挑戦、プレゼンテーションを実施
長崎	長崎県インターンシップ協議会	会員企業や商工会議所において、市内の大学生1~2名を7日間程度受け入れ
	長崎の魅力発見「企業見学バスツアー」、リクルート動画で情報発信支援事業	1. 高校生および教諭を対象に地場企業を見学して質疑応答を実施 2. 会員企業を対象にリクルート動画を製作・支援し、長崎工業会ホームページ等を活用して動画情報を発信
	長崎県産業教育振興会	会頭が会長、副会頭1名が副会長、専務理事が理事長を委嘱されており、同振興会の活動に貢献
佐世保	企業インターンシップ	会員企業において、長崎県立大学地域創造学部実践経済学科3年生1~10名を1ヶ月間受け入れ。計47社136名。対象学生はインターンシップ参加が必修科目となっている
	商い体験事業	小学生を対象に、商店街内の空き店舗を活用して1日商い体験を実施。体験前に民間講師として商工会議所職員が佐世保市の商業や、POPの書き方について説明。その後、生徒はお店の調査を行い、当日に向けた準備を行う
	産業教育民間講師	高校1年生200名を対象に、商工会議所職員による創業支援および創業の意義に関する説明、起業家(支援先)による体験談を実施(50分×2授業)
	リカレントキャリア教育	県外からのUJターンにより佐世保市で創業を希望する移住創業者を対象とした「移住促進ビジネスプランコンテスト」や個別相談等のリカレントキャリア教育を実施
島原	島商upp	市内の高校生を対象に、商店街の空き店舗を活用した体験型学習を実施。企画、運営から商品の仕入れ、販売までを学び、地域活性化を図ることを目的としている
諫早	長崎県立諫早商業高校学校評議員	学校運営に対する意見活動と学校運営評価を実施。学校評議員会は年2回開催
	長崎県産業教育振興会	産業界と産業教育機関の連絡提携、産業教育に関する調査研究を実施
福江	インターンシップ事業	会員企業において、市内商業高校生3~5名を1~2日間受け入れ
熊本	インターンシップ事業	商工会議所において、熊本県内の大学生3名を3日間受け入れ
	熊本県地域人材育成連携協力協定	熊本県教育委員会や他の経済団体と、キャリア教育の推進と専門教育の充実、教員の資質向上、県内企業の理解の促進、若者の地元定着の推進に向けた協定を締結
八代	熊本県産業教育振興会	熊本県産業教育振興会の役員、会員として参画。また、商工会議所が事務局を担う
	インターンシップ事業	商工会議所において、市内の商業科課程に在籍する高校2年生1名を5日間受け入れ
玉名	ジュニアエコノミーカレッジ	小学生を対象に、1チーム5名ごとに模擬会社を設立して社会、株式、税金、金利等の仕組みを学ぶ
山鹿	インターンシップ(就業体験)	商工会議所において、市内の商業高校1~2年生2名を5日間受け入れ。地域や職場の方々とコミュニケーションを通じ、職場のマナーや勤労の大切さを学ぶ
別府	ジョブカフェおおい別府サテライト事業	中・高校生および大学生を対象に、就職相談、履歴書の書き方講座、面接指導、会社説明会等を実施。また、中学生向けのインターンシップ講話や、高校生向けの職業人講話、大学生向けの出張相談会、企業への求人調査、情報提供等を実施
中津	インターンシップ事業	商工会議所において、市内の実業系高校2年生1名を3日間受け入れ
日田	ジョブカフェおおい日田サテライト	管内の高校生を対象に、地元企業による合同企業説明会を開催。地元企業をPRし、地元就職を促進。また、ビジネスマナーセミナーや生徒による集団討論講座、模擬面接、企業人講話等を開催し、生徒の就職支援を実施
	インターンシップ事業	会員企業において、就職希望の商業系・工業系の生徒数名を受け入れ
津久見	キャリア教育に係る職場体験事業	会員企業等において、市内の中学2年生を受け入れ。計22社70名。職業観の醸成や働くことの意義を知ingことを目的とする
豊後高田	高田高校キャリアアップコースインターンシップ	商工会議所において、市内普通高校2年生1名を3日間受け入れ。また、市内企業(約10社)において、市内高校2年生(計20名)を3日間受け入れ
竹田	竹田市の商店街の仕組みと商工会議所とのつながり	商店街振興組合とともに地元の小学生を対象に、商業に関する知識を養うため商店街の活動、商工会議所の活動に関する説明を実施。また、支援学校の学習内容、活動等を、会報を通じて会員企業へ周知
	職場体験実習	大分県立竹田支援学校の生徒(中学部、高等部)を受け入れ。中学部は、「ジョブチャレンジ」と称し、前期(6月)・後期(11月)の2回に分けて3日間ずつ計6日間の職場体験を実施。実習期間中は事業所に教諭が常駐する。高等部は、保護者や本人の希望、本人の特性を踏まえ、卒業後の進路を見据え、1年次から実習を実施。1年次は計10日間、2・3年次は、計30日間ずつの実習を行う。3年次は必要に応じて実習日程を追加する

「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」集計結果

会議所名	事業名称	事業内容
宇佐	宇佐地域産業リーダー育成推進協議会	農業が主管の大分県立宇佐産業科学高校内に委員会を設置、副会頭が会長に就任。地域内の各団体が集まり、農業者と商工業者がどのように高校生と関わり合っていくか等を検討
宮崎	インターンシップ事業	商工会議所において、市内商業高校2年生2名を3日間、市内工業高校2年生2名を3日間、市内大学・短期大学生3名を5日間受け入れ。商工会議所の事業内容の説明、商店街の空き店舗調査、中心市街地活性化につながるイベント運営補助業務を体験
	職業講話・意見交換会	市内中学の全校生徒を対象とした講話を実施。また、中学1年生を対象に、生徒20名につき社会人1名を配置し、働くことの意義、職業を選択する際のアドバイスなど意見交換を実施
延岡	よのなか教室	「延岡市キャリア教育支援センター」を開所。コーディネーター2名を配置し、スローガンを「延岡の大人はみな子供たちの先生」として社会人講師(よのなか先生)の募集を行いながら、市内の小・中学生や高校生に「働く喜びと苦労」を語り伝える授業として「よのなか教室」を実施
日向	キャリア教育「よのなか先生」派遣事業	市内の小・中・高校生を対象に、日向のすべての大人(よのなか先生)が働く意義や苦労を伝達 実績：小学校12校によのなか先生400名を派遣し、4,357名が受講 中学校17校によのなか先生201名を派遣し、3,093名が受講 高等学校3校によのなか先生155名を派遣し、1,917名が受講 合計32校に756名を派遣し、受講者は9,367名
	14歳のよのなか挑戦推進事業	日向市キャリア教育支援センターが市内中学校と企業との仲介役を担い、学校と企業とをマッチング。計56社において、市内中学生106名を3日間受け入れ。今後、市内の全中学校に拡大予定
	インターンシップ受け入れ事業	商工会議所において、市内の中学生および高校生2～3名を受け入れ。事務体験や特色ある事業についての研修を実施
高鍋	インターンシップ(職場体験)	会員企業において、町内の中学2年生を1社あたり2～5名受け入れ。計160名、約50社
	高鍋町キャリア教育支援センター	「高鍋町キャリア教育支援センター」を開所し、キャリア教育コーディネーター1名を配置。町内の小・中・高校と地元企業の連携を推進し、子どもたちに地元企業の魅力を伝えていく
日南	インターンシップ事業	商工会議所において、市内の商業高校2年生2名を2日間受け入れ
	グッジョブフェスタ in にちなん 2017	体育館内に市内企業のブースを設置し、小・中学生がそれぞれのブースの仕事等を体験
小林	宮崎県立小林秀峰高等学校生インターンシップ受け入れ	商工会議所において、市内の総合制専門高校2年生3名を3日間受け入れ。高校生がまちづくりや商店街イベントに関する業務を体験
	小林市キャリア教育事業	1. 「よのなか教室」事業 小林市キャリア教育支援センターにキャリア教育コーディネーターを配置し、学校と企業の懸け橋として活動。本事業に賛同する企業41社の協力を得て、市内の小・中学校に「よのなか先生」を派遣 2. 「小林近未来ハイスクール」 中・高校生と社会人が、「働くこと」、「生きること」について話し合う。子どもたちが学校という枠を超えて、将来の自分について考える場を提供
串間	県内高校と県内企業等とのネットワーク強化事業	企業関係者、高校教諭、商工会議所職員でグループディスカッションを行い、就職に関する様々な問題点を出し合って解決策を見つける
鹿児島	地方大学との連携事業	1. 食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着プログラム 2. 県内企業グローバル人材活用支援事業 3. 若年者就職支援事業 4. 地元企業若手社員とのトーク&座談会 5. 特別就職講座 ※1: 各種委員会、協議会への参加、各種イベントの案内・募集への協力 2、3、4、5: 企画、運営、広報等
	簿記普及啓発セミナー	大学生等を対象に、簿記の魅力や、検定内容に関する説明会を開催
	留学生インターンシップ	インターンシップ受入企業とインターンシップを希望する留学生への相互の情報提供を実施。会員企業を含む県内企業において、大学・短期大学・専門学校等に通う留学生を対象に、1社あたり1～2名を1～5日間受け入れ
奄美大島	チャレンジショップ	高校生を対象とした販売実習を実施
指宿	職場体験学習	商工会議所において、商業高校生1名を3～4日間受け入れ
霧島	「COC+高専」地方創生推進会議	1. 地元就業率向上と持続的定着につながる事業協同機関の連携強化 2. 地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進
	国分中央高校園芸工学科による花苗販売	国分中央高校園芸工学科の生徒が栽培した花苗の販売を、霧島商工会議所が運営する国分パークプラザビルで行い、栽培から販売までを経験することにより、職業観の醸成を図る
	小中高生によるミュージカル活動	市民手作りミュージカル(毎年定期公演を実施)の支援および定期公演以外での発表の場の提供
宮古島	租税教室、地元企業の職業紹介、職業講話(社会での役割)	小・中・高校からの依頼に基づき、会員企業を講師として派遣
浦添	インターンシップ事業	1. 商工会議所において、市内商業高校1年生3名を3日間受け入れ(2016年度) 2. 商工会議所において、市外普通高校1年生3名を3日間受け入れ(2017年度) 3. 商工会議所において、市外大学3年生2名を10日間受け入れ(2016年度) 4. 商工会議所において、市外大学3年生2名を10日間受け入れ(2017年度)
	浦添市グッジョブ連携協議会お仕事調査隊	市内中学校での講話(自社概要や仕事観について)実施のため、会員企業へ講師派遣依頼を実施

4

キャリア教育活動推進の ための参考資料

1. 表彰制度・シンポジウム

(1) キャリア教育アワード(経済産業省)

キャリア教育アワードは、商工会議所や企業等が実施するインターンシップや出前授業などのキャリア教育活動について、優秀と認められる事例を表彰するもの。これからの社会を担う子どもたちに対する社会的投資として、企業等による教育活動を促進し、こうした活動の成果を広く社会で共有することを目的に、経済産業省が2010年に創設した。最も優秀と認められる取り組みには、経済産業大臣から大賞が授与される。

第1回(2010年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/pdf/1st_award_release.pdf

※横須賀商工会議所が審査委員長賞、会津若松商工会議所青年部が優秀賞を受賞。

第2回(2011年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/pdf/2nd_award_release.pdf

※福井商工会議所青年部が大賞を受賞。

第3回(2012年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/pdf/3rd_award_release.pdf

※東京商工会議所が優秀賞を受賞。

第4回(2013年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/4th_award_report.html

※岩村田本町商店街振興組合(佐久市)が大賞を受賞。

第5回(2014年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/5th_award_report.html

※瀬戸商工会議所(瀬戸キャリア教育推進協議会)が優秀賞を受賞。

第6回(2015年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/6th_award_report.html

※京都商工会議所環境エネルギー特別委員会が奨励賞を受賞。

第7回(2016年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/7th_award_report.html

※東京商工会議所が奨励賞を受賞。

第8回(2017年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/8th_award_report.html

※株式会社ピュアタウン苅田(事務局:苅田商工会議所)が優秀賞、

仙台商工会議所青年部が奨励賞を受賞。

第9回(2018年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/9th_award_report.html

(2) キャリア教育推進連携表彰(経済産業省、文部科学省)

キャリア教育推進連携表彰は、教育関係者(学校や教育委員会等)と産業界(商工会議所などの経済団体や企業等)や地域社会(NPO法人やPTA団体等)が、相互に連携・協働しながら取り組んでいるキャリア教育活動の好事例を表彰するもの。こうした取り組みを全国へ普及・啓発するため、経済産業省と文部科学省が共同で2011年に創設した。

第1回(2011年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/pdf/1st_coop_release.pdf

※横須賀商工会議所(よこすかキャリア教育推進事務局)が最優秀賞、

瀬戸商工会議所(瀬戸キャリア教育推進協議会)が優秀賞を受賞。

第2回(2012年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/pdf/2nd_coop_release.pdf

第3回(2013年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/3rd_cooperation_report.html

※三重県商工会議所連合会が奨励賞を受賞。

第4回(2014年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/4th_cooperation_report.html

※川口商工会議所(川口若手ものづくり人材育成プロジェクト)が最優秀賞を受賞。

第5回(2015年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/5th_cooperation_report.html

※那覇商工会議所青年部が奨励賞を受賞。

第6回(2016年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/6th_cooperation_report.html

※日向商工会議所が最優秀賞を受賞。

第7回(2017年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/7th_cooperation_report.html

第8回(2018年度)

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/8th_cooperation_report.html

(3) キャリア教育推進連携シンポジウム(文部科学省、経済産業省、厚生労働省)

キャリア教育推進連携シンポジウムは、全国の優れたキャリア教育の取り組みを発表・共有することを目的に、2012年から文部科学省・経済産業省・厚生労働省の三省が合同で実施しているもので、キャリア教育アワード等の表彰式にあわせて開催している。

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/h30sympo.html>

2. インターンシップ情報

(1) 地方創生インターンシップポータルサイト (内閣官房まち・ひと・しごと創生本部)

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部は、若者の地方定着を目指した地方での就業体験(地方創生インターンシップ)を促進するために、地方公共団体や大学にとって参考となる情報を提供している。

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/internship/index.html>

(2) インターンシップ・職業体験ハンドブック(東京商工会議所)

東京商工会議所は、企業がインターンシップを受け入れる際、効果的に自社の魅力を発信し、インターンシップの学生に興味を持ってもらえるよう、「インターンシップ・職業体験ハンドブック～企業の魅力を効果的に発信しましょう～」を作成。企業がインターンシップを実践するにあたって注意すべき点や課題、終了後のフォローについて具体的に解説している。

<https://www.tokyo-cci.or.jp/person/adoption/jinzai/file/internhb.pdf>

3. 東商ジョブサイト・東商学生サイト(東京商工会議所)

東京商工会議所は、2017年度に「東商ジョブサイト」を開設。「若手社員が活躍」、「研修・教育体制が充実」など、魅力別に企業情報を掲載し、知名度ではなく、自らの価値観にあった企業選びの参考となるよう情報提供しているほか、「インターンシップ・職場体験情報」や「活躍中の若手社員の出身校や所属部署・役職」を紹介することで、学生の会社訪問をサポートしている。

<https://www.cci-job.net/>

<https://www.cci-job.net/sat/gakusei/>

4. キャリア教育コーディネーター

(1) キャリア教育コーディネーター育成ガイドライン(経済産業省)

経済産業省の「キャリア教育民間コーディネーター育成・評価システム開発研究会」が、キャリア教育コーディネーターを育成する機関において、地域社会や学校の実態に十分に配慮し、研修内容を適切に構成するための具体的な指針を定めている。

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/pdf/guideline.pdf>

(2) キャリア教育コーディネーター事例集(経済産業省、スクール・アドバイス・ネットワーク)

経済産業省が、全国で活躍するキャリア教育コーディネーターの理念、基本的な役割、有すべき知識・技能等について、29のコーディネーター事例とともに紹介している。

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/pdf/jireishu.pdf>

(3) 一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会

学校と企業の橋渡しをする「キャリア教育コーディネーター」の育成・認定やキャリア教育に関する優良事例の発掘・普及・広報活動などを実施している。

<http://www.human-edu.jp/ccec>

5. 官民協働海外留学支援制度

～トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム～ (文部科学省)

文部科学省は、2014年度に、「官民協働海外留学支援制度～トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム～」を開始。政府だけでなく、民間企業や団体からの支援・寄付などにより、官民協働で日本の高校生・大学生・大学院生の海外留学を支援している。

<https://tobitate.mext.go.jp/>

6. 子供・若者白書 (内閣府)

「子供・若者白書」は、子ども・若者育成支援推進法に基づく年次報告書として、2010年から作成されている。

2018年版の第2章第3節において、若者が将来、自立し、活躍するためには、就業し、経済的基盤を築くことが大切であり、各学校段階を通じて、社会的・職業的自立に必要な能力・態度を育てるキャリア教育に取り組むとともに、学校以外でも職業能力開発の機会の充実を図ることが重要であるとされている。

<http://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

7. 関連情報

(1) ESD (持続可能な開発のための教育) (文部科学省)

ESDとは「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development)。環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な現代社会の課題を自らの問題として捉え、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動。

<http://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm>

<https://edu.env.go.jp/whatesd.html>

(2) 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団

本法人は、職業教育・キャリア教育に関する研究および調査、教育内容の充実・高度化を促進する事業を行うとともに、職業教育・キャリア教育の普及・啓発を通じて生涯学習社会の発展を促し、職業教育・キャリア教育の振興を図っている。

<http://www.sgec.or.jp/>

(3) 一般財団法人全国大学実務教育協会

本法人は、実社会の変化に対応する実務教育課程の開発と資格授与、テキスト・教材作成、教職員研修等の事業を行っている。

<http://www.jaucb.gr.jp/>

【商工会議所キャリア教育活動白書について】

日本商工会議所は、2007年に「教育再生に関する意見」を発表して以来、商工会議所が社会総がかりでの教育再生の中心的な役割を果たすため、キャリア教育活動の取り組みを推進している。その一環として、隔年で各地商工会議所における取り組みについてアンケート調査を実施し、その結果を「商工会議所キャリア教育活動白書」として取りまとめ、活動の見える化と好事例を横展開するための参考資料として提供している。

<バックナンバーはこちら>

「商工会議所キャリア教育活動白書 Vol. 1」(2013年3月)

<https://www.jcci.or.jp/kikaku/2013kyouiku/hakusho2013.pdf>

「商工会議所キャリア教育活動白書 Vol. 2」(2015年10月)

<https://www.jcci.or.jp/kikaku/2015kyouiku/hakusho2015.pdf>

「商工会議所キャリア教育活動白書 Vol. 3」(2017年3月)

<https://www.jcci.or.jp/kikaku/2017kyouiku/hakusho2017.pdf>

商工会議所検定でスキルアップに挑戦

商工会議所とは



商工会議所は、日本の企業と地域を元気にしたいと願う民意の結晶から生まれた経済団体です。地域社会や企業で活躍できる産業人材を育成する各地域の拠点として、検定試験をはじめとする様々な事業を実施しています。今日も全国 515 の商工会議所が、日本経済の明日を拓くための取り組みを続けています。

日商簿記検定

簿記は財務・経理部門のための資格…という常識は、そろそろ捨てた方がいいようです。いまや、簿記は業種・職種を問わず企業人すべてに必要なスキルです。企業が求める資格、第1位!! の簿記検定でライバルを一步リードしましょう。

日商プログラミング検定

IoT、AI時代に必要なのは、ITを理解し、使いこなす力です。そこで注目されるのがプログラミングです。プログラミングスキルの習得は、IT利用能力を飛躍的に高めます。企業にとって、プログラミングスキルを持つ人材は、生産性を高め、成長を手助けするキーマンとなることでしょう。

日商PC検定

パソコン操作ができるのはあたり前。パソコンの検定なんて、社員に受けさせるまでもない。そう思い込んでいては、業務の生産性向上のチャンスをフイにしているかもしれません。PC検定は、企業実務に直結したパソコンスキルが身につく検定。仕事力で差がつくと大評判です。

リテールマーケティング(販売士)検定

ネット社会の進展やインバウンドへの対応など、流通・小売業界を取巻く環境は激変しています。幅広い実践的な専門知識を持ったリテールマーケティングのプロたちは、販売の現場はもちろん、さまざまな業種で顧客満足度や生産性の向上に貢献しています。

ジョブ・カード制度

中小企業にとって、人材不足はいつも悩みの種。その解決の切り札になるのが、職業訓練を通じて必要な人材を育成・確保できる「ジョブ・カード制度」です。商工会議所では、制度を活用したい企業と正社員を目指す人とのマッチングをサポートしています。

商工会議所検定の詳細はコチラ <http://www.kentei.ne.jp/>

未来を この手でつくる。

プログラミング学習に、 目標を。

2019年、
日商プログラミング検定試験開始。



IoT、AI時代に必要なのは、
ITを理解し、使いこなす力。
そこで注目されるのがプログラミングです。

プログラミングは情報技術の心臓部と言ってよく、
そのスキルの習得はIT活用能力を飛躍的に高めます。
企業にとっても、プログラミングスキルをもつ人材は、
生産性を高め、成長を続ける鍵になります。

学校教育での必修化も決定し、世間の注目が集まる今、
プログラミングを学ぶなら、日商プログラミング検定で、
スキルアップの目標・指標となる資格です。



資格取得に挑戦し、自らの未来を切り拓こう

2019年
誕生

情報技術の基盤となる「プログラミングスキル」の習得を促進・支援する

日商プログラミング検定

EXPERTレベル・STANDARDレベル・BASICレベル・ENTRYレベル

レベル	受験料(税別)	施行開始予定	資格
ENTRY	3,000円	2019年1月	Scratch
BASIC	4,000円	2019年4月	Python
STANDARD	5,000円	2019年4月	C#・Java・VBA
EXPERT	6,000円	2019年10月	C#・Java・VBA

- 初めて学ぶ方からIT技術者を目指す方まで、学習の進捗度に応じて段階的に受験できます。
- プログラミングスキルの習得に関する事項を中心とした試験内容・範囲です。
- 知識のみならず、実技でプログラミングスキルを測ります。(EXPERT・STANDARDレベルのみ)
- インターネットを介したネット試験方式で随時受験可能です。

商工会議所検定

7,700万人*の受験実績を誇る産業界の信頼ブランド
*1965年からの累計受験者数
商工会議所が実施する検定試験は、全国統一の基準の下で、年間の75万人(2017年度実績)の方々が其の大規模なもの
です。年齢や業種を問わず幅広い層の方々が、実社会で活躍するため、また、就職力を高めるためにチャレンジしています。

詳細は

日商プログラミング検定

検索

<https://www.kentei.ne.jp>

検定情報ダイヤル
(110-ダイヤル)

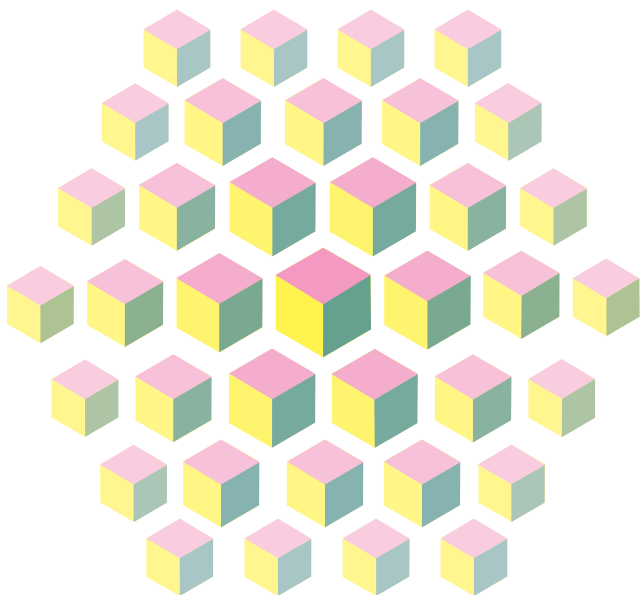
☎03-5777-8600

受付時間 8:00~22:00(年中無休)



商工会議所 キャリア教育活動白書 Vol.4

～若者の地元定着とプログラミング教育の拡大を～



日本商工会議所

The Japan Chamber of Commerce and Industry

日本商工会議所に関する情報は、

日商

検索

